気仙沼市文化財調査報告書第 16 集

# 気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書 3

## 平成 25・26 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う個人住宅等関連遺跡発掘調査

2020 年 3 月

気仙沼市教育委員会

# 序　　文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震が引き起こした巨大津波は、東日本の沿岸部を襲い、本市においても沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらし、被災家屋約 16,000 棟、被災世帯約 9,500 世帯、1,200 人を超える尊い命が犠牲となりました。

この未曾有の大震災からの一日も早い復旧・復興を目指し、個人での住宅再建をはじめ、高台への集団移転、各種産業施設やインフラ関係等で大規模な開発計画に伴い、埋蔵文化財とのかかわりが急増いたしました。

本市には、縄文時代の貝塚や集落跡、中世の城館跡など 180 か所以上の遺跡が知られていますが、これらの多くは沿岸部の丘陵地帯に立地しているため、津波の浸水域を避けた土地を求める場合、必然的に埋蔵文化財とのかかわりが発生する可能性が増大するという地理的な状況にあります。

気仙沼市教育委員会では、復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との両立を図るため、職員の再任用や任期付職員の採用に加え、宮城県や他自治体へ職員の派遣要請を行い、埋蔵文化財の発掘調査に対応する専門職員を確保するほか、宮城県教育委員会はじめ関係機関に調査支援を要請するなど調査体制を整備してまいりました。

本書は、平成 25 年度及び 26 年度に、本市が国の東日本大震災復興交付金事業として実施した、個人住宅建築等に関連する埋蔵文化財発掘調査成果を集成した報告書でありますが、収録した考古学的成果は、これまであまり知られていなかった当地域の歴史を解明する貴重な資料となるものです。

太古から幾多の大津波や自然災害を克服しながら、手強い海と深くかかわる一方、豊かな海の恩恵を受け、この地に根差した文化を育んできた人びとの営みの一端を記録し伝えることが地域の再発見につながるとともに、大震災後の本市の復旧・復興に向けたまちづくりの一助となれば幸甚に存じます。

結びに、円滑な埋蔵文化財発掘調査にご協力をいただいた事業者の皆様、宮城県教育委員会、本市の埋蔵文化財発掘調査のため支援をいただきました全国からの自治法派遣職員の皆様並びに派遣元自治体の皆様など、ご支援を頂いた多くの関係者・関係機関の皆様に厚く御礼を申し上げます。

令和２年３月

気仙沼市教育委員会
教育長　小 山　淳

# 例　　言

1　本書は、平成 25 年度・平成 26 年度に実施した東日本大震災の復興事業に伴う個人住宅建築等に係る埋蔵文化財発掘調査（復興交付金事業）の報告書である。

2　各遺跡の発掘調査は、気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財課の支援を受けて実施した。

3　各遺跡の調査図面及び出土遺物の整理、報告書作成作業は、平成 29 年度から令和元年度に気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財課の支援を受けて実施した。高谷遺跡で出土した自然遺物の同定・分析については、宮城県教育庁文化財課の全面的な協力を得た。

4　現地発掘作業における記録図面作成及び写真撮影は調査担当者が行った。

5　本書の執筆、編集は、森 千可子、青木 昭和が行った。なお、高谷遺跡出土の貝類を主とする自然遺物の分析は西村 力氏（宮城県教育庁文化財課）に依頼し、玉稿を賜った。遺物実測は主に森、青木、須藤 好直が行ったが、高谷遺跡出土石器の一部について株式会社吉田建設に業務委託し森が監理を行った。

6　周知の埋蔵文化財包蔵地にはアルファベットで遺跡略号が付与されており、本書に掲載した遺跡は、高谷遺跡：ＴＫＹ、田柄貝塚：ＴＧＫ、磯草貝塚：ＩＳＯ、前浜貝塚：ＭＡＥである。出土遺物への注記は、各遺跡略号を頭に、出土地点、層位、出土年月日を記載した。

7　発掘調査面積については本書記載のものを確定面積とする。

8　出土遺物、実測図・写真等の記録類は気仙沼市教育委員会が保管し、今後、展示・活用を図る予定としている。

# 凡　　例

1　本書における遺構略号は、ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＫ：土坑、ＳＸ：性格不明遺構等、Ｐ：ピットである。

2　挿図の縮尺は図ごとに記載した。また、図に示す方位は、磁北を基本としているが、平成 26 年度調査のトレンチ配置図については座標北を示している。なお、気仙沼市周辺の磁気偏角（2015 年値）は西偏 8° 10′ である。また、挿図に表示したグリッドは世界測地系（平面直角座標系Ｘ系）に基づいている。

3　土色は『新版標準土色帖』（小山・竹原 1996）に倣っているが、土層等の表現は現場調査担当者による注記等を採用している。ただし、本書作成にあたり一部文言の整合を行っている。

# 目　次

序　文
例　言
目　次

第１章　調査の経過
１．東日本大震災後の対応・予算措置等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
⑴東日本大震災後の対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
⑵調査体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
⑶復興交付金事業にかかる予算措置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
２．確認調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
３．本発掘調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
４．整理作業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
第２章　高谷遺跡
１．調査に至る経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
２．調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
３．調査の成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
４．まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43
第３章　田柄貝塚
１．遺跡の概要と調査に至る経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　66
２．調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　67
３．まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　68
第４章　磯草貝塚
１．遺跡の概要と調査に至る経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　71
２．調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72
３．まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　73
第５章　前浜貝塚
１．遺跡の概要と調査に至る経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　75
２．調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　76
３．まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　77
参考・引用文献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　78

報告書抄録

# 挿図目次


第 1 図　気仙沼市の位置と遺跡の分布・・・　3
第 2 図　高谷遺跡の位置図・・・・・・・・　7
第 3 図　高谷遺跡調査区配置図・・・・・・　7
第 4 図　高谷遺跡検出遺構全体図・・・・・　8
第 5 図　高谷遺跡 5区SB1 平面図・・・・・　9
第 6 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図 (1)　10
第 7 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図 (2)　12
第 8 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図 (3)　14
第 9 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図 (4)　16
第 10 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図 (5)　18
第 11 図　高谷遺跡 5区SK1・SK3・SK8・SK9 出土遺物・・・・・・・・・・・・　20
第 12 図　高谷遺跡 5区SK4・SK5 出土遺物　・　21
第 13 図　高谷遺跡 5区SK6・SK10 出土遺物　22
第 14 図　高谷遺跡 5区SK11・SK13 出土遺物　23
第 15 図　高谷遺跡 5区SK15・SK16 出土遺物　24
第 16 図　高谷遺跡 6区SK1 出土遺物 ・・・・　25
第 17 図　高谷遺跡 6区遺構平面・断面図　・・　25
第 18 図　高谷遺跡 7区遺構平面・断面図 (1)・　27
第 19 図　高谷遺跡 7区遺構平面・断面図 (2)・　28
第 20 図　高谷遺跡 7区遺構平面・断面図 (3)・　30
第 21 図　高谷遺跡 7区SK1・SK2・SK3・SK4 出土遺物・・・・・・・・・・・・　31
第 22 図　高谷遺跡 7区SK6・SK9 出土遺物（石器・円盤状土製品）・・・・・・・・・・　32
第 23 図　高谷遺跡 7区SK9 出土遺物（土器）　33
第 24 図　高谷遺跡 7区SK7 出土遺物 ・・・・　34
第 25 図　高谷遺跡 8 区遺構平面・断面図・・　36
第 26 図　高谷遺跡 8 区 SK2・SK3・SK4 出土遺物出土遺物・・・・・・・・・・・・・　37
第 27 図　高谷遺跡 9 区遺構平面・断面図・・　38
第 28 図　高谷遺跡 9 区 SK1 出土遺物・・・・　38
第 29 図　高谷遺跡 10 区遺構平面・断面図 (1)・・・・・・・・・・・・・　40
第 30 図　高谷遺跡 10 区遺構平面・断面図 (2)・・・・・・・・・・・・・　41
第 31 図　高谷遺跡 10 区 SK1・SK2・SK4・SK5 出土遺物・・・・・・・・・・・・・　42
第 32 図　高谷遺跡 12 区包含層 2 出土遺物 ・　43
第 33 図　円盤状土製品の長・短径相関図・・　44
第 34 図　円盤状土製品の長径・重量相関図・　44
第 35 図　田柄貝塚の位置図・・・・・・・　66
第 36 図　田柄貝塚調査位置図・・・・・・　66
第 37 図　田柄貝塚調査トレンチ配置図・・・　67
第 38 図　田柄貝塚出土遺物・・・・・・・・　69
第 39 図　磯草貝塚の位置図・・・・・・・　71
第 40 図　磯草貝塚調査位置図・・・・・・　71
第 41 図　平成 25 年度調査トレンチ配置図・・　72
第 42 図　平成 26 年度調査トレンチ配置図・・　73
第 43 図　前浜貝塚の位置図・・・・・・・　75
第 44 図　前浜貝塚調査位置図・・・・・・　75
第 45 図　前浜貝塚調査トレンチ配置図・・・　76
第 46 図　前浜貝塚出土遺物・・・・・・・・　77

# 表目次


第 1 表　平成２5 年度発掘調査一覧・・・・　5
第 2 表　平成２6 年度発掘調査一覧・・・・　6
第 3 表　高谷遺跡 5 区検出ピット一覧・・・　19
第 4 表　高谷遺跡 10 区検出ピット一覧・・・　41
第 5 表　高谷遺跡出土土器観察表 (1)　・・・　45
第 6 表　高谷遺跡出土土器観察表 (2)　・・・　46
第 7 表　高谷遺跡出土石器観察表 (1)　・・・　46
第 8 表　高谷遺跡出土石器観察表 (2)　・・・　47
第 9 表　高谷遺跡出土円盤状土製品・石製品観察表・・・・・・・・・・・・・・　48
第10表　土壌サンプル試料の内容・・・・・　49
第11表　田柄貝塚出土遺物観察表・・・・・　69
第12表　前浜貝塚出土土器観察表・・・・・　77


# 写真図版目次


写真図版 1　高谷遺跡発掘現場 (1)　・・・・　51
写真図版 2　高谷遺跡発掘現場 (2)　・・・・　52
写真図版 3　高谷遺跡発掘現場 (3)　・・・・　53
写真図版 4　高谷遺跡発掘現場 (4)　・・・・　54
写真図版 5　高谷遺跡発掘現場 (5)　・・・・　55
写真図版 6　高谷遺跡発掘現場 (6)　・・・・　56
写真図版 7　高谷遺跡発掘現場 (7)　・・・・　57
写真図版 8　高谷遺跡 5 区出土土器 (1)　・・　58
写真図版 9　高谷遺跡 5 区出土土器 (2)・6 区出土土器・・・・・・・・・・・　59
写真図版 10　高谷遺跡 7 区出土土器 (1)　・・　60
写真図版 11　高谷遺跡 7 区出土土器 (2)　・・　61
写真図版 12　高谷遺跡 8 区・9 区・12 区出土土器・・・・・・・・・・・・・・　62
写真図版 13　高谷遺跡出土石器 (1)　・・・・　63
写真図版 14　高谷遺跡出土石器 (2)・石製垂飾品・・・・・・・・・・・・・・　64
写真図版 15　高谷遺跡出土円盤状土製品・石製品・・・・・・・・・・・・・・　65
写真図版 16　田柄貝塚発掘現場・・・・・・・　68
写真図版 17　田柄貝塚出土遺物・・・・・・・　70
写真図版 18　磯草貝塚発掘現場・・・・・・・　74
写真図版 19　前浜貝塚２トレンチ（東から）・・　76

# 第１章　調査の経過

## １．東日本大震災後の対応・予算措置等

### ⑴ 東日本大震災後の対応

#### ①埋蔵文化財の取り扱いについて

平成 23 年３月 11 日の東日本大震災の発生を受け、文化庁は、発災後の平成 23 年４月 28 日付け（23 庁財第 61 号）で「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）」により、宮城県を含む１都７県１市の教育委員会教育長に対し、被災地の復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との整合性を図るよう通知を行った。また、平成 24 年４月 17 日付け（24 庁財第 62 号）で同名の通知を発し、宮城・岩手・福島・仙台市の３県１市の教育委員会教育長に対し、迅速な埋蔵文化財の発掘調査を実施するための留意点を示した。

これらの通知を受け宮城県教育委員会は、県内市町村に対し、事業計画の早期把握による周知の埋蔵文化財包蔵地での開発事業の回避及び発掘調査に備えた埋蔵文化財包蔵地の早期の内容把握を求めるとともに、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用、専門職員の確保や民間調査組織の導入を含めた調査体制の充実を図り、迅速な発掘調査に努め、設定した調査期間を厳守することなどの方針が示された。

気仙沼市教育委員会では、文化庁及び宮城県教育委員会の提示した方針に基づき宮城県教育委員会の協力を得ながら、迅速かつ適正な発掘調査を実施することとした。

※東日本大震災によって文化庁が発した埋蔵文化財関係の通知等

・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成23年４月28日付け23庁財第61号）

・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成24年４月17日付け24庁財第62号）

・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する平成 23 年４月 28 日付け文化庁次長通知（23 庁財第 61 号）について（通知）（平成 25 年２月 18 日 24 庁財第 691 号）

・東日本大震災の復興に伴う防災集団移転促進事業における埋蔵文化財発掘調査の実施に関する取扱いについて（通知）（平成 25 年３月 15 日付け事務連絡）

・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する取扱いについて（回答）（平成 25 年３月 15 日付け事務連絡）

※東日本大震災によって宮城県教育委員会が発した埋蔵文化財関係の通知

・東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成 23 年６月３日文第 268 号）

#### ②調査主体

東日本大震災復興交付金事業の基幹事業に位置付けられた防災集団移転事業や土地区画整理事業等の大規模な事業については、分布・試掘調査を宮城県教育委員会が行い、確認調査

及び本調査を気仙沼市教育委員会が行うこととした。同じく基幹事業に位置付けられている被災した個人住宅及び中小零細企業の店舗・工場等の再建に伴う発掘調査は、気仙沼市教育委員会が主体となり実施することとした。

気仙沼市教育委員会が主体となって行う調査については、調査内容・規模等必要に応じて随時宮城県教育委員会から専門職員の派遣を受けて実施することとした。

⑵ 調査体制

気仙沼市では、震災復興計画が策定される中で、集団移転事業など多くの開発事業が、周知の埋蔵文化財包蔵地へ影響を及ぼす可能性が高くなることが予想され、震災以前の文化財保護体制では、発掘調査を行う専門職員の不足が見込まれた。

そこで、平成 24 年 4 月に専門職員 1 名を再任用するとともに、平成 25 年 1 月には鹿児島県教育委員会からの派遣職員 1 名と、宮城県が復興事業推進のため採用した任期付職員 2 名の派遣を受け、平成 25 年度以降も全国の自治体から職員の派遣を受けるとともに、任期付職員を採用するなど発掘調査体制の強化を図った。併せて、発掘調査の規模や内容等を勘案し、宮城県教育委員会に専門職員の派遣を要請した。

本書に掲載した高谷遺跡他 3 遺跡の各年度の調査体制及び宮城県教育庁文化財保護課の調査協力は以下のとおりである。

〈平成 25 年度〉

【調査担当】 気仙沼市教委生涯学習課文化振興係

生涯学習課長　千葉 光広　　課長補佐　鈴木 實夫　　主幹兼文化振興係長　昆野 賢一

担当：主幹　幡野 寛治・原田 享二（任期付）　　技術主幹　武部 喜充（任期付 5 月まで）

主査　千葉 絢子・西園 勝彦（鹿児島県派遣）・橋本 雄一（公益社団法人松山市文化・スポーツ振興財団派遣　10 月～ 12 月）

【調査協力】 宮城県教育庁文化財保護課　小淵 忠司（岐阜県派遣）

〈平成 26 年度〉

【調査担当】 気仙沼市教委生涯学習課文化振興係

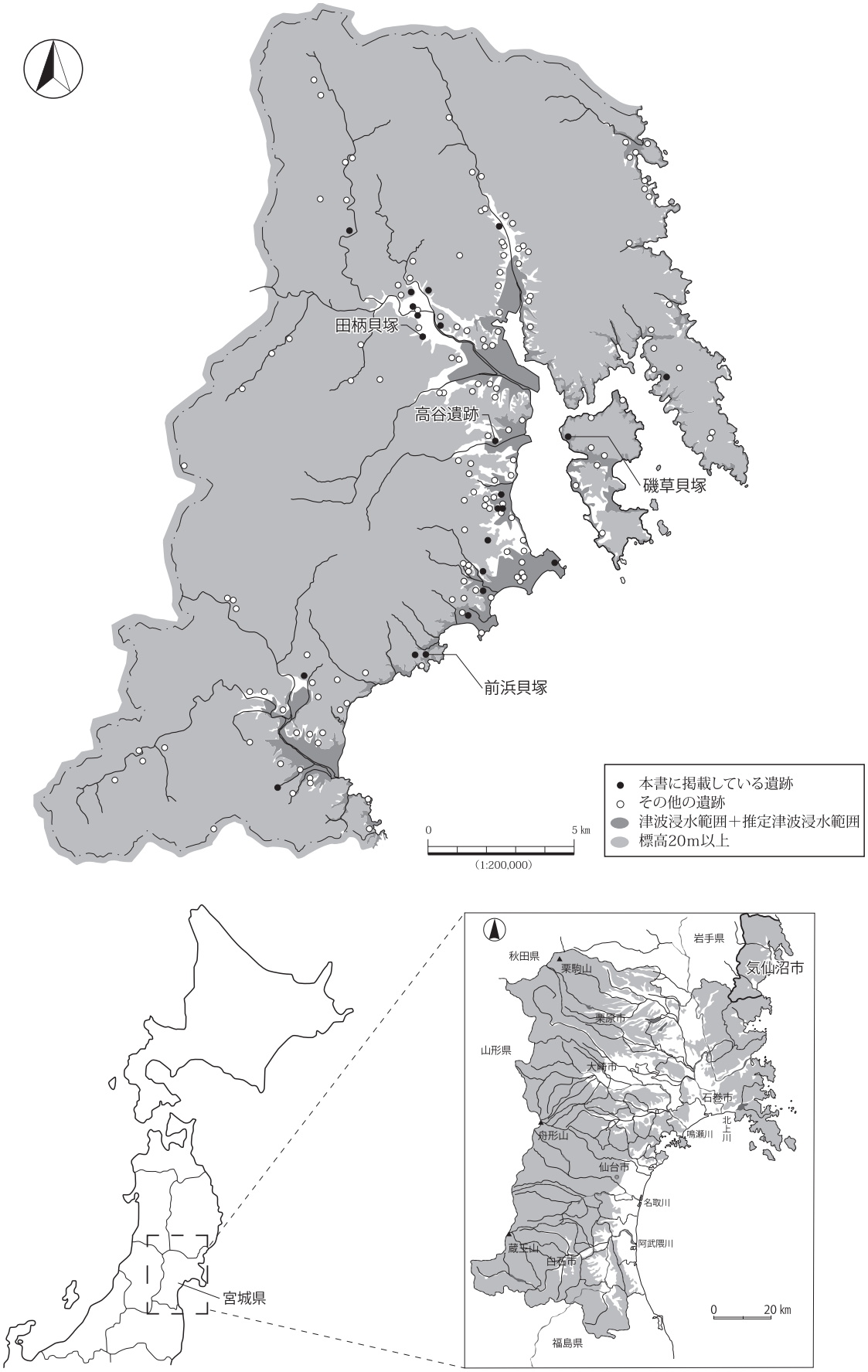
生涯学習課長　菅原 京子　　課長補佐：鈴木 實夫　　主幹兼文化振興係長　昆野 賢一

担当：主幹　幡野 寛治・原田 享二（任期付）・野﨑 進（山梨県笛吹市派遣）

主査　千葉 絢子・森 幸一郎（鹿児島県派遣）・石川 郁（任期付 1 月から）

⑶ 復興交付金事業にかかる予算措置

被災した個人住宅や中小零細企業の店舗・工場等の再建にかかる確認調査・本調査は、東日本大震災復興交付金事業の基幹事業である埋蔵文化財発掘調査事業に位置付けられている。また、これを除く防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等の復興交付金基幹事業につい




第１図　気仙沼市の位置と遺跡の分布

ては、確認調査を埋蔵文化財発掘調査事業（国庫補助事業）で行い、本調査については当該事業の中で行うこととなっている。

埋蔵文化財発掘調査事業に該当する発掘調査費用については、国費の負担割合を 75％に引き上げた上で、市が負担する 25％は地方交付税措置により補てんされることになっており、財政負担の軽減が図られている。

## ２．確認調査

気仙沼市では、平成 27 年３月時点で 180 箇所以上の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、「遺跡」）が確認されているが、その多くが沖積地に隣接した丘陵や段丘上に所在する。第１図は気仙沼市の遺跡の分布と東日本大震災の津波浸水域を示したものである。ほとんどの遺跡が津波の浸水を逃れていることがわかるが、逆の見方をするならば、被災者の個人住宅再建や高台移転等の候補地に多くの遺跡が分布しているということになる。

震災復興に係る遺跡の取り扱いは、現地保存を前提とし、やむを得ず本調査を実施する場合も、掘削範囲を必要最小限に留めている。

調査に際しては、復興事業にかかる調査の円滑化・迅速化を推進するため、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用がなされた。

平成 25 年度に実施した確認調査は第１表に示したとおり 26 件であり、内訳は個人住宅建設やそのための造成工事、宅地接続のための私道築造などに伴うものが 23 件、中小零細企業の再建に伴う調査が２件、公立学校仮設運動場整備に伴う調査が１件であった。

そのうち確認調査において遺構・遺物が確認されたものは 10 件あり、高谷遺跡、猿喰東館跡については本発掘調査を実施した。

平成 26 年度に実施した確認調査は前年度より大きく減少し 11 件であったが、すべてが個人住宅建設等に伴うものであった。なお、本発掘調査を実施したものはなかった。

## ３．本発掘調査

平成 25 年度に本事業で実施した本発掘調査は高谷遺跡、猿喰東館跡の２遺跡、７件である。

いずれも被災者が行う個人住宅再建やそれに付随する工事に伴うもので、確認調査で遺構や遺物包含層等が確認され、工事計画上、現地保存が不可能であったため本発掘調査に移行したものである。調査は、掘削が及ぶ範囲に保護層を考慮した必要最小限の範囲を対象とした。

本書では、平成 25 年度に本発掘調査・確認調査を実施し、遺構・遺物が検出された遺跡について報告するが、猿喰東館跡（第１表 20）については整理作業の都合上、別途報告することとした。

## ４．整理作業・報告書作成

本書に係る整理作業及び報告書作成作業は、宮城県教育庁文化財保護課の協力を得ながら気仙沼市文化財収納庫で行った。また、作業の効率化を図るため、一部の石器実測図等の作成を民間調査組織に業務委託した（平成 30 年 11 月 22 日から平成 31 年 1 月 31 日）。

なお、整理作業・報告書作成の担当者は以下のとおりである。

平成 29 年度：森 千可子、平木場 秀男（鹿児島県派遣）

平成 30 年度：森 千可子、西村 力（宮城県教育庁）、青木 昭和（富田林市派遣）

令和元年度：森 千可子、青木 昭和（富田林市派遣）、須藤 好直（任期付）

第１表　平成 25 年度発掘調査一覧

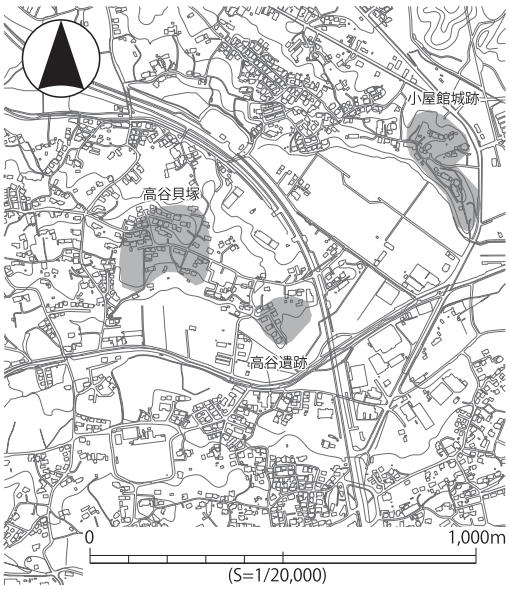
| No | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡略号 | 所在地 | 調査原因 | 対応 | 対象面積（㎡） | 調査面積（㎡） | 調査期間 | 発見された遺構・遺物 | 調査担当者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 長浜貝塚 | 63003 | NHK | 唐桑町鮪立 | 個人住宅 | 確認調査 | 386.35 | 386.00 | 4 月 11 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 2 | 田柄貝塚 | 59013 | TGK | 茗荷沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 227.00 | 45.00 | 4 月 17 日～4 月 22 日 | 縄文土器・石器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | 本書掲載 |
| 3 | 堀合館跡 | 62007 | HOR | 波路上内田 | 個人住宅 | 確認調査 | 459.00 | 105.00 | 5 月 23 日～5 月 24 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 4 | 川原崎遺跡 | 59105 | KAW | 川原崎 | 個人住宅 | 確認調査 | 516.00 | 27.00 | 5 月 31 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 5 | 南最知城跡（第１次） | 59044 | MSJ | 長磯鳥小沢 | 仮設運動場整備 | 確認調査 | 5120.00 | 195.00 | 6 月 18 日～6 月 21 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 6 | 高谷遺跡（11 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 426.08 | 6.00 | 6 月 24 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 7 | 三島古墳群 | 62001 | MIS | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 566.48 | 140.00 | 6 月 25 日～6 月 27 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 8 | 野々下遺跡（第１次） | 62042 | NON | 本吉町野々下 | 個人住宅 | 確認調査 | 323.87 | 18.00 | 7 月 9 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 9 | 野々下遺跡（第２次） | 62042 | NON | 本吉町野々下 | 個人住宅 | 確認調査 | 330.58 | 18.00 | 7 月 9 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 10 | 月立台遺跡 | 59008 | TDD | 台 | 個人住宅 | 確認調査 | 241.85 | 15.00 | 7 月 31 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 11 | 高谷遺跡（5 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査<br>本発掘調査 | 737.08 | 490.00 | 8 月 6 日～11 月 22 日 | 土坑・ピット<br>縄文土器・石器・自然遺物（貝類等） | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一<br>（宮城県）小淵忠司 | 本書掲載 |
| 12 | 高谷遺跡（7 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査<br>本発掘調査 | 543.66 | 222.00 | 8 月 6 日～9 月 10 日 | 土坑・ピット<br>縄文土器・石器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一<br>（宮城県）小淵忠司 | 本書掲載 |
| 13 | 高谷遺跡（12 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 734.46 | 128.00 | 8 月 6 日～8 月 9 日 | 縄文土器・石器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | 本書掲載 |
| 14 | 磯草貝塚 | 59001 | ISO | 磯草 | 個人住宅 | 確認調査 | 817.58 | 35.00 | 8 月 21 日 | 縄文土器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | 本書掲載 |
| 15 | 高谷遺跡（6・10 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 私道整備 | 確認調査<br>本発掘調査 | 434.56 | 240.00 | 9 月 20 日～11 月 8 日 | 土坑・ピット<br>縄文土器・石器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | 本書掲載 |
| 16 | 蕨野遺跡 | 62048 | WAR | 本吉町蕨野 | 個人住宅 | 確認調査 | 603.05 | 8.00 | 10 月 8 日 | なし | 鈴木 實夫・橋本 雄一 | |
| 17 | 高谷遺跡（8・9 区） | 59109 | TKY | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査<br>本発掘調査 | 367.90 | 120.00 | 10 月 10 日～11 月 21 日 | 土坑<br>縄文土器・石器 | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一<br>（宮城県）小淵忠司 | 本書掲載 |
| 18 | 岩井崎遺跡 | 59029 | IWA | 波路上岩井崎 | 中小企業等 | 確認調査 | 980.12 | 52.00 | 11 月 11 日 | なし | 鈴木 實夫・橋本 雄一 | |
| 19 | 堀合館跡 | 62007 | HOR | 本吉町後田 | 個人住宅 | 確認調査 | 914.73 | 70.00 | 11 月 13 日・12 月 3 日 | 溝 | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一 | |
| 20 | 猿喰東館跡 | 59045 | SAR | 最知北最知 | 個人住宅 | 確認調査<br>本発掘調査 | 2,061.89 | 1,536.00 | 11 月 18 日～26 年 6 月 5 日 | 堀跡・柱穴・土坑・近世墓・中世陶器・磁器・土器・石器・銭貨・銅製品・鉄製品 | 鈴木 實夫・野崎 進・橋本 雄一<br>（宮城県）伴瀬 宗一<br>加藤 勝仁・鈴木 啓司<br>傳田 惠隆 | 別途報告予定 |
| 21 | 南最知城跡（第２次） | 59043 | MSJ | 長磯原ノ沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 659.96 | 6.00 | 11 月 21 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一 | |
| 22 | 南最知城跡（第３次） | 59044 | MSJ | 長磯原ノ沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 462.21 | 8.00 | 11 月 21 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦<br>橋本 雄一 | |
| 23 | 堀合館跡 | 62007 | HOR | 本吉町後田 | 中小企業等 | 確認調査 | 782.00 | 50.00 | 11 月 28 日 | なし | 鈴木 實夫・西園 勝彦 | |
| 24 | 中館跡 | 59057 | NAK | 松川 | 個人住宅 | 確認調査 | 211.87 | 5.00 | 12 月 26 日 | なし | 西園 勝彦 | |
| 25 | 旭岡遺跡 | 62010 | ASA | 本吉町津谷桜子 | 中小企業等 | 確認調査 | 607.27 | 22.00 | 1 月 15 日 | なし | 昆野 賢一・西園 勝彦 | |
| 26 | 南最知貝塚<br>最知中館跡 | 59035<br>59041 | MSK<br>SAN | 最知南最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 359.00 | 6.00 | 2 月 1 日 | なし | 鈴木 實夫 | |

## 第２表　平成 26 年度発掘調査一覧

| No | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡略号 | 所在地 | 調査原因 | 対応 | 対象面積（㎡） | 調査面積（㎡） | 調査期間 | 発見された遺構・遺物 | 調査担当者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前浜貝塚 | 62040 | MAE | 本吉町前浜 | 個人住宅 | 確認調査 | 707.00 | 62.00 | 5 月 8 日 | 縄文土器 | 昆野 賢一・野崎 進 | 本書掲載 |
| 2 | 平館遺跡<br>平館跡 | 59027<br>59055 | TAI<br>TRT | 松川前 | その他開発 | 確認調査 | 2,939.00 | 131.00 | 5 月 12 日～<br>5 月 13 日 | 土坑・溝 | 幡野 寛治・森 幸一郎 | |
| 3 | 田柄貝塚 | 59013 | TGK | 茗荷沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 482.64 | 12.00 | 5 月 20 日 | なし | 森 幸一郎 | |
| 4 | 赤岩城跡<br>（第 1 次） | 59032 | AKA | 松川 | 個人住宅 | 確認調査 | 330.63 | 4.00 | 6 月 2 日 | なし | 野崎 進 | |
| 5 | 赤岩城跡<br>（第 2 次） | 59032 | AKA | 松川 | 個人住宅 | 確認調査 | 331.01 | 4.00 | 6 月 2 日 | なし | 野崎 進 | |
| 6 | 磯草貝塚 | 59001 | ISO | 磯草 | 個人住宅 | 確認調査 | 555.40 | 103.00 | 6 月 17 日～<br>6 月 18 日 | なし | 鈴木 實夫・野崎 進 | 本書掲載 |
| 7 | 西中才貝塚 | 59017 | NNS | 西中才 | 個人住宅 | 確認調査 | 341.97 | 3.00 | 9 月 5 日 | なし | 鈴木 實夫・昆野 賢一 | |
| 8 | 長崎城跡 | 59064 | NAJ | 舘山 | 公営住宅 | 確認調査 | 3,670.00 | 206.00 | 10 月 7 日～<br>10 月 9 日 | 土師器 | 鈴木 實夫 | |
| 9 | 三島古墳群 | 62001 | MIS | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 455.00 | 63.00 | 11 月 11 日 | なし | 鈴木 實夫 | |
| 10 | 峰岸館跡 | 62025 | MGT | 本吉町坊の倉 | 私道整備 | 確認調査 | 58.00 | 35.00 | 11 月 19 日 | なし | 鈴木 實夫・昆野 賢一 | |
| 11 | 府中館跡 | 62027 | MFU | 本吉町前浜 | 個人住宅 | 確認調査 | 442.00 | 26.00 | 2 月 5 日 | なし | 野崎 進 | |
| 12 | 最知中館跡 | 59041 | SAN | 最知南最知 | 中小企業等 | 確認調査 | 400.16 | 91.09 | 3 月 7 日 | なし | 鈴木 實夫 | |

# 第２章　高谷遺跡

遺跡名：高谷遺跡
（宮城県遺跡地名表登載番号 59109）
所在地：気仙沼市松崎高谷
調査原因：個人住宅建設
調査期間：平成 25年８月６日～ 11月 22日
対象面積：2,817.66㎡（調査面積：1,200㎡）
調査員：鈴木 實夫、西園 勝彦、橋本 雄一、
小淵 忠司（宮城県支援）

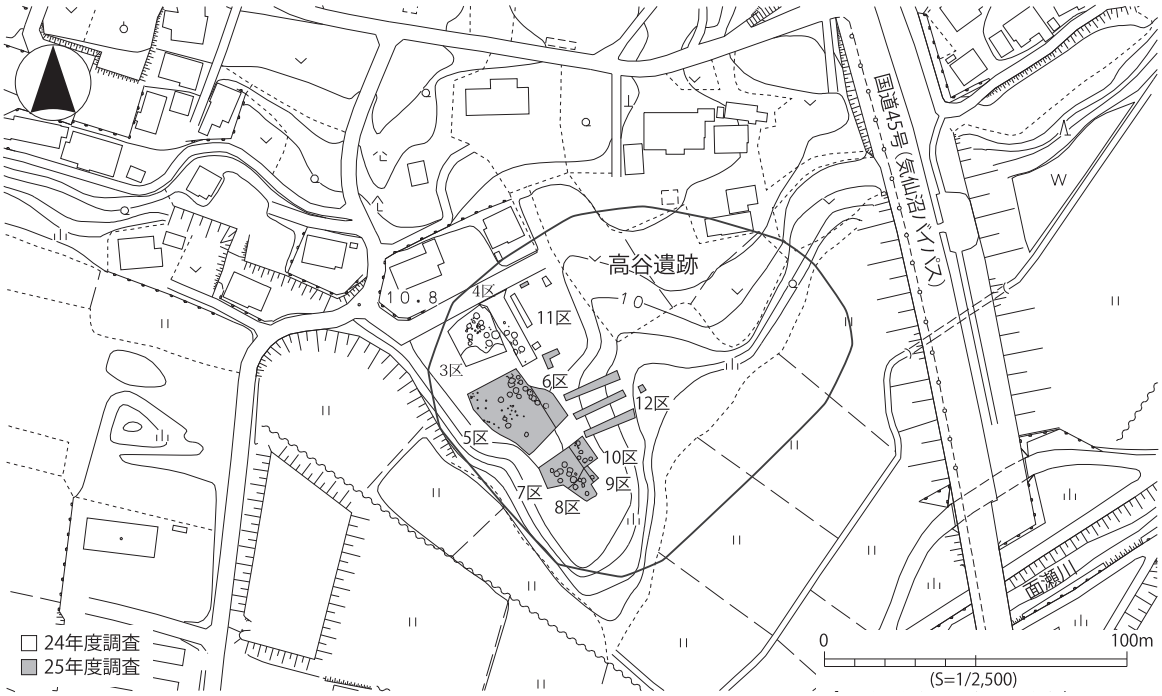


第２図　高谷遺跡の位置図

## １．調査に至る経過

高谷遺跡は、気仙沼湾に向かって東流する面瀬川の北側にある東西方向に延びる丘陵端部南斜面、南東へ向かって張り出す箇所に位置し（第２図）、縄文時代の散布地として登録されている。遺跡範囲の南西部ではこれまで５次に渡る調査が行われ、丘陵尾根上に縄文時代中期末～後期初頭の土坑群が、北東斜面を中心に遺物包含層が分布することが分かっている。

今回の報告は、個人住宅建築および私道建設に伴う平成 25年度の調査についてである。対



第３図　高谷遺跡調査区配置図

象地は遺跡範囲の北東部、南東へ向かって張り出す枝丘陵の付け根にあたる（第３図）。

確認調査を行ったところ土坑及びピットを検出したが、建築工法上、遺構の現状保存は難しいため、本発掘調査を実施した。

## ２．調査の概要

調査区は工事の進展に合わせて、住宅部分に５区・７区・８区・12区、私道部分に６区・９区・

第４図　高谷遺跡検出遺構全体図

10区を設定した(第４図)。遺構はいずれも地山面で検出した。

５区では土坑 16基、ピット 28基、貝捨て遺構１基、遺物包含層を検出し、土器類 10箱、石器類８箱、自然遺物(貝類等) ５箱が出土した。６区では土坑１基を検出し、土器類１箱が出土した。７区では土坑９基、ピット２基を検出し土器類５箱、石器類３箱が出土した。8区では土坑５基を検出し、土器類２箱、石器類３箱が出土した。９区では土坑１基を検出し、土器類、石器類それぞれ１箱が出土した。10区では土坑５基、ピット６基を検出し、土器類１箱、石器類２箱が出土した。11区は平成 24年度の確認調査で遺構は検出されなかったが、浄化槽設置に伴う確認調査を実施した。遺構・遺物は検出されなかった。12区では遺物包含層を検出し、土坑１基を検出し、土器類２箱、石器類１箱が出土した。

なお、遺構番号は調査区ごとに付した。

## ３．調査の成果

### ⑴５区

【SB1掘立柱建物跡】(第５図)

［構造］東西１間×南北２間

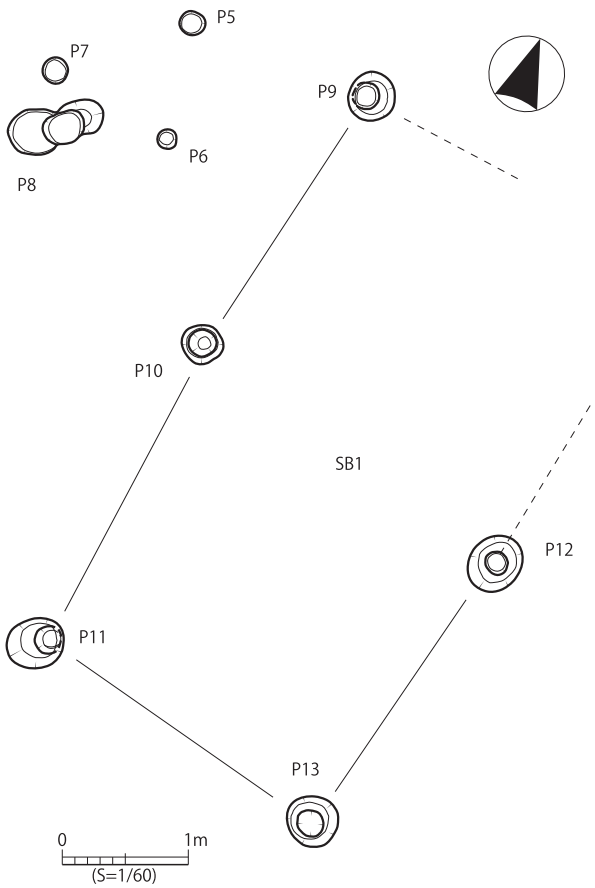
［規模］南北約 5.0m、東西約 2.5m。柱間寸法は南北が北から約 2.0m・約 2.3m、東西が約 2.1mである。

［柱穴・柱痕跡］柱穴は５個検出し、このうち全てに柱痕跡が認められた。柱穴の平面形は直径 30cmから 50cmの不整な円形を呈し、深さは 18cmから 48cmである。

柱痕跡は直径 15cmから 20cmの円形を呈する。堆積土は堀方埋土が地山ブロックを含む暗褐色シルト、柱痕跡が暗褐色シルトである。

［方向］西側柱列で北で東に約 10度偏している。

［遺物］P10から石器片が出土したが、他のピットから遺物は出土していない。




第５図　高谷遺跡５区 SB1 平面図

【SB2掘立柱建物跡】(第６図)

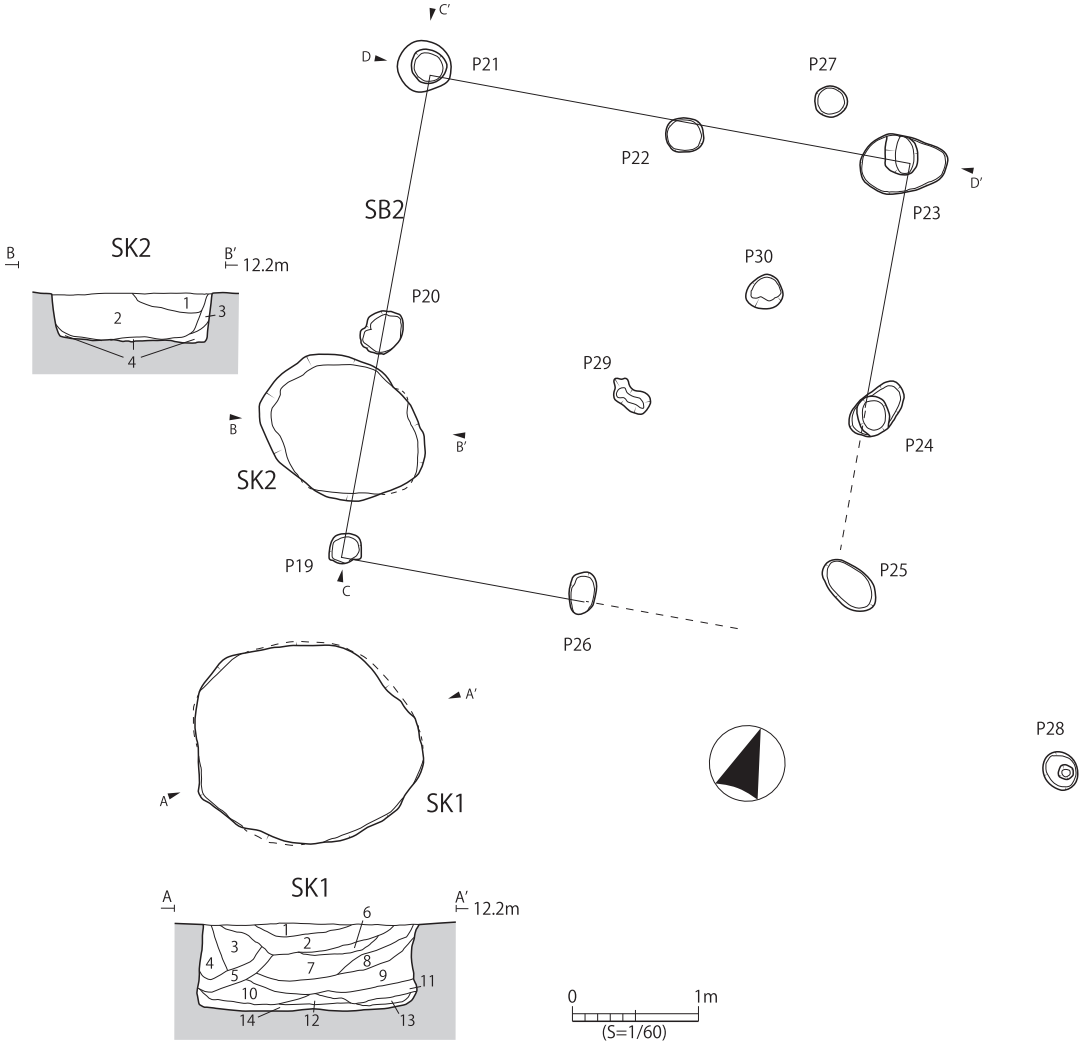
［構造］東西２間×南北２間

［重複］SK2、P29・30と重複するが、新旧関係は不明である。

［規模］南北、東西ともに約 4.7m。柱間寸法は南北が北から約２m・約 1.7m、東西が西から

約 2m、約 1.7mのほぼ正方形のプランと考えられる。

［柱穴・柱痕跡］柱穴は７個検出し、このうち３個で柱痕跡もしくは抜き取り痕が認められた。




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | なし | 黄色(2.5Y8/6)土を斑点状に含む、炭化物を含む |
| | 2 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 黄色(2.5Y8/6)土を斑点状に含む、炭化物・土器片を多く含む |
| | 3 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 淡黄色(2.5Y8/4)土をわずかに含む、炭化物・焼土を少量含む、土器片を含む |
| | 4 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 明黄褐色(10YR7/6)土をブロック状に含む |
| | 5 | 10YR4/4 | 褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む |
| | 6 | 10YR5/6 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 黄色(2.5Y8/6)土を斑点状に含む。炭化物・焼土を少量含む |
| | 7 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 6層より黄色土が少ない、炭化物を含む、径5cm前後の礫を含む |
| | 8 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 黄色(2.5Y8/6)土を斑点状に含む、径5cm前後の礫を含む |
| | 9 | 10YR7/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 10 | 10YR5/2 | 灰黄 | 粘土 | ややあり | あり | 明黄褐色(10YR7/6)土をまだらに含む、径5cm前後の礫を含む |
| | 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を多く含む |
| | 12 | 7.5YR6/8 | 橙 | 粘質シルト | ややあり | あり | 淡黄色(2.5Y8/4)土をまだらに含む |
| | 13 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 14 | 7.5YR5/6 | 明褐 | 粘土 | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| SK2 | 1 | 10YR6/6 | 明黄褐 | シルト | あり | なし | わずかに炭化物を含む |
| | 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 暗褐色(10YR3/4)土をまだらに含む、炭化物を含む |
| | 3 | | | | | | （記録なし） |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | 粘土 | あり | あり | 明黄褐色(10YR6/8)土をブロック状に含む |

第６図　高谷遺跡５区遺構平面・断面図（1）

柱穴の平面形は直径 20cmから 60cmの不整な円形を呈し、深さは 10cmから 22cmである。

柱痕跡は直径 25cmから 40cmの円形を呈する。堆積土は堀方埋土が地山ブロックを含む暗褐色シルト、柱痕跡が暗褐色シルトである。

［方向］西側柱列で北で西に 12度偏している。

［遺物］出土していない。

【SK1土坑】（第６図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁は下端で丸みを帯びながら直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.8m、短軸約 1.6m、深さ約 0.7m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 11図１～４）、石鏃（第 11図５）のほか、各層から縄文土器片、石錐・石材剥片等が出土した。

【SK2土坑】（第６図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がる。

［規模］長軸約 1.4m、短軸約 1.1m、深さ約 0.4m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］遺物は出土していない。

【SK3土坑】（第７図）

［平面形］円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は下端で丸みをおびながら垂直気味に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］直径約 1.7m、深さ約 0.8m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 11図 8～ 11）、円盤状土製品（第 11図 12）のほか、各層から縄文土器片、石材剥片が出土した。

【SK4土坑】（第７図）

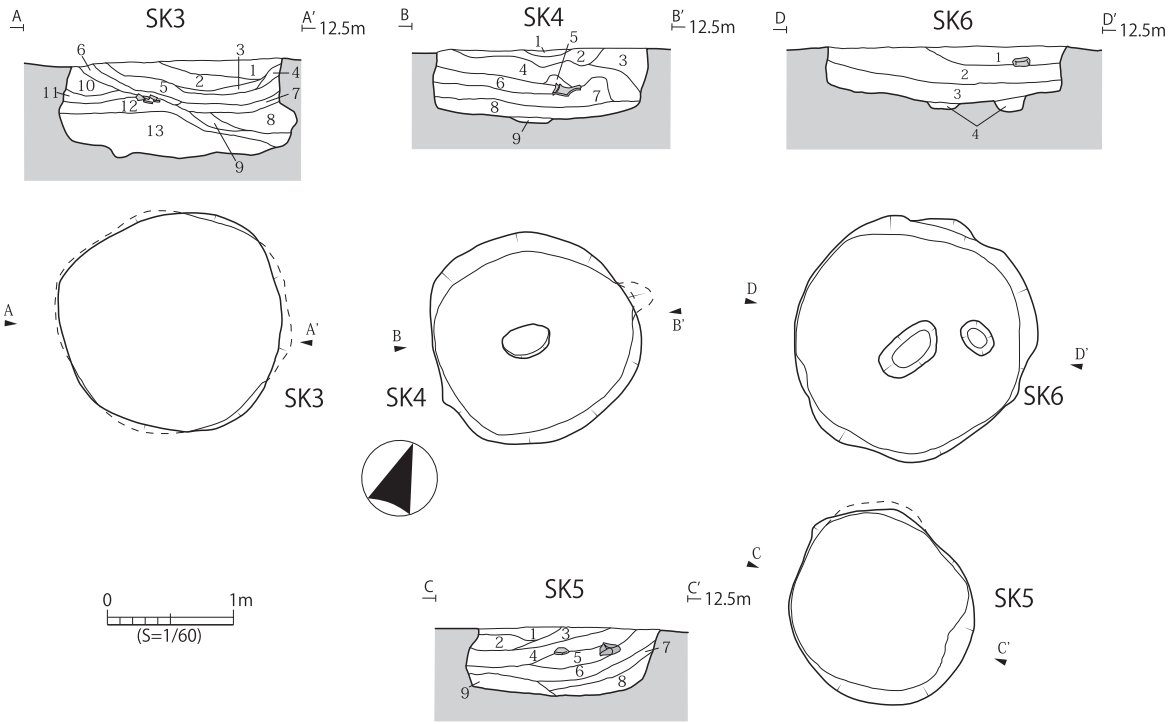
［平面形］不整円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は直角に立ち上がり、ややフラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.6m、深さ約 0.5m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中 5層・６層を中心に縄文土器の深鉢（第 12図 7）、擦石（第 12図１）、石皿（第




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK3 | 1 | 2.5YR4/4 | にぶい赤褐 | シルト | あり | なし | 炭化物を含む、灰白色(2.5Y8/1)、淡黄色(2.5Y8/3)の小礫を斑点状に含む |
| | 2 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 淡黄色(2.5Y8/4)の小礫を斑点状に含む、径3cm前後の礫を多く含む |
| | 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 淡黄色(2.5Y8/4)の小礫を斑点状に含む |
| | 5 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 明黄褐色(10YR7/6)の小礫・炭化物を少量含む |
| | 6 | 10YR2/2 | 黒褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む |
| | 7 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む、黄橙色(10YR7/8)の小礫を含む |
| | 8 | 10YR7/8 | 黄橙 | 粘質シルト | あり | あり | 黄褐色(10YR5/8)土をまだらに含む、炭化物を少量含む |
| | 9 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 10 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 径5cm前後の礫・炭化物を含む |
| | 11 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 10層と12層が混じる。炭化物を含む |
| | 12 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物・土器片を多く含む |
| | 13 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | アマ岩を多く含む |
| SK4 | 1 | 2.5YR8/4 | 淡黄 | 砂質シルト | あり | なし | 暗褐色(10YR3/4)土をブロックで含む |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐 | 砂質シルト | あり | なし | 焼土・炭化物を含む |
| | 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 焼土・炭化物・地山ブロックを含む |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | 砂質シルト | あり | なし | 炭化物・暗褐色(10YR3/4)土を含む |
| | 5 | 10YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | ややあり | 径1cmまでの小礫を含む |
| | 6 | 10YR2/3 | 黒褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 径5mm前後の小礫を含む |
| | 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 炭化物・土器を多く含む、5cm以上の礫を含む |
| | 8 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 同色土が斑点状に含まれる |
| | 9 | 10YR4/6 | 褐 | 粘土 | あり | あり | 焼土・炭化物を少量含む（底面ピット埋土） |
| SK5 | 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | なし | 褐色(10YR4/6)土をブロックで含む・炭化物を含む |
| | 2 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | なし | 暗褐色(10YR3/4)土を斑点状に含む |
| | 3 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | あり | なし | 炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 長径10cmの礫・炭化物を含む、地山ブロックを多く含む |
| | 5 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 径20cm前後の礫・炭化物を含む |
| | 6 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 径10cm前後の礫・炭化物・焼土を含む |
| | 7 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を少量含む、地山粒を多く含む |
| | 8 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 壁際に10cm前後の礫を多く含む |
| | 9 | 5YR3/3 | 暗赤褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 焼土層、地山粒を含む |
| SK6 | 1 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | あり | なし | 5～14cmの礫を含む、炭化物を少量含む |
| | 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | あり | なし | 10cm前後の礫・炭化物を含む |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | 砂質シルト | あり | なし | 暗褐色(10YR3/3)土・10cmまでの礫を含む、炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘土 | なし | あり | 地山粒を含む |

第７図　高谷遺跡５区遺構平面・断面図（2）

12図２)、石鏃(第 12図３・４)、石錐(第 12図５・６) のほか、縄文土器片、石器類(剥片を含む)が出土した。

【SK5土坑】(第７図)

［平面形］不整円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪んでいる。壁は下端で丸みを帯びてほぼ直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.6m、短軸約 1.4m、深さ約 0.5m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中から、棒状の不明石器 2点(第 12図８・９)、擦石(第 12図 10)、石製垂飾品(第 12図 11)、縄文土器の深鉢(第 12図 13) のほか、各層から縄文土器片、石器類(剥片を含む)が出土した。

【SK6土坑】(第７図)

［平面形］円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、中央部に長軸約 50cm、短軸約 30cm、深さ約５cmのピット、東側に長軸約 30cm、短軸約 20cm、深さ約 10cmのピットが認められた。壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］直径約 1.8m、深さ約 0.5m

［堆積土］自然堆積土

［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢(第 13図１・２)、砥石(第 13図３)、石鏃(第 13図４・５)のほか、縄文土器片、石材剥片が出土した。

【SK7土坑】(第８図)

［平面形］不整円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪んでいる。壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面中央と西南隅に浅い落ち込みが見られる。

［規模］長軸約 1.2m、短軸約 1.1m、深さ約 0.3m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］石鏃片が１点出土した。

【SK8土坑】(第８図)

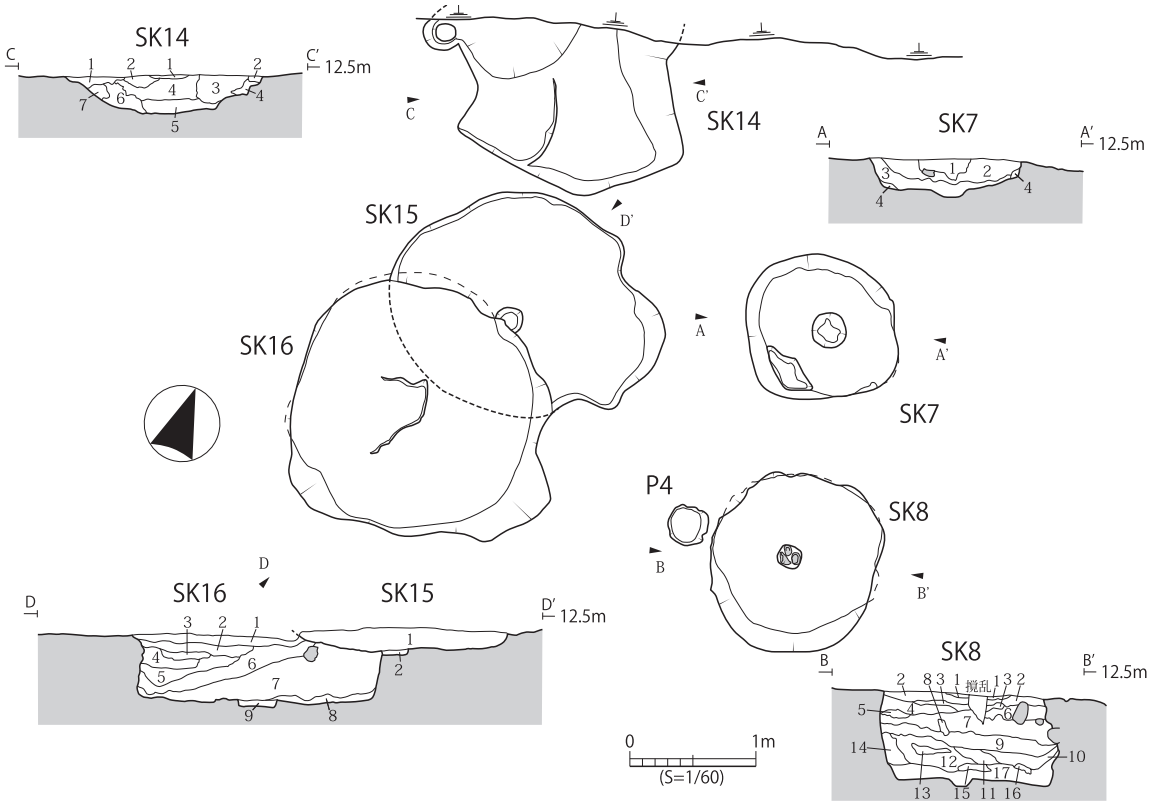
［平面形］不整円形

［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面に礫が混入した直径約 20cm、深さ約５cmのピットを有する。

［規模］長軸約 1.4m、短軸約 1.3m、深さ約 0.7m

［堆積土］一部にブロック状の堆積が見られ人為的埋土と考えられる。

［遺物］中位層を中心に縄文土器深鉢(第 11図 13)、アスファルトの付着した石鏃(第 11図




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK7 | 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | シルト | | | 黄灰色土少量含む（撹乱土か？） |
| | 2 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト | あり | | 黄灰色土少量含む、径3～10mmの地山土を少量含む |
| | 3 | 2.5Y5/3 | 黄褐 | シルト | | | 黄灰色土少量含む、径3～10mmの地山土を少量含む |
| | 4 | 2.5Y5/4 | 黄褐 | シルト | | | 黄灰色土少量含む |
| SK8 | 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | 砂質シルト | あり | | 炭化物由来の黒褐色シルトを含む |
| | 2 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 砂質シルト | あり | | 黄灰色土少量含む、径2mm前後の炭化物粒少量含む |
| | 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 砂質シルト | あり | | 径2～8mmの炭化物粒・径2mm前後の焼土粒を少量含む |
| | 4 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 砂質シルト | あり | | 2層と同質。径2～10mmの風化砂岩礫を少量含む |
| | 5 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 砂質シルト | あり | | 4層と同質だが色調はやや暗い |
| | 6 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 砂質シルト | | | 径5～10mmの炭化物粒・風化砂岩粒を少量含む |
| | 7 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 砂質シルト | あり | | 3層に近似。径10mm前後の炭化物少量含む、径2～5mmの風化礫を含む |
| | 8 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 砂質シルト | あり | | 7層と共通。地山粒を含む |
| | 9 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 砂質シルト | | | 7層より明るい色調、径1～10mmの炭化物を少量含む |
| | 10 | 2.5Y5/3 | 黄褐 | シルト | | 強 | 炭化物・焼土を少量含む |
| | 11 | 2.5Y5/3 | 黄褐 | シルト | | 強 | 10層と共通、色調やや明るい |
| | 12 | 2.5Y6/4 | にぶい黄 | シルト | | 弱 | 地山粒多く混じる、焼土粒少量含む |
| | 13 | 2.5Y5/3 | 灰黄 | シルト | | 弱 | 地山粒含む、焼土粒少量含む |
| | 14 | 2.5Y6/6 | 明黄褐 | シルト | | 強 | 炭化物粒少量含む |
| | 15 | 2.5Y6/6 | 明黄褐 | シルト | | | 径1～3mmの焼土粒を多く含む、地山粒を少量含む |
| | 16 | 2.5Y5/6 | 黄褐 | シルト | | | 径1～2cmの地山ブロックを含む |
| | 17 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト | | 強 | |
| SK14 | 1 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 砂質シルト | | | 径1～5mmの地山粒を少量含む（撹乱土か） |
| | 2 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 砂質シルト | | | 径10～25mmの礫を少量含む（撹乱土か） |
| | 3 | 7.5YR6/2 | 灰褐 | 砂質シルト | | | 径1～3mmの砂粒を多く含む、風化礫を少量含む |
| | 4 | 7.5YR6/6 | 橙 | 砂質シルト | あり | あり | 径1～3mmの砂粒を多く含む |
| | 5 | 7.5YR6/6 | 橙 | 砂質シルト | あり | あり | 4層と共通だがマンガン粒の沈着多い |
| | 6 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 砂質シルト | | やや弱 | 径1mmの砂粒を少量含む |
| | 7 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 砂質シルト | | | 6層に地山粒を含む |
| SK15 | 1 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | 砂質シルト | あり | なし | 径2～10mmの風化砂岩片を少量含む |
| | 2 | 10YR4/4 | 褐 | 砂質シルト | あり | なし | 地山粒ごく少量含む |
| SK16 | 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 径1～5mmの風化砂岩片を小量含む |
| | 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 黄色地山粒含む、径1～10mmの礫を少量含む |
| | 3 | 10YR5/2 | 黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 径1～5mmの礫・炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 地山・炭化物ともに少量含む |
| | 5 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 7層よりやや暗い色調、地山・炭化物ともに少量含む |
| | 6 | 10YR4/1 | 褐灰 | 砂質シルト | あり | なし | 径1～10mmの礫・白色砂を微量含む、径5mm前後の炭化物を少量含む |
| | 7 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 径2～10mmの礫を微量含む |
| | 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 砂質シルト | あり | なし | 地山粒を少量含む |
| | 9 | 10YR4/4 | 褐 | 砂質シルト | あり | なし | 地山粒を少量含む |

第８図　高谷遺跡５区遺構平面・断面図（3）

14）が出土したほか、各層から縄文土器片、石器類（石鏃片、剥片）が出土した。

【SK14土坑】（第８図）

［平面形］北側は削平を受けているが、不整楕円形とみられる。

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は浅くゆるやかに立ち上がる。

［規模］長軸約 1.8m、短軸約 1.4m、深さ約 0.3m

［堆積土］人為的埋土

［遺物］堆積土中から縄文土器片少量が出土した。

【SK15土坑】（第８図）

［重複］SK16と重複し、これより新しい。

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁はゆるやかに立ち上がる。中央に直径約 20cm、深さ約 5cmの浅いピットを有する。

［規模］長軸約 2.1m、短軸約 1.5m、深さ約 0.2m

［堆積土］自然堆積土

［遺物］堆積土中から石皿（第 15図１）、凹石（第 15図２）、敲石（第 15図３）のほか、縄文土器片、石材剥片が少量出土した。

【SK16土坑】（第８図）

［重複］SK15と重複し、これより古い。

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁はほぼ直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 2.3m、短軸約 2.1m、深さ約 0.6m

［堆積土］自然堆積土

［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 15図４）、石鏃（第 15図５）、石匙（第 15図６）、尖頭状石器（第 15図７）、円盤状土製品（第 15図８）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK9土坑】（第９図）

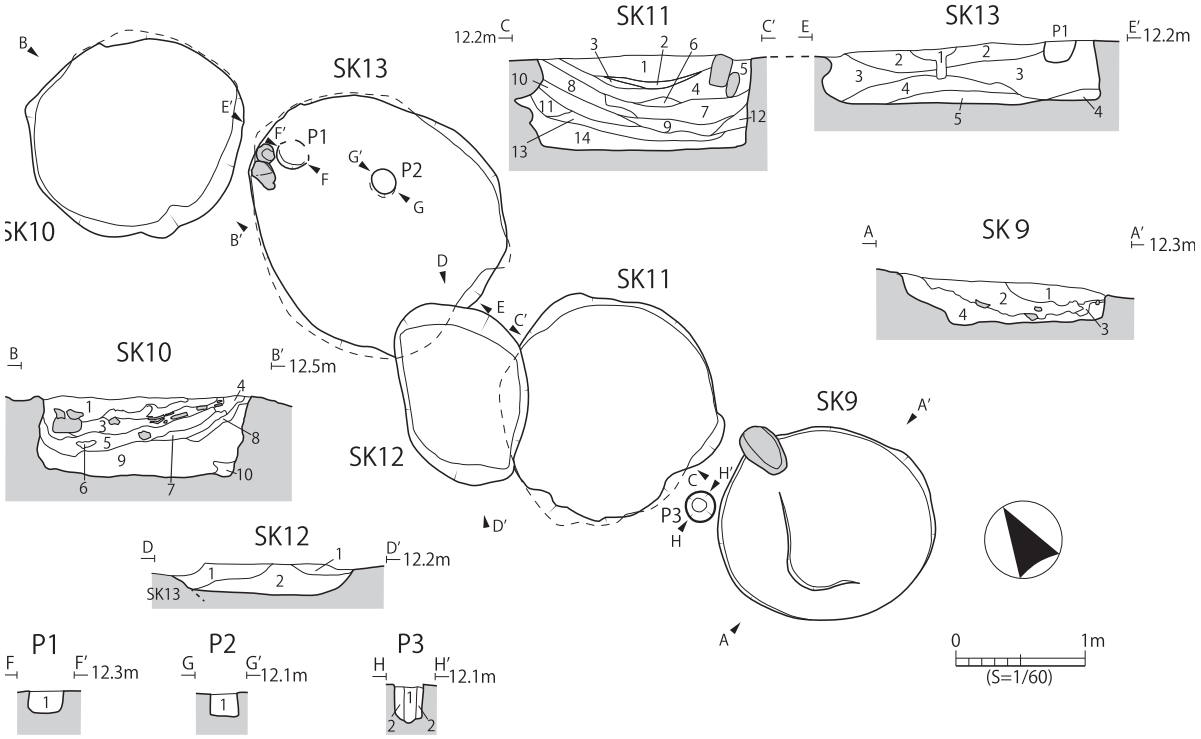
［平面形］不整楕円形

［断面形］底面はほぼ平坦であるがわずかに窪みが見られる。壁は直角に立ち上がる。

［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.5m、深さ約 0.3m

［堆積土］自然堆積土

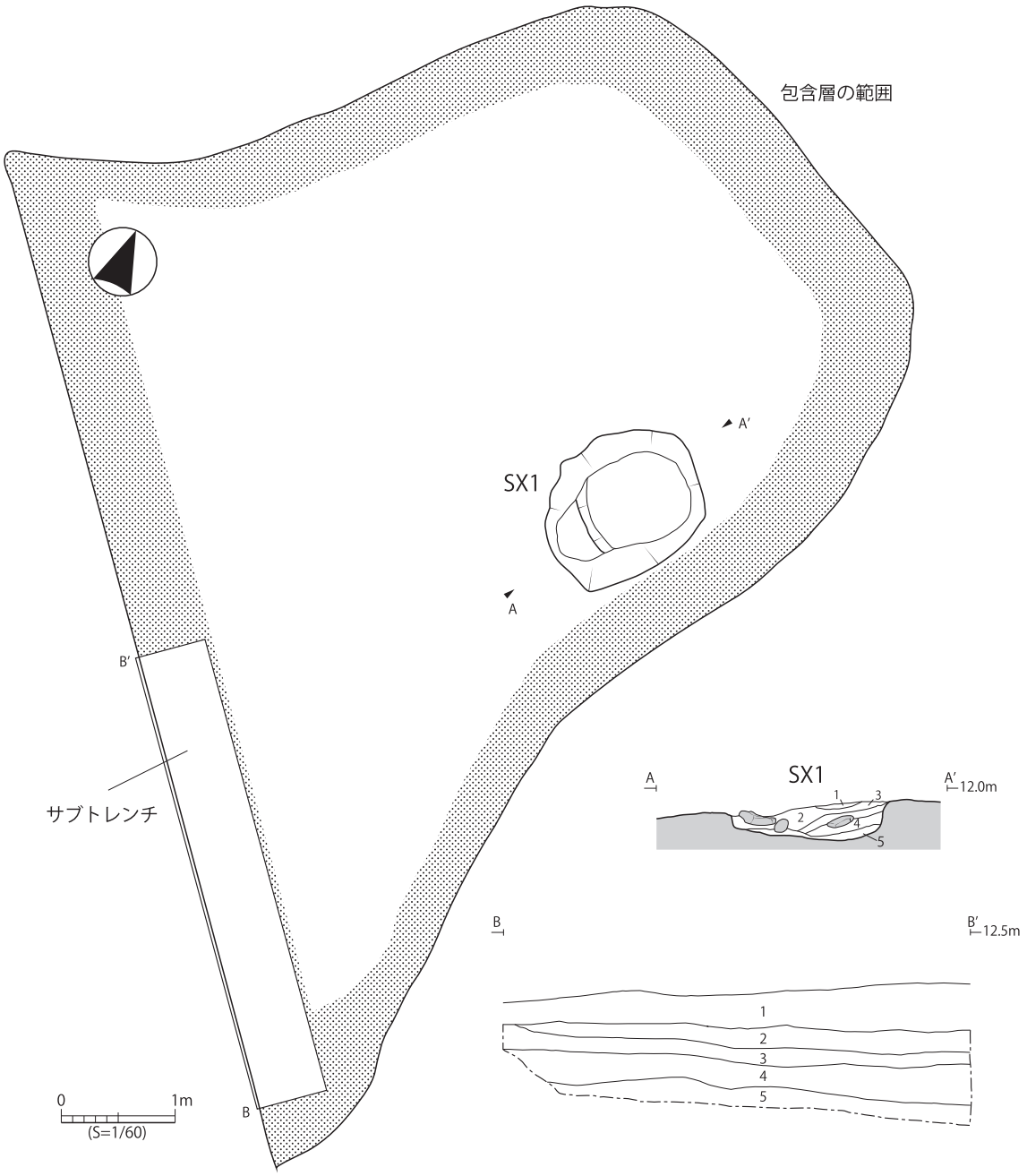
［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 11図 15）、円盤状石製品（第 11図 16）のほか、縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK9 | 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | シルト | あり | | 径2～10mmの礫を少量含む |
| | 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | シルト | | | 径5～30mmの礫・径2～10mmの炭化物を少量含む |
| | 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | シルト | | | 地山土少量含む |
| | 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐 | シルト | あり | | 径2～5mmの礫を含む |
| SK10 | 1 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト | あり | | 径2～15mmの礫を含む |
| | 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | シルト | あり | | 径2～5mmの礫・径3～10mmの焼土粒を少量含む |
| | 3 | 10YR5/2 | 灰黄褐 | シルト | | | 礫・土器片を多く含む |
| | 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐 | シルト | | | 径2～5mmの礫を含む、炭化物を少量含む |
| | 5 | 2.5Y5/1 | 黄灰 | シルト | 弱 | | 径2～20mmの礫・径2～10mmの炭化物を少量含む |
| | 6 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | シルト | | | 径2～20mmの礫・径2～10mmの炭化物を少量含む、焼土を含む |
| | 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | シルト | | | 径2～15mmの礫・焼土・炭化物を少量含む |
| | 8 | 2.5YR6/2 | 灰黄 | シルト | | | 径5～35mmの礫を多く含む |
| | 9 | 10YR5/2 | 灰黄褐 | シルト | | | 径5～20mmの礫・炭化物を少量含む、焼土をわずかに含む |
| | 10 | 2.5Y7/4 | 浅黄 | 粘質シルト | | | 地山ブロック |
| SK11 | 1 | 7.5YR4/3 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 2 | 2.5YR4/6 | 赤褐 | 被熱シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 3 | 7.5YR4/3 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 4 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む、土器片を特に多く含む |
| | 5 | 10YR4/4 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・地山ブロック少量含む |
| | 6 | 7.5YR4/3 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを少量含む |
| | 7 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を多く含む、地山ブロック・焼土ブロックを含む |
| | 8 | 7.5YR4/3 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 9 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 10 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを少量含む |
| | 11 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | シルト | あり | ややあり | 地山ブロックを多く含む |
| | 12 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | シルト | あり | ややあり | |
| | 13 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを少量含む |
| | 14 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | あり | あり | 炭化物・地山ブロックを少量含む |
| SK12 | 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | シルト | ややあり | ややあり | 地山ブロック含む |
| | 2 | 10YR4/2 | にぶい黄褐 | | ややあり | ややあり | シルトと地山ブロックの混合 |
| SK13 | 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | シルト | ややあり | ややあり | 径5cmまでの礫・地山ブロック・土器片を含む、炭化物を多く含む |
| | 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山ブロックを多く含む、土器片を含む |
| | 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | | あり | あり | 粘質シルトと地山ブロックの混合、土器片を含む |
| | 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | シルト | ややあり | ややあり | 径10cmまでの礫、地山ブロックを含む、炭化物を多く含む、土器片を含む |
| | 5 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | あり | あり | 黒褐色(10YR3/2)シルト・炭化物・地山ブロック・土器片を少量含む |
| P1 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | シルト | | | 径3cmまでの地山ブロックを多く含む、炭化物を少量含む |
| P2 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | シルト | | | 径3cmまでの地山ブロックを多く含む、炭化物を少量含む |
| P3 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | | | 地山ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | シルト | | | 地山ブロックを含む |

第９図　高谷遺跡５区遺構平面・断面図（4）

【SK10土坑】（第９図）
［平面形］不整円形
［断面形］底面は平坦で、壁はほぼ直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。
［規模］直径約 1.6m、深さ約 0.6m
［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土
［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 13図６～９）、磨石（第 13図 10）、石鏃（第 13図 13・14）不明石器２点（第 13図 11・12）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。
【SK11土坑】（第９図）
［重複］SK12と重複し、これより古い。
［平面形］不整円形
［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がり、南側はフラスコ状にオーバーハングしている。
［規模］長軸約 1.8m、短軸約 1.6m、深さ約 0.7m
［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土
［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 14図８～ 11）、石皿（第 14図３）、凹み石（第 14図４）、石鏃（第 14図１・２）、円盤状土製品（第 14図５～７）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。
【SK12土坑】（第９図）
［重複］SK11・13と重複し、これらより新しい。
［平面形］不整楕円形
［断面形］底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。
［規模］長軸約 1.6m、短軸約 1m、深さ約 0.6m
［堆積土］人為的埋土
［遺物］堆積土中から石材剥片１点が出土した。
【SK13土坑】（第９図）
［重複］SK12、P1・2と重複し、これらより古い。埋土を掘り込むピットが 2基見られた。
［平面形］不整楕円形
［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状にオーバーハングしている。。
［規模］長軸約 1.6m、短軸約 1m、深さ約 0.3m
［堆積土］人為的埋土
［遺物］底面近くから縄文土器深鉢（第 14図 12・15～ 17）、小型壺（第 14図 14）ミニチュア土器（第 14図 13）のほか、縄文土器片少量が出土した。また、堆積土中から円盤状土製品（第 14図 18～ 21）のほか縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SX1 | 1 | 5YR5/6 | 赤褐 | | | | 暗褐色(10YR2/4)土を含む（アサリ・カキ主体の混土貝層） |
| | 2 | 5YR5/6 | 赤褐 | | | | 20～30cmの礫を含む。最も貝を含む（アサリ・カキ主体の混土貝層） |
| | 3 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | あり | （混貝土層） |
| | 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | あり | 20cm程度の礫・炭化物を含む。3層より貝が多い（混貝土層） |
| | 5 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | にぶい黄橙色(10YR3/4)土がブロック状に混じる。土器片を含む |
| サブトレンチ | 1 | | | | | | 表土、耕作土 |
| | 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 浅黄色(2.5Y7/4)のアマ岩粒を含む |
| | 3 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 浅黄色(2.5Y7/4)のアマ岩粒を斑状に多量に含む |
| | 4 | 10YR2/3 | 黒褐 | 粘質シルト | あり | あり | 5～10cmの礫を含む、浅黄色(2.5Y7/4)のアマ岩粒を少量含む |
| | 5 | 10YR4/6 | 褐 | 粘土 | あり | あり | 黒褐色(10YR2/3)土が混じる |

第 10 図　高谷遺跡 5 区遺構平面・断面図（5）

【SX１貝捨て遺構】（第 10図）

遺物包含層を掘り込んでいる。

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は北側に向かってやや窪み、壁は下端で丸みを帯びながら垂直気味に立ち上がる。

［規模］長軸約 1.5m、短軸約 1.2m、深さ約 0.3m

［堆積土］人為的埋土

［遺物］堆積土中から大量の自然遺物（アサリ類を主とする貝類のほか少量の骨片）のほか、上層から縄文土器片・5層から須恵器片・土師器片が出土した。

【遺物包含層１】（第 10図）

［規模］東西最大 9m, 南北 10m以上の広がり、サブトレンチ内で約 80cmの堆積を確認した。

［堆積土］暗褐色シルト

［遺物］須恵器（写真図版 9－ 32）、製塩土器（写真図版 9－ 34）、縄文土器片が出土した。

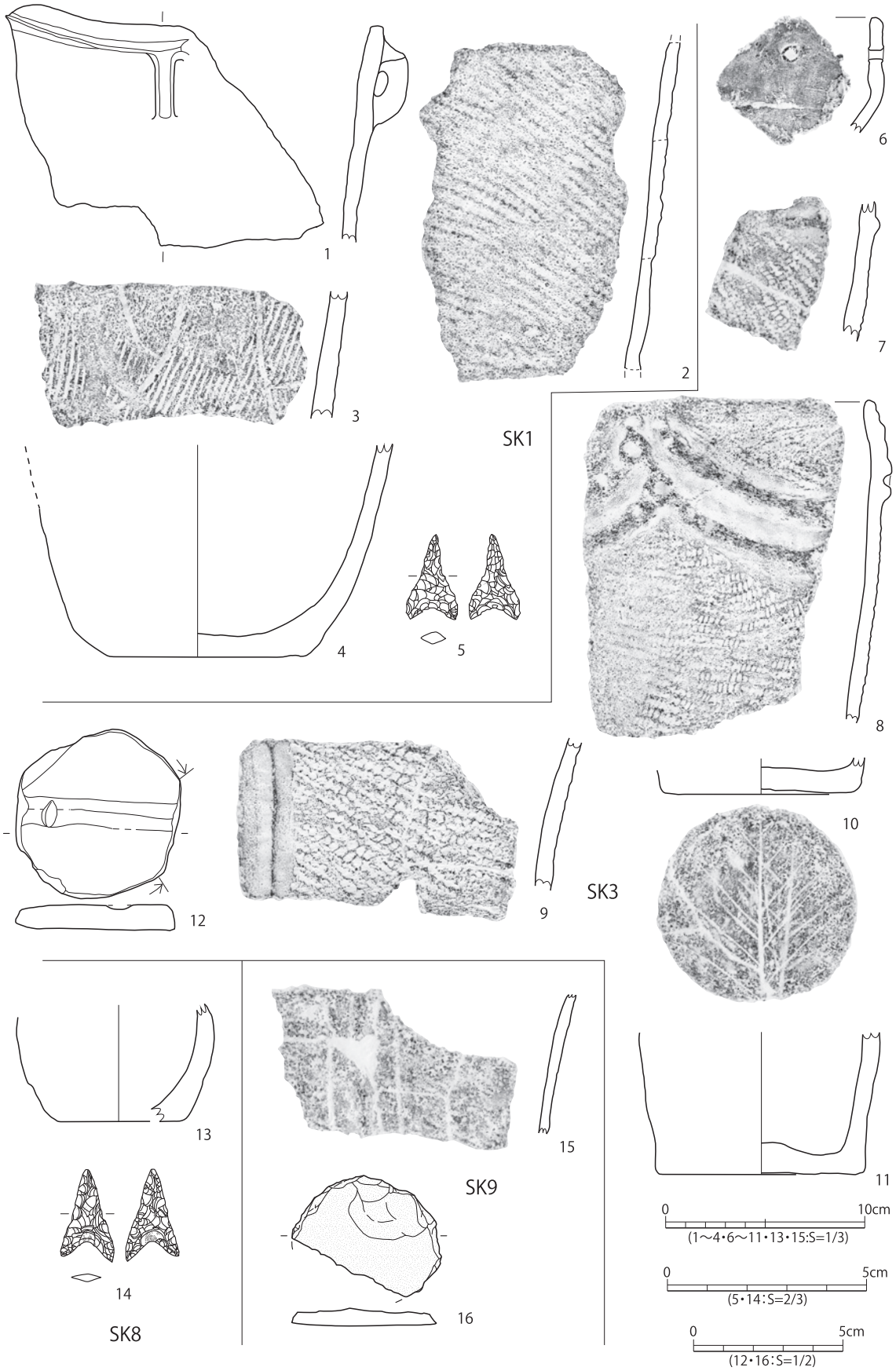
【ピット】

30基検出した。調査区北西部に集中しており、深さ 4 cmから 22cmのものがある（第３表）。

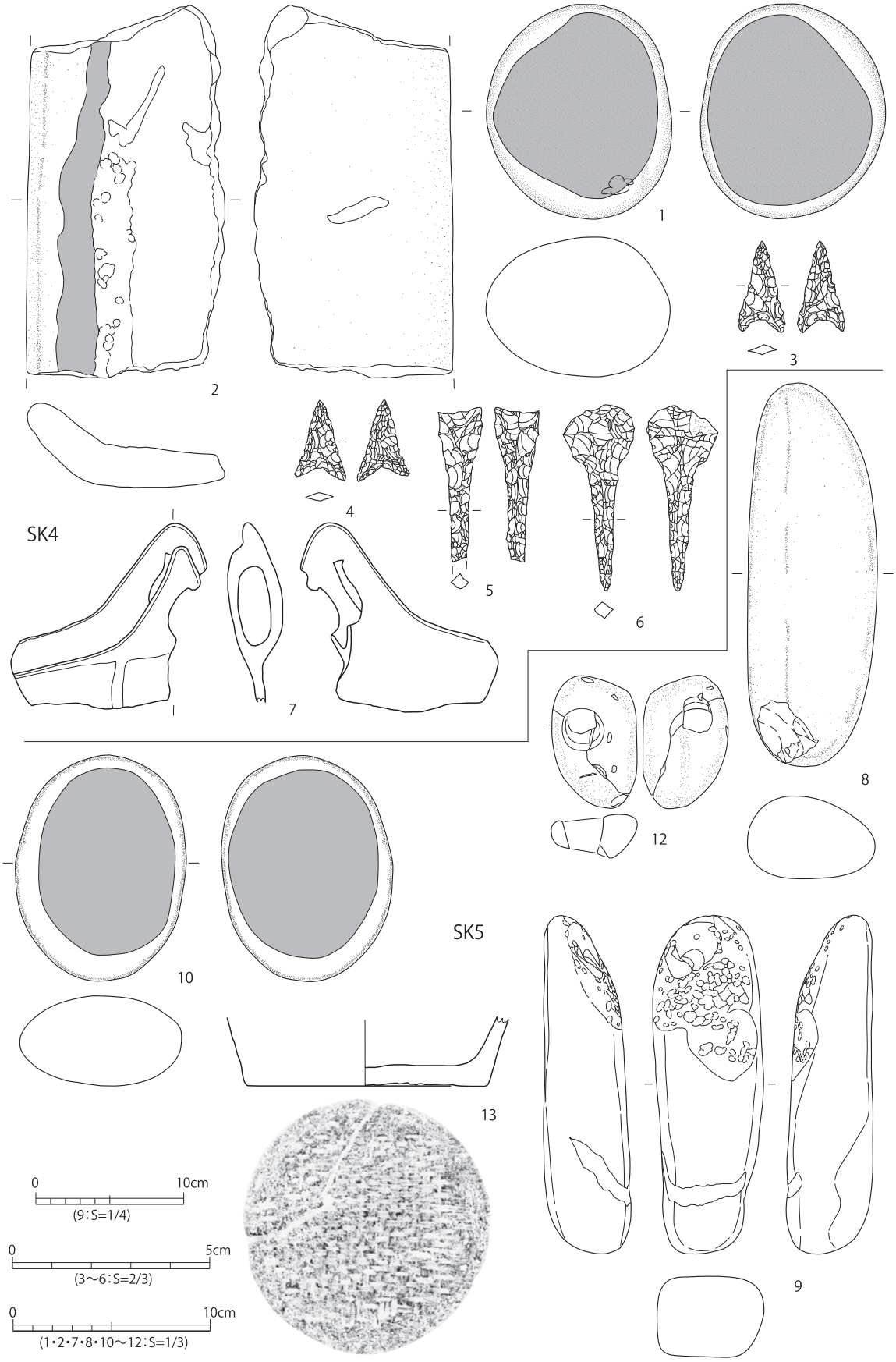
掘立柱建物跡を構成するであろうピットを除き、これらのうち P３・P28については柱痕跡が確認できた。P10以外のピットから遺物は出土していない。

第３表　高谷遺跡５区検出ピット一覧

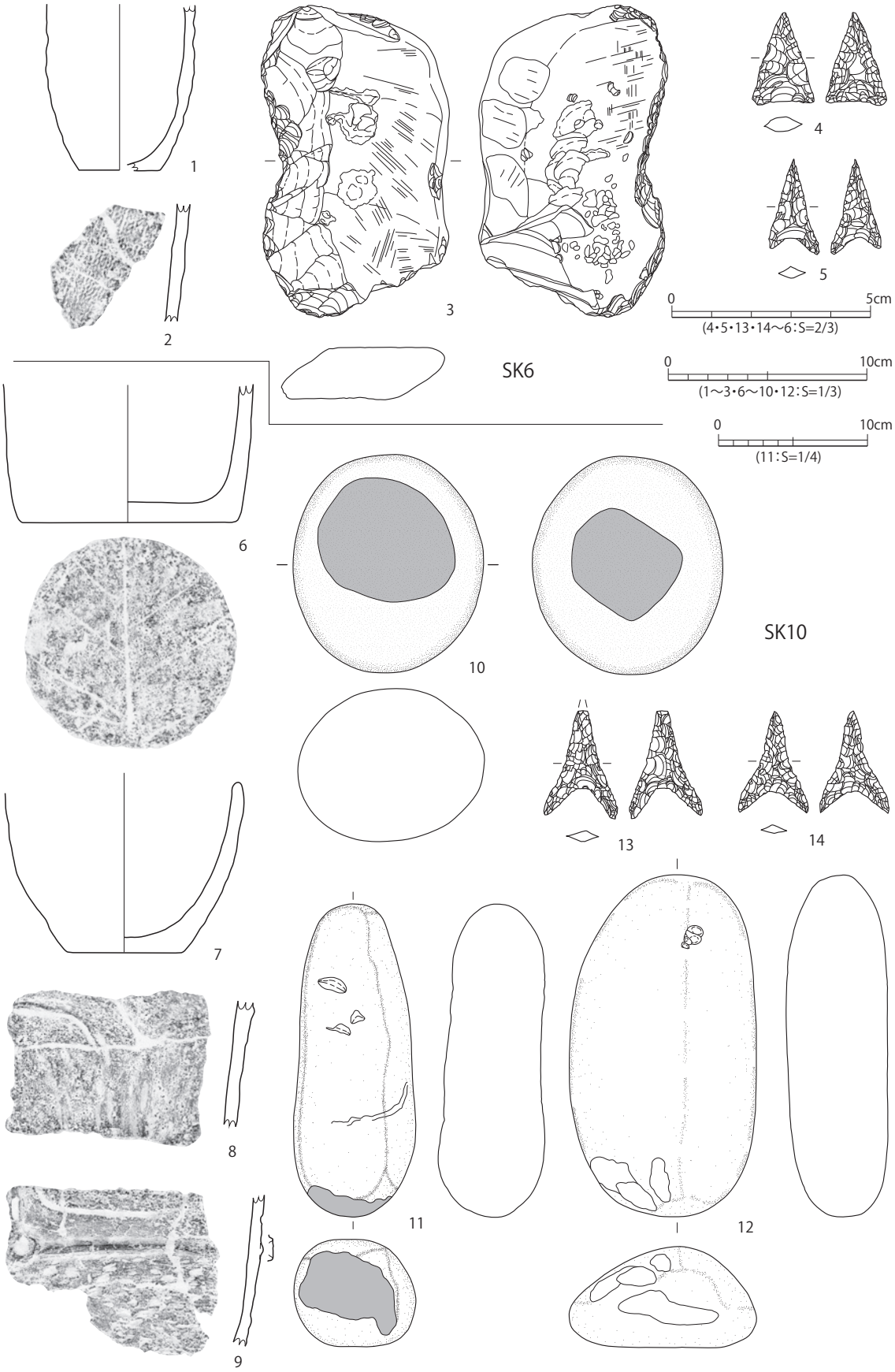
| No | 平面形 | 径(cm) | 深さ(cm) | 特記事項 | No | 平面形 | 径(cm) | 深さ(cm) | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 円形 | 25 | 17 | SK13埋土を掘り込む | 16 | 円形 | 32 | 10 | |
| 2 | 円形 | 21 | 16 | SK13埋土を掘り込む | 17 | 楕円形 | 39/26 | 10 | |
| 3 | 円形 | 25 | 28 | 柱痕あり | 18 | 楕円形 | 36/23 | 4 | |
| 4 | 円形 | 32 | 12 | | 19 | 楕円形 | 27/23 | 10 | SB2 |
| 5 | 円形 | 19 | 3 | | 20 | 楕円形 | 39/30 | 18 | SB2 |
| 6 | 円形 | 16 | 4 | | 21 | 円形 | 44 | 17 | SB2・柱痕あり |
| 7 | 円形 | 11 | 6 | | 22 | 円形 | 31 | 20 | SB2 |
| 8 | 不整形 | 78/38 | 24 | | 23 | 楕円形 | 67/46 | 17 | SB2・柱痕あり |
| 9 | 円形 | 38 | － | SB1・柱痕あり | 24 | 楕円形 | 51/30 | 20 | SB2・柱痕あり |
| 10 | 円形 | 33 | － | SB1・柱痕あり | 25 | 楕円形 | 50/27 | 9 | |
| 11 | 楕円形 | 46/39 | － | SB1・柱痕あり | 26 | 楕円形 | 33/22 | 17 | SB2 |
| 12 | 楕円形 | 47/40 | － | SB1・柱痕あり | 27 | 円形 | 27 | － | |
| 13 | 円形 | 41 | － | SB1・柱痕あり | 28 | 円形 | 30/26 | 19 | 柱痕あり |
| 14 | 楕円形 | 54/37 | － | | 29 | 不整形 | 35/16 | 7 | SB2床束の可能性 |
| 15 | 楕円形 | 35/23 | 12 | | 30 | 円形 | 29 | 12 | |



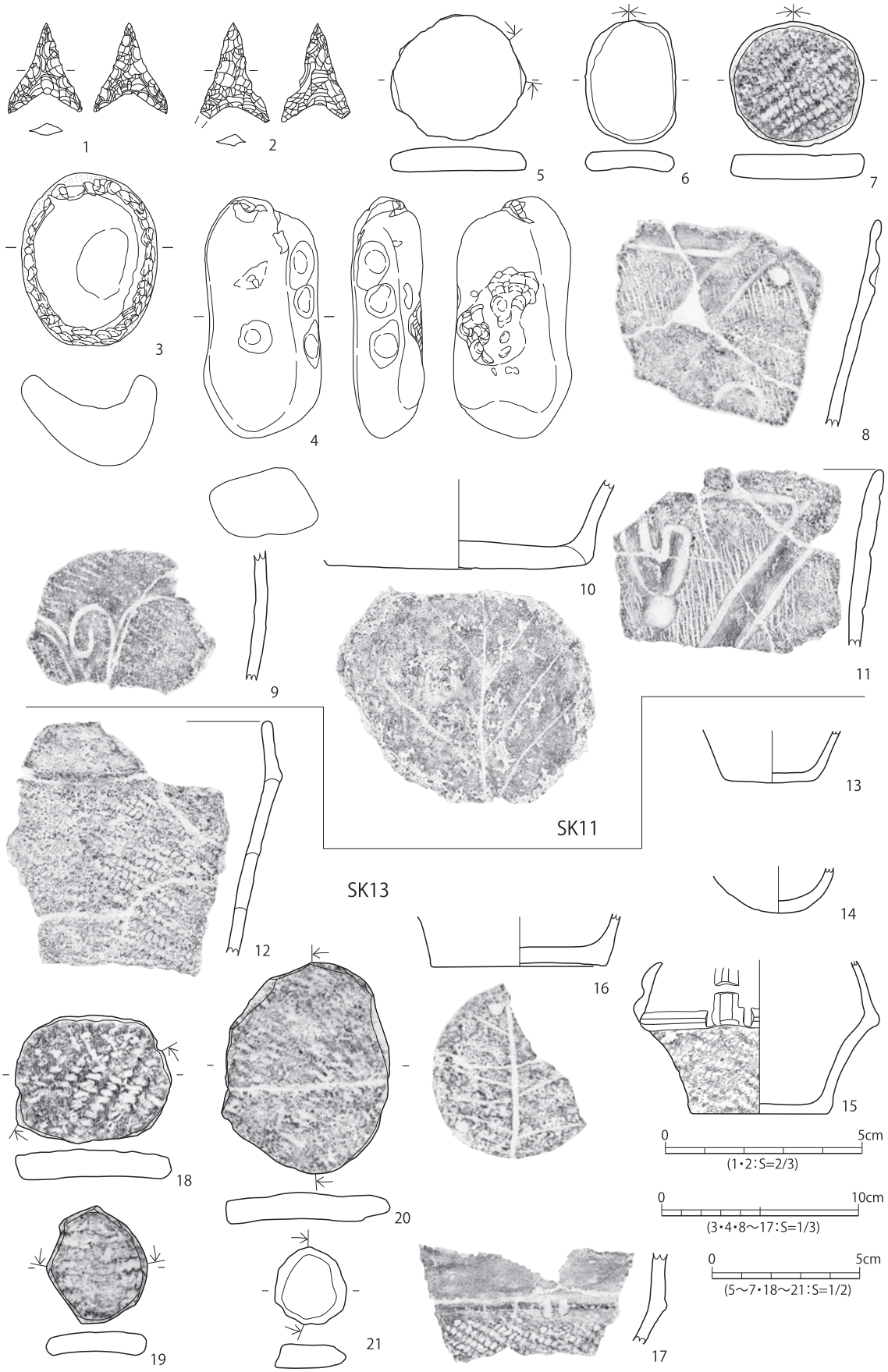

第 11 図　高谷遺跡 5 区 SK1・SK3・SK8・SK9 出土遺物（縄文土器、石器、円盤状土製品・石製品）



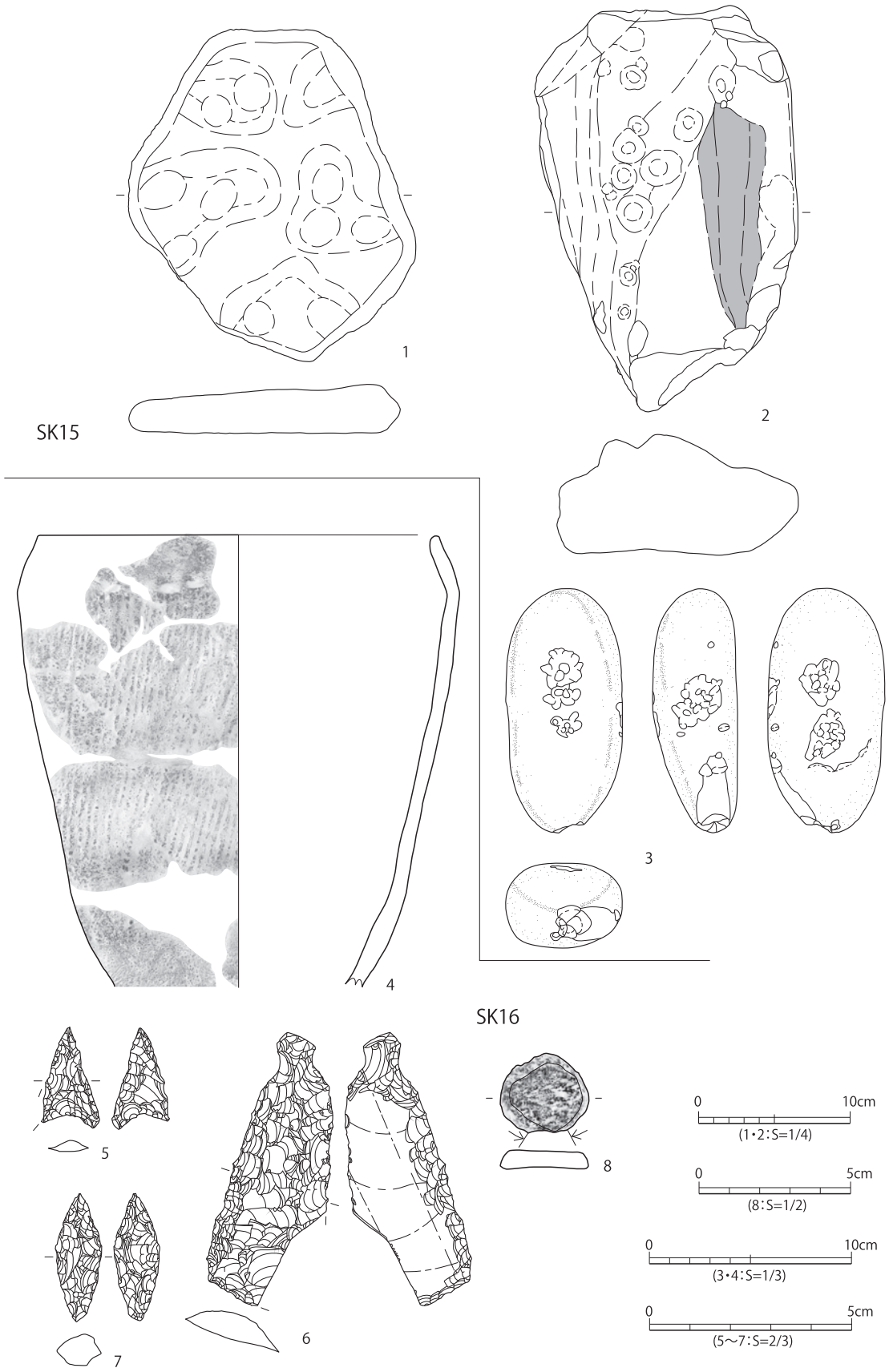

第 12 図　高谷遺跡 5 区 SK4・SK5 出土遺物（縄文土器、石器・石製品）




第 13 図　高谷遺跡 5 区 SK6・SK10 出土遺物（縄文土器、石器）




第 14 図　高谷遺跡 5 区 SK11・SK13 出土遺物（縄文土器、石器、円盤状土製品）




第 15 図　高谷遺跡 5 区 SK15・SK16 出土遺物（縄文土器、石器、円盤状土製品）

⑵ ６区

【SK1土坑】（第 17図）

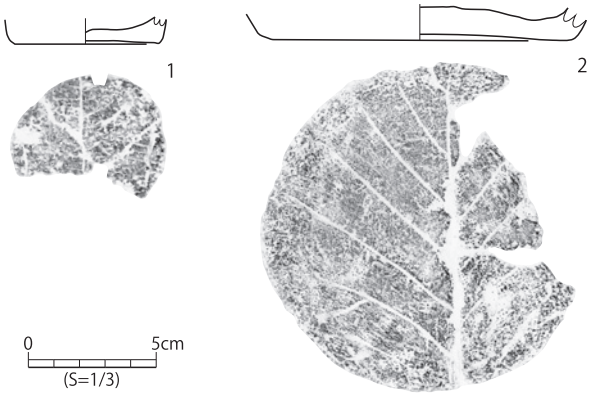
［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は東側に向かって落ち込み、壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状にオーバーハングしている。

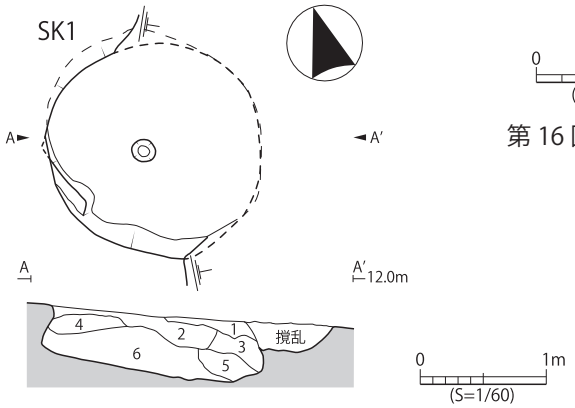
［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.5m、深さ約 0.5m

［堆積土］人為的埋土

［遺物］縄文土器の深鉢が堆積土中から１点(第 16図１)、底面から１点(第 16図２）出土したほか、各層から縄文土器片が出土した。




第 16 図　高谷遺跡６区 SK1 出土遺物（縄文土器）




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 7.5YR4/3 | 褐 | シルト | あり | | 炭化物・径1cmまでの地山粒を少量含む |
| | 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | シルト | あり | | 炭化物多く含む、径1cmまでの地山粒を少量含む |
| | 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | | 炭化物・地山粒を少量含む |
| | 4 | 7.5YR5/8 | 明褐 | シルト | あり | | 地山粒を少量含む |
| | 5 | 7.5YR5/8 | 明褐 | シルト | あり | | 地山粒を少量含む |
| | 6 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | | 炭化物・径3cmまでの地山粒を少量含む |

第 17 図　高谷遺跡６区遺構平面・断面図

⑶ ７区

【SK８土坑】（第 18図）

［平面形］不整楕円形

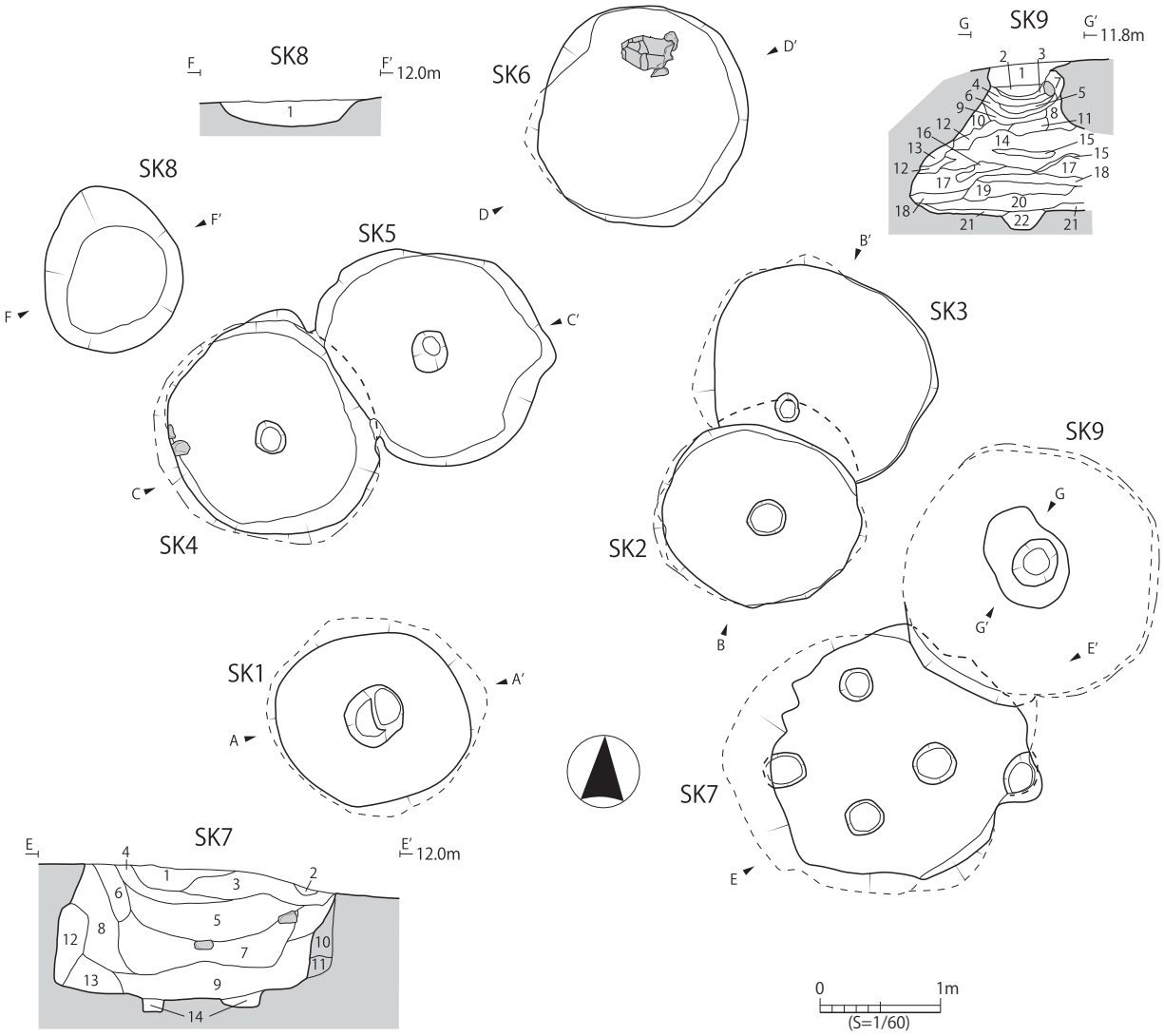
［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は緩やかに立ち上がる。

［規模］長軸約 1.4m、短軸約 1.2m、深さ約 0.2m

［堆積土］自然堆積土

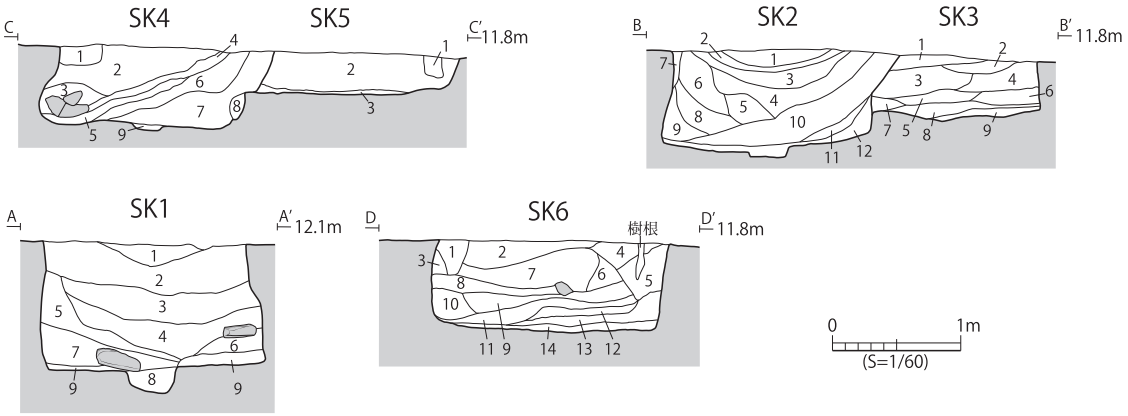
［遺物］遺物は出土していない。

【SK９土坑】（第 18図）
［重複］SK７と重複するが前後関係は不明
［平面形］不整楕円形
［断面形］底面は平坦で、中央部には直径約 35cm、深さ約 10cmのピットを有する。壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状に大きくオーバーハングしている。
［規模］長軸約 0.9m、短軸約 0.6m、深さ約 1.2m
［堆積土］人為的埋土および地山崩落土を含む自然堆積土
［遺物］堆積土中、中位層より下で縄文土器深鉢（第 23図１・２・３）、砥石（第 22図６）、円盤状土製品（第 22図 10・11）が出土したほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。また底面近くから石鏃（第 22図８）、削器（第 22図９）、円盤状土製品（第 22図 12・13）、磨石（第 22図７）、縄文土器深鉢（第 23図４～８）、小型土器（第 23図９）、のほか、縄文土器片が出土した。
【SK７土坑】（第 18・19図）
［重複］SK９と重複するが前後関係は不明
［平面形］不整楕円形
［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。底面中央に４基（最大で長軸約 35cm、短軸約 30cm、深さ約 15cmの楕円形）、壁沿いに１基のピットを有する。
［規模］長軸約 2.2m、短軸約 1.9m、深さ約 1.1m
［堆積土］自然堆積土
［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 24図１～４）、円盤状土製品・石製品（第 24図９～16）、棒状石製品（第24図６）、石鏃（第24図７）、削器（第24図８）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。また、底面から縄文土器深鉢（第 24図５）が出土した。
【SK１土坑】（第 18・20図）
［平面形］楕円形
［断面形］底面は平坦で、中央部には直径約 40cm、深さ約 20cmのピットが認められた。壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。
［規模］長軸約 1.6m、短軸約 1.4m、深さ約 1.0m
［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土
［遺物］堆積土中から注口土器（第21図１）、削器（第21図２）、円盤状土製品（第21図３）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。
【SK２土坑】（第 18・19図）
［重複］SK３と重複しこれより新しい
［平面形］不整楕円形




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK8 | 1 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | | | 白色～オリーブ色の斑が入る |
| SK9 | 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | シルト | | | 径 5mm までの炭化物を含む |
| | 2 | 7.5YR4/4 | 褐色 | シルト | | | 炭化物を少量含む |
| | 3 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | シルト | | | 炭化物を少量含む、地山ブロックを多く含む |
| | 4 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | シルト | | | 炭化物は含まない、下部に地山土を少量含む |
| | 5 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | シルト | | | 炭化物を含む、焼土を少量含む |
| | 6 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | シルト | | | 炭化物を少量含む、径 1cm までの地山ブロックを含む |
| | 7 | | | | | | 6 層に似る、硬質 |
| | 8 | | | | | | 6 層に似る、径 3cm までの地山ブロックを含む |
| | 9 | 10YR5/4 | にぶい黄橙 | シルト | | | 径 2cm までの炭化物を多く含む、焼土を含む |
| | 10 | | | | | | 6 層に似る、やや軟質 |
| | 11 | 10YR5/6 | 黄褐 | 砂質シルト | | | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 12 | 10YR5/6 | 黄褐 | 砂質シルト | | | 炭化物を少量含む、地山ブロックを多く含む |
| | 13 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | | | 炭化物を含む、地山ブロックを少量含む |
| | 14 | 10YR6/8 | 黄褐 | 砂質シルト | | | 径 2cm までの地山ブロック・炭化物を含む |
| | 15 | 10YR3/4 | 暗褐 | 砂質シルト | | | 炭化物を多く含む |
| | 16 | 10YR5/8 | 黄褐 | 砂 | | | 炭化物含む |
| | 17 | 10YR5/6 | 黄褐 | 砂質シルト | | | 地山ブロックを微量含む |
| | 18 | 10YR3/4 | 暗褐 | 砂質シルト | | | 炭化物を多く含む、地山ブロックを微量含む |
| | 19 | 10YR5/6 | 黄褐 | 砂質シルト | | | 炭化物を含む、地山ブロックを微量含む |
| | 20 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 砂質シルト | | | 炭化物を含む、地山ブロックを微量含む |
| | 21 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | | | 炭化物を含む |
| | 22 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | | | |

第 18 図　高谷遺跡 7 区遺構平面・断面図（1）




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK2 | 1 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | なし | 炭化物少量含む |
| | 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物・土器片を多く含む |
| | 3 | 7.5YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 炭化物粒をわずかに含む |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | ややあり | ややあり | 炭化物粒をわずかに含む |
| | 5 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | ややあり | 明黄褐色(10YR6/6)土を含む、炭化物をわずかに含む |
| | 6 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 径10mm以下の小礫を含む、炭化物をわずかに含む |
| | 7 | 2.5YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 炭化物をわずかに含む |
| | 8 | 7.5YR5/8 | 明褐 | 粘質シルト | あり | あり | 褐色(10YR4/6)土をわずかに含む |
| | 9 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 褐色(10YR4/6)土をわずかに含む |
| | 10 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | なし | あり | 炭化物・土器を多量に含む |
| | 11 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | なし | あり | 炭化物・焼土、土器を多量に含む |
| | 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・土器を含む |
| SK3 | 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | なし | 淡黄色(2.5Y8/4)土を斑点状に含む、炭化物を含む |
| | 2 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | なし | 径5～10mmの淡黄色(2.5Y8/4)土を含む、炭化物をわずかに含む |
| | 3 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | 径10mm程度の淡黄色(2.5Y8/4)土を含む、炭化物をわずかに含む |
| | 4 | 7.5YR4/4 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 径10mm程度の淡黄色(2.5Y8/4)土を含む、焼土・炭化物をわずかに含む |
| | 5 | 2.5YR3/2 | 暗赤褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物・土器片を多く含む |
| | 6 | 2.5YR4/6 | 赤褐 | 粘質シルト | あり | あり | 焼土層、土器片を多く含む、硬い焼土ブロックを含む |
| | 7 | 2.5YR4/3 | にぶい赤褐 | 粘質シルト | あり | あり | 硬い焼土ブロックを含む |
| | 8 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物をわずかに含む |
| | 9 | 10YR7/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 明黄褐色(10YR6/8)土、地山を含む |
| SK4 | 1 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | | あり | |
| | 2 | 10YR6/3 | にぶい黄橙 | シルト | あり | | 径2cm以下の小礫・炭化物を含む |
| | 3 | 10YR8/8 | 黄橙 | シルト | | あり | |
| | 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | シルト | | あり | 径2cm以下の小礫を含む、炭化物を多く含む |
| | 5 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | | あり | 径2cm以下の小礫を含む、炭化物を少量含む |
| | 6 | 5YR4/6 | 赤褐 | シルト | | あり | 径1cm以下の小礫を含む、炭化物を多く含む |
| | 7 | 10YR8/8 | 黄橙 | シルト | | あり | 径1cm以下の小礫を少量含む、炭化物を少量含む |
| | 8 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | | あり | |
| | 9 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | | あり | 小礫を少量含む |
| SK5 | 1 | 7.5YR5/8 | 明褐 | 粘質シルト | | | |
| | 2 | 10YR7/8 | 黄橙 | 粘質シルト | | | 径2cm以下の小礫を少量含む |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | | | |
| SK7 | 1 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | あり | ややあり | 径2～3cmの礫・炭化物を多く含む |
| | 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | シルト | あり | なし | 明黄褐色(10YR7/6)土と褐色(10YR4/6)土が混じる |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | なし | 径3cm前後の礫・炭化物、地山粒を含む |
| | 4 | 7.5YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 径5cm前後の礫・炭化物を含む、焼土を多く含む |
| | 5 | 10YR7/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | | | 炭化物をわずかに含む、褐色(10YR4/6)土が線状に混じる |
| | 6 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 径10mm前後の小礫を含む、炭化物を多く含む |
| | 7 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | 強 | 炭化物・焼土・径20cm前後の礫を含む |
| | 8 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 径2～3cmの小礫を含む、炭化物をわずかに含む |
| | 9 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物をわずかに含む、褐色(10YR4/6)土がまだらに混じる |
| | 10 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | 強 | あり | 径2～3cmの小礫を含む（SK9埋土？） |
| | 11 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | 強 | あり | 明黄褐色(10YR6/3)土と炭化物を多く含む、地山粒を含む（SK9埋土？） |
| | 12 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山粒を含む |
| | 13 | 10YR7/8 | 黄橙 | 粘土 | あり | ややあり | 炭化物をわずかに含む |
| | 14 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物をわずかに含む |

第 19 図　高谷遺跡 7 区遺構平面・断面図（2）

| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 7.5YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | なし | 径10mm程度の小礫を含む、炭化物粒を斑点状に含む、土器片を多く含む |
| | 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | シルト | あり | なし | 径10mm以下の小礫・炭化物をわずかに含む |
| | 3 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | なし | ややあり | 径1～2cmの礫を斑点状に含む、炭化物をわずかに含む |
| | 4 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | なし | あり | 3層より大きい礫を含む、炭化物を微量含む |
| | 5 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 径10mm以下の小礫を含む |
| | 6 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物をわずかに含む |
| | 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | |
| | 8 | 10YR4/4 | 褐 | 粘質シルト | なし | あり | 径2～8cmの礫、底部上に炭化物を含む |
| | 9 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 層上部に大きな石を、底部直上に炭化物を含む |
| SK6 | 1 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | 径10mmまでの小礫を含む |
| | 2 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 径10cmまでの礫、1cm以下の炭化物を含む |
| | 3 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | |
| | 4 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 径10mmまでの小礫を含む |
| | 5 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | |
| | 6 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 径10mmまでの小礫、炭化物を含む |
| | 7 | 5YR4/6 | 赤褐 | シルト | あり | あり | 径10cmまでの礫、赤色土のブロックを含む |
| | 8 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 径10mmまでの小礫を含む |
| | 9 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 径10cmまでの礫、炭化物を含む |
| | 10 | 10YR6/6 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | 径10cmまでの礫、炭化物を含む |
| | 11 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 径10mmまでの小礫を少量含む、炭化物を含む |
| | 12 | 10YR8/6 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 径2cmまでの小礫を多く含む |
| | 13 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 14 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | |

第 20 図　高谷遺跡７区遺構平面・断面図（3）

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、中央部には直径約 30cm、深さ約 6cmのピットが認められた。壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.8m、短軸約 1.6m、深さ約 0.7m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［出土遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 21図４）、磨石（第 21図５）、石鏃（第 21図６）、円盤状土製品７点（第 21図７～ 13）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。また、床面近くから円盤状土製品（第 21図 14）が出土した。

【SK3土坑】（第 18・19図）

［重複］SK２と重複しこれより古い

［平面形］不整円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪んでいる。壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面に長軸約 23cm、短軸約 20cm、深さ約 18cmの楕円形のピットを有する。

［規模］直径は 1.9m程度と推定される。深さは約 0.5m

［堆積土］自然堆積土

［出土遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 21図 15）のほか、各層から縄文土器、石材剥片が出土した。

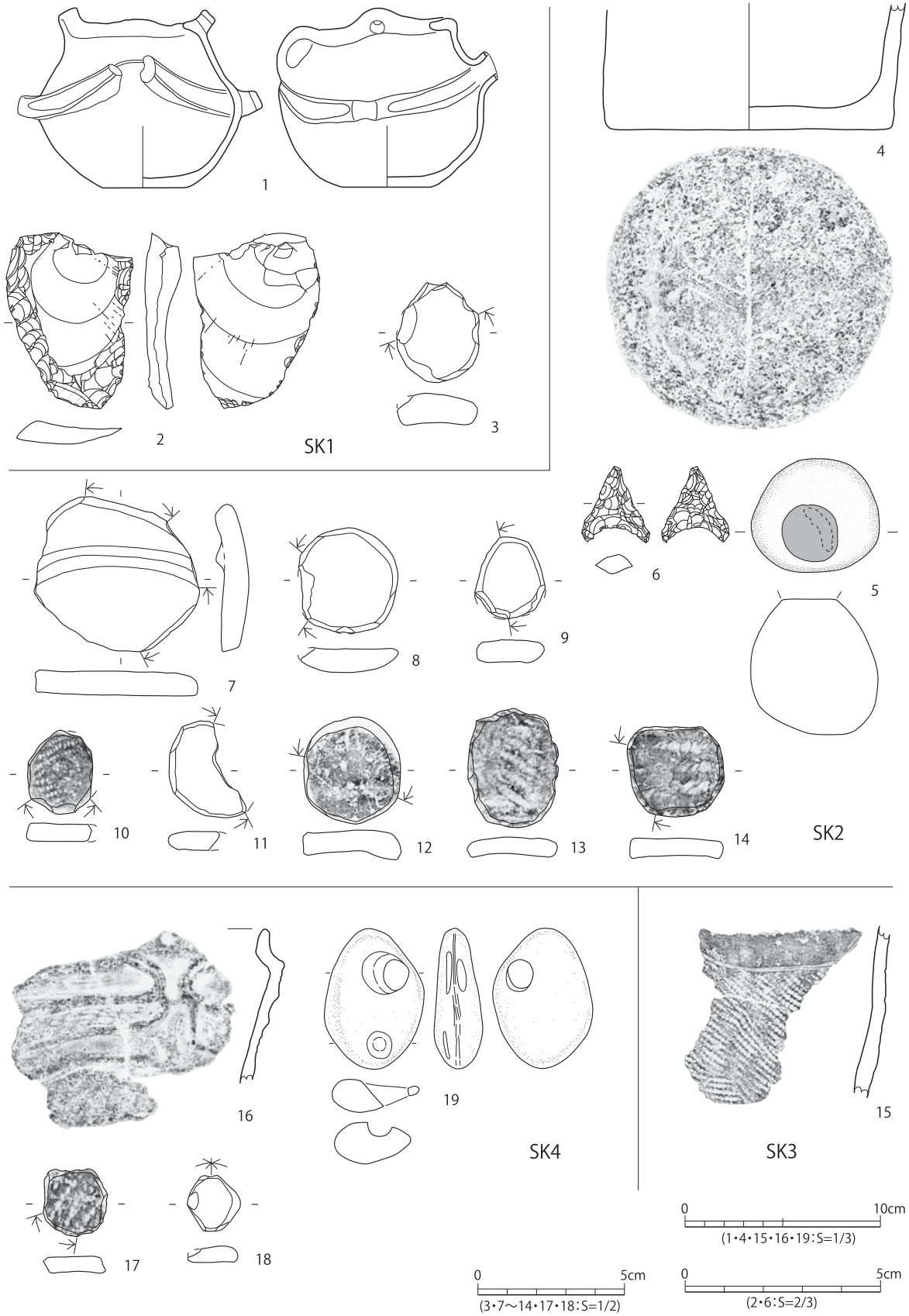
【SK４土坑】（第 18・19図）

［重複］SK５と重複しこれより新しい

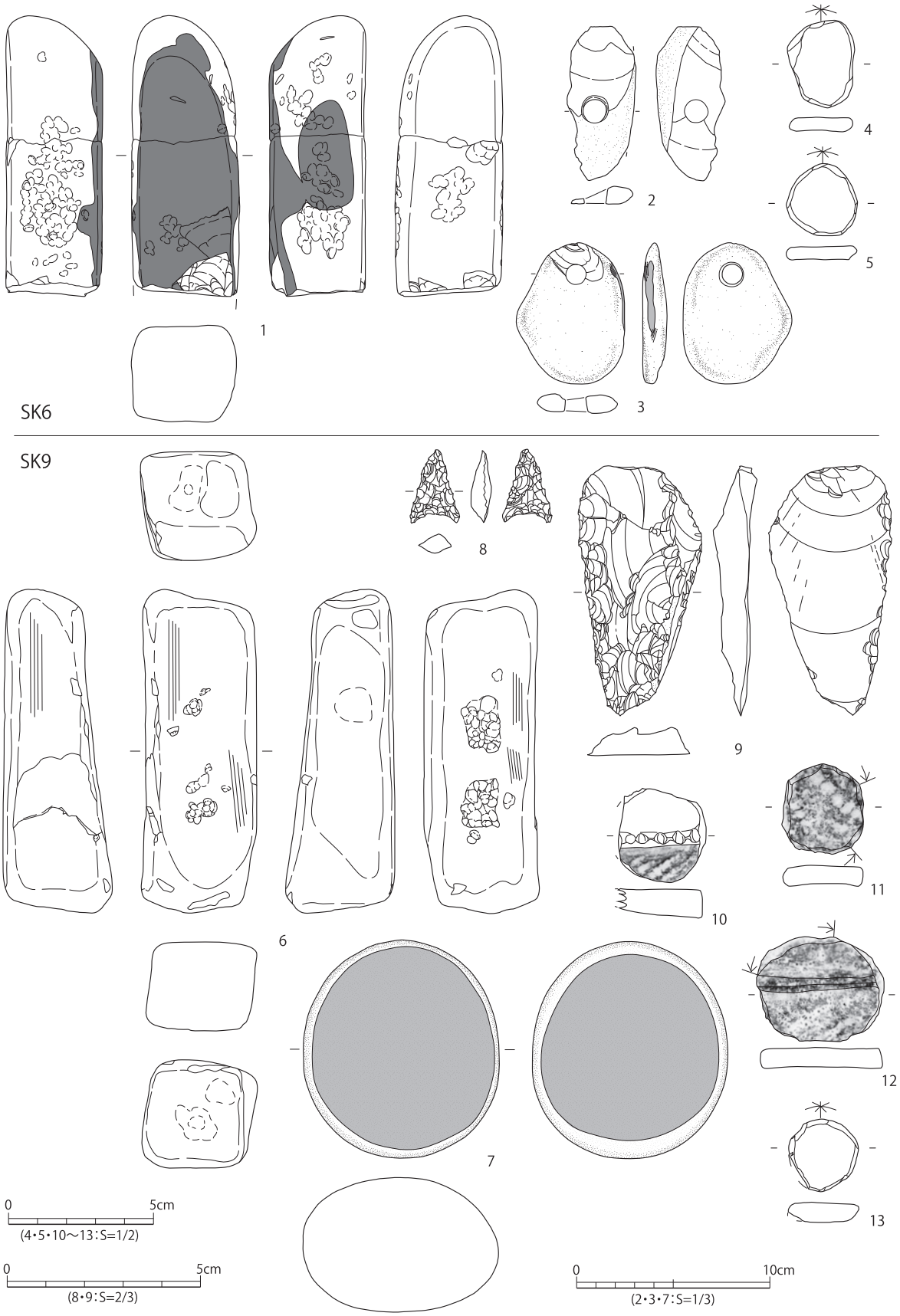
［平面形］不整円形

［断面形］底面は平坦で、中央部には直径約 20cm、深さ約 5 cmのピットが認められた。壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。
［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.5m、深さ約 0.6m
［堆積土］自然堆積土
［出土遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第21図 16）、石製垂飾品（第21図 19）、円盤状土製品（第21図 17・18）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。
【SK 5 土坑】（第 18・19図）
［重複］SK 4 と重複しこれより古い
［平面形］不整円形
［断面形］底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。床面に長軸約 35cm、短軸約 30cm、深さ約 15cmの楕円形のピットを有する。
［規模］直径は 1.6m程度と推定される。深さは約 0.3m
［堆積土］自然堆積土・人為的埋土
［遺物］堆積土中から縄文土器少量が出土した。
【SK 6 土坑】（第 18・20図）
［平面形］不整楕円形
［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がり、ややフラスコ状に一部がオーバーハングしている。
［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.5m、深さ約 0.7m
［堆積土］自然堆積土
［出土遺物］堆積土中から石製垂飾品（第 22図 2・3）、円盤状土製品（第 22図 4・5）のほか縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。また、床面から縄文土器深鉢（＊1）、砥石状の不明石器（第 22図 1）のほか縄文土器片が出土した。
【ピット】
調査区東部で 2基検出した（第 4 図）。P 1 は円形で、直径約 25cm、深さ 17cmを測り、埋土中から少量の縄文土器片、石材剥片が出土した。P 2 は楕円形で長軸約 49cm、短軸約 30cm、深さ 35cmを測る。

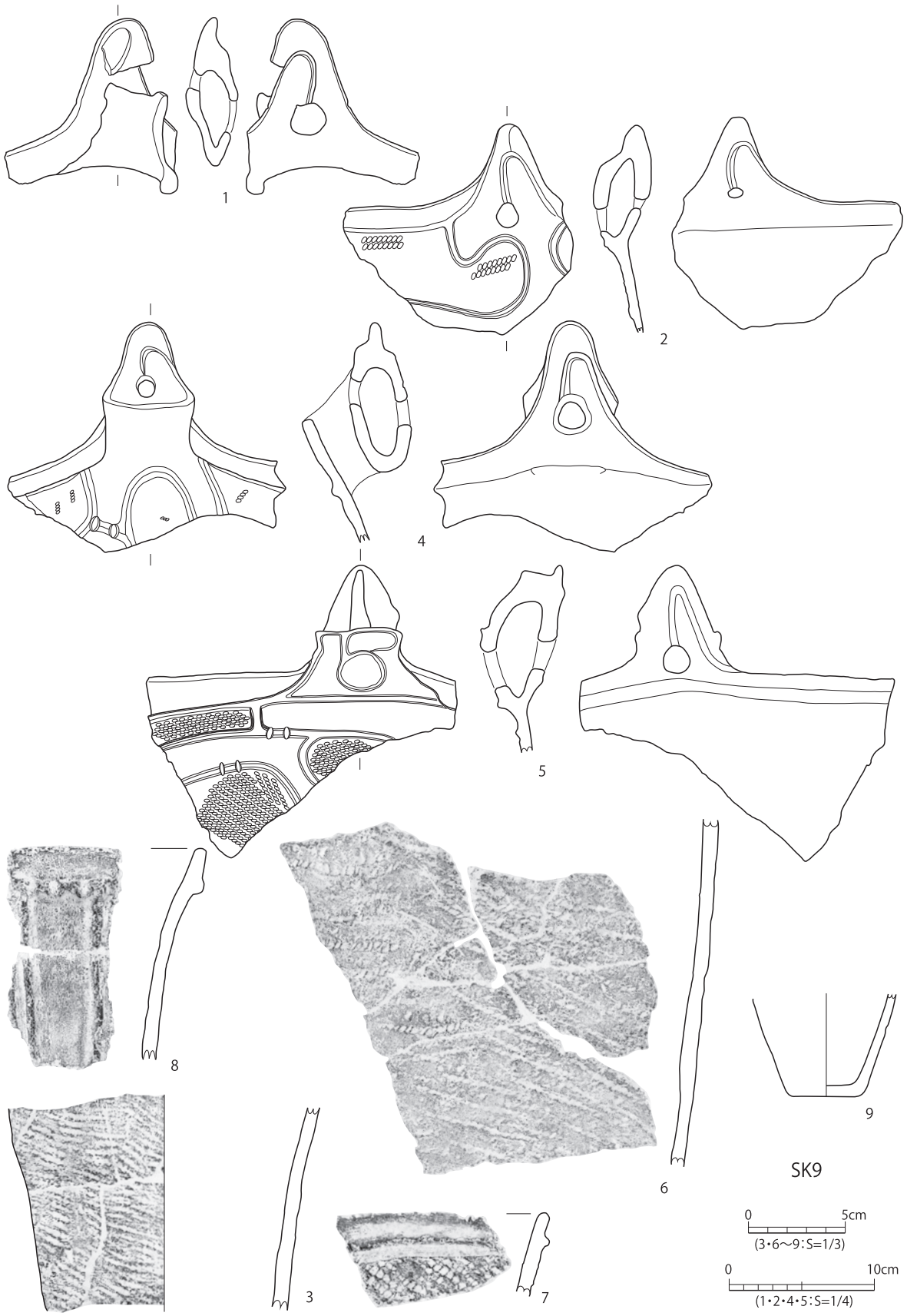
＊1　縄文土器深鉢は第 18図の遺構平面および写真図版 5に示した個体であるが、断片化、細片化し復元が困難なため図化できなかった。



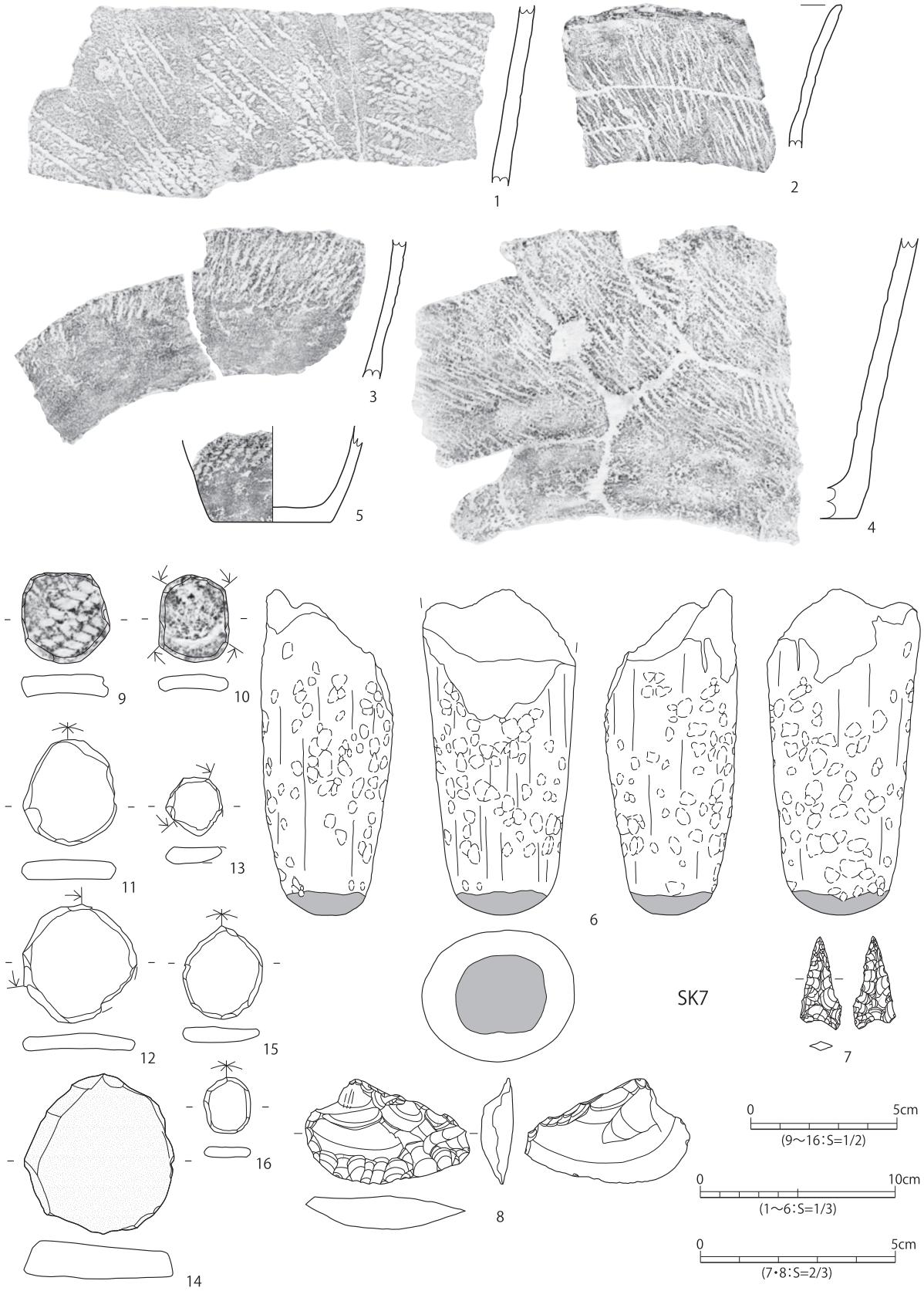

第 21 図　高谷遺跡 7 区 SK1・SK2・SK3・SK4 出土遺物（縄文土器、石器・石製品、円盤状土製品）




第 22 図　高谷遺跡 7 区 SK6・SK9 出土遺物（石器・石製品、円盤状土製品）




第 23 図　高谷遺跡 7 区 SK9 出土遺物（縄文土器）




第 24 図　高谷遺跡 7 区 SK7 出土遺物（縄文土器、石器、円盤状土製品・石製品）

⑷ ８区

【SK１土坑】（第 25図）

［平面形］不整円形

［断面形］底面は平坦で、中央部には直径約 25cm、深さ約 10cmのピットが認められた。壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状に一部でオーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.5m、短軸約 1.6m、深さ約 0.6m

［堆積土］自然堆積土

［遺物］遺物は出土していない。

【SK２土坑】（第 25図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、中央部には径 20cm、深さ10cmのピットが認められた。壁は下端で丸みを帯びながら立ち上がり、フラスコ状にオーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.2m、短軸約 0.7m、深さ約 0.8m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中から完形の縄文土器深鉢（第 26図１）、円盤状土製品（第 26図４・５）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK３土坑】（第 25図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面中央に長軸約 27cm、短軸約 22cm、深さ約 6cmの浅いピットを有する。

［規模］長軸約 1.2m、短軸約 1m、深さ約 1m

［堆積土］人為的埋土

［遺物］堆積土中から縄文土器深鉢（第 26図２・３）、円盤状土製品（第 26図６）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK４土坑】（第 25図）

［平面形］不整円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は直角に立ち上がっている。床面中央に直径約 25cm、深さ約 15cmのピットを有する。

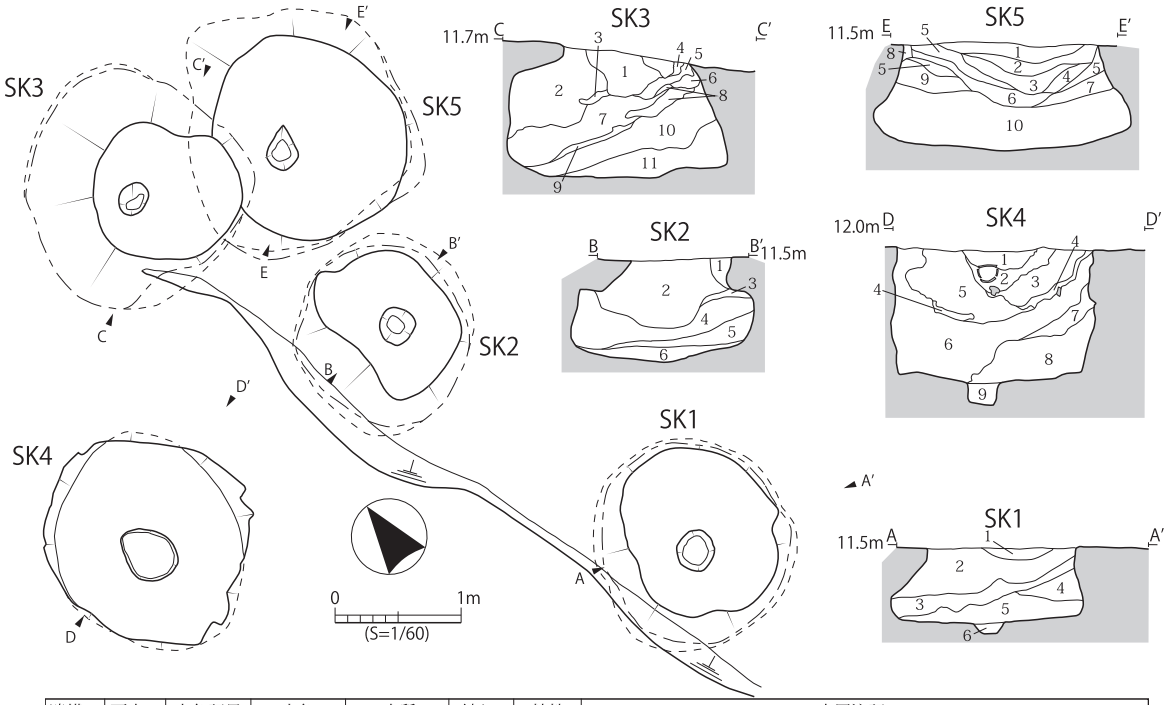
［規模］直径約 1.6m、深さ約 1.1m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］堆積土中から円盤状土製品（第 26図 7）、縄文土器深鉢[＊2]のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK５土坑】（第 23図）

［平面形］不整円形




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | あり | あり | 炭化物・径1cmまでの地山ブロックを含む |
| | 2 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 径2cmまでの地山ブロックを含む、炭化物を少量含む |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 径2cmまでの地山ブロックを含む、炭化物を微量含む |
| | 4 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | ややあり | あり | 径1cmまでの地山ブロックを多く含む |
| | 5 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | 地山ブロックを少量含む |
| | 6 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | （地山ブロックを含まない） |
| SK2 | 1 | 10YR7/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 2 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を多く含む、径8cmまでの礫・地山ブロックを含む |
| | 3 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 5 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を含む |
| | 6 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を含む |
| SK3 | 1 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト | あり | | 径10mmまでの礫をわずかに含む |
| | 2 | 2.5Y7/3 | 浅黄 | 粘質シルト | | あり | 風化砂岩片を少量含む |
| | 3 | 2.5Y7/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | | あり | |
| | 4 | 2.5Y7/3 | 灰黄褐 | シルト | | | 炭化物をわずかに含む、径10mmまでの礫を少量含む |
| | 5 | 2.5Y7/3 | 浅黄 | シルト | | | 炭化物・径5～25mmの礫を少量含む |
| | 6 | 2.5Y7/3 | 浅黄 | 粘質シルト | | 強 | 5層よりやや明るい。炭化物・礫を少量含む |
| | 7 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | 粘質シルト | | 強 | 1層よりやや暗い。水分を多く含む |
| | 8 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | シルト | | | 炭化物・地山粒を少量含む |
| | 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄 | シルト | | | 径1.5cmまでの炭化物を少量含む |
| | 10 | 2.5Y5/4 | 黄褐 | 粘質シルト | | | 径1cmまでの礫を少量含む |
| | 11 | 2.5Y6/4 | にぶい黄 | 粘質シルト | | | 淡黄色粘質シルトをブロック状に含む |
| SK4 | 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | あり | 炭化物・径1cmまでの地山粒を含む |
| | 2 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 炭化物・地山ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR6/6 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | 径3cmまでの地山ブロックを含む、炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む、地山ブロックを微量含む |
| | 5 | 10YR6/6 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む、径3cmまでの地山ブロックを含む |
| | 6 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を微量含む、径1cmまでの地山ブロックを少量含む |
| | 7 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | | | 炭化物を微量含む、径1cmまでの地山ブロックを少量含む |
| | 8 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を少量含む、径1cmまでの地山ブロックを含む |
| | 9 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を含む |
| SK5 | 1 | 10YR5/4 | にぶい明褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山ブロック・径5cmまでの礫を含む |
| | 2 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・地山ブロック・径8cmまでの礫を含む |
| | 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を多く含む、地山ブロックを含む |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |
| | 5 | 10YR8/6 | 黄橙 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を含む |
| | 6 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を多量に含む、地山ブロックを含む |
| | 7 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を含む、地山ブロックを多く含む |
| | 8 | 10YR8/6 | 黄橙 | シルト | あり | ややあり | にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質シルトを含む |
| | 9 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | ややあり | 炭化物を少量含む、地山ブロックを含む |
| | 10 | 10YR5/6 | 黄褐 | 砂質シルト | なし | ややあり | 炭化物・地山ブロックを含む |

第 25 図　高谷遺跡８区遺構平面・断面図

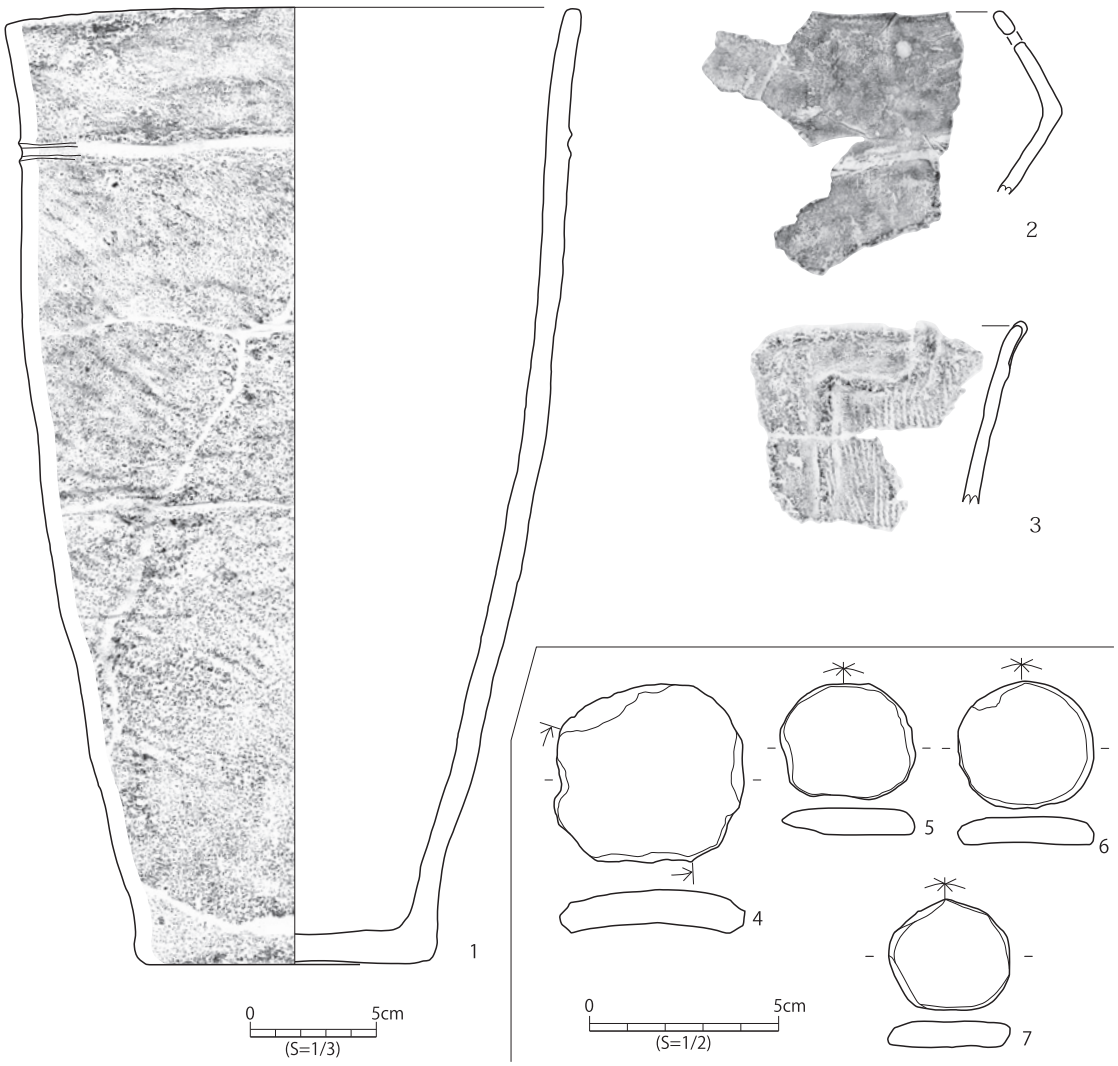
［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、断面形はフラスコ状である。

［規模］直径約 1.5m、深さ約 0.9m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土

［遺物］各層から少量の縄文土器、数点の石器類（剥片を含む）が出土した。

＊２　縄文土器深鉢は第 25図の遺構断面図および写真図版 6に示した個体であるが、断片化、細片化し復元が困難なため図化できなかった。




第 26 図　高谷遺跡 8 区 SK2・SK3・SK4 出土遺物（縄文土器、円盤状土製品）

⑸ ９区

【SK1土坑】（第 27図）

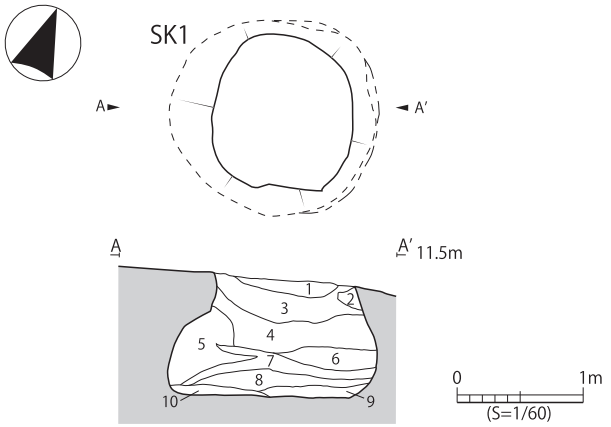
［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、断面形はフラスコ状にオーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.7m、短軸約 1.5m、深さ約 1.0m

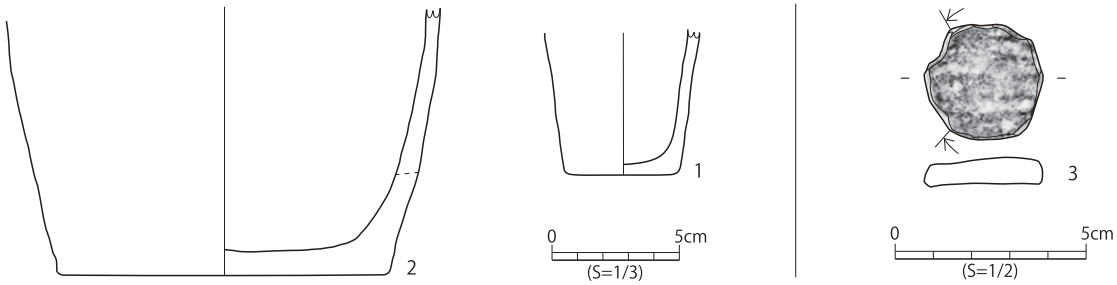
［堆積土］人為的埋土・地山崩落土

［遺物］堆積土中からミニチュア土器（第 28図１）、円盤状土製品（第 28図３）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。底面近くから縄文土器深鉢（第 28図２）が出土した。




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を多く含む、径10mmまでの地山ブロックをわずかに含む |
| | 2 | 10Y5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山ブロック主体 |
| | 3 | 10Y5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を含む、径10mmまでの地山ブロックをわずかに含む |
| | 4 | 10Y6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む、径10mmまでの地山ブロックを少量含む |
| | 5 | 10Y6/8 | 明黄褐 | シルト | 強 | 弱 | 径10mmまでの地山ブロックを多く含む |
| | 6 | 7.5Y5/8 | 明褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を微量含む、径2cmまでの地山ブロックを含む |
| | 7 | 10Y6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む |
| | 8 | 10Y7/8 | 黄橙 | 粘質シルト | あり | あり | 径10mmまでの地山ブロックを少量含む |
| | 9 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | |
| | 10 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | |

第 27 図　高谷遺跡９区遺構平面・断面図




第 28 図　高谷遺跡９区 SK1 出土遺物（縄文土器、円盤状土製品）

⑹ 10区

【SK1土坑】（第 29図）

［平面形］不整円形

［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がる。

［規模］直径約 1.2mと推定される。深さ約 0.6m

［堆積土］自然堆積土

［出土遺物］堆積土中から縄文土器片少量が出土した。

【SK2土坑】（第 29図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は下端で丸みを帯びて立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面に長軸約 44cm、短軸約 43cm、深さ約 7cmの浅いピットを有する。

［規模］長軸 1.7m前後と推定される。短軸約 1.4m、深さ約 0.7m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土・人為的埋土

［出土遺物］堆積土中から石鏃（第 31図１・２）、底面近くから円盤状土製品（第 31図７）が出土したほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK3土坑】（第 29・30図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。床面中央に直径約 20cm、深さ約 5cmの浅いピットを有する。

［規模］長軸約 1.3m、短軸約 1.1m、深さ約 0.5m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土・人為的埋土

［遺物］堆積土中から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK4土坑】（第 29・30図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は平坦で、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。

［規模］長軸約 1.6m、短軸約 1.1m、深さ約 0.7m

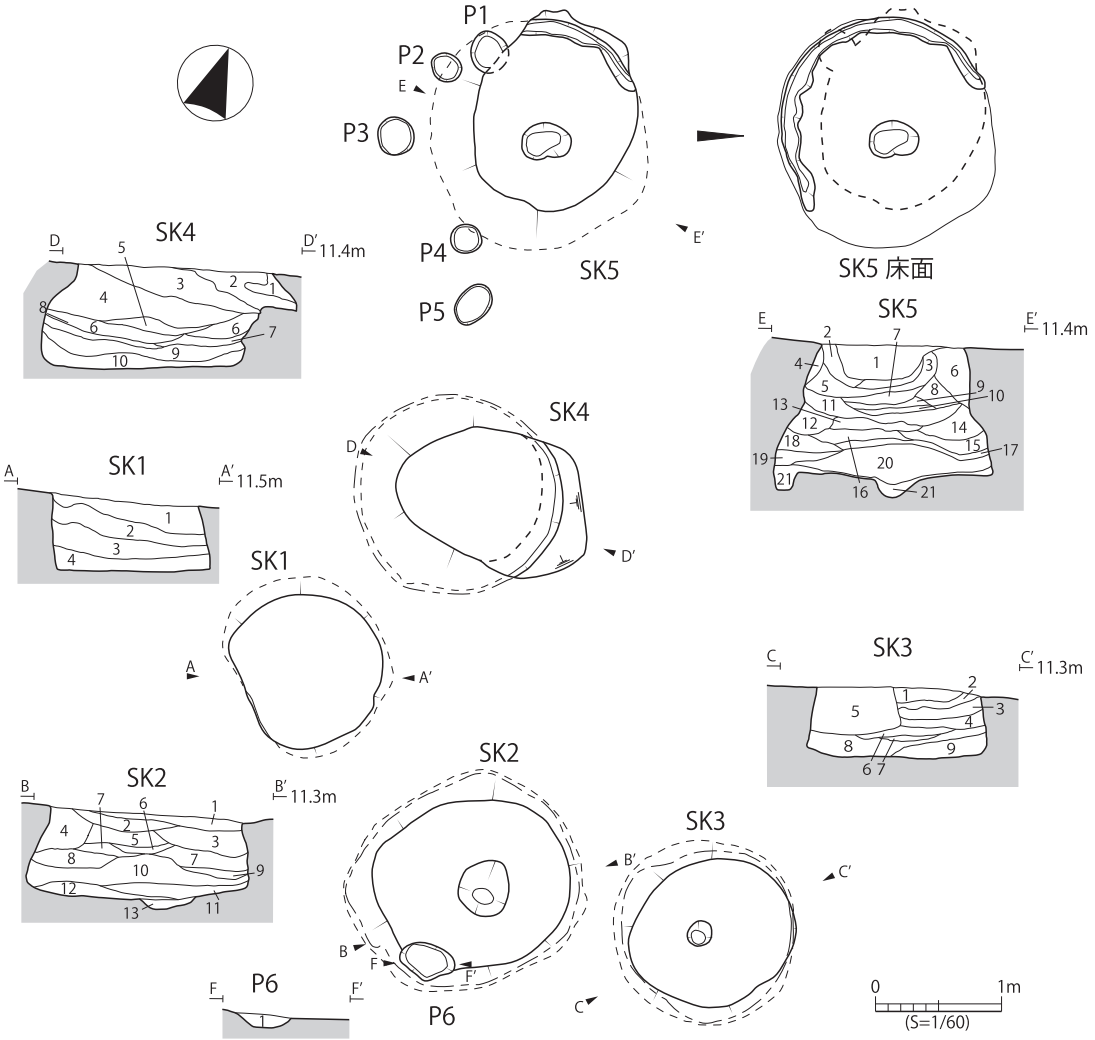
［堆積土］人為的埋土

［遺物］底面近くから石鏃（第 30図３）、円盤状土製品（第 30図８）、堆積土中から石鏃（第 31図４）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【SK5土坑】（第 29・30図）

［平面形］不整楕円形

［断面形］底面は中央に向かってやや窪み、壁は直角に立ち上がり、フラスコ状に一部オーバーハングしている。西側の半周に周溝が巡り、中央部には直径約 40cm、深さ約 15cmのピット




| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 地山土を斑点状に多く含む。褐色(10YR4/4)土を多く含む、炭化物を少量含む |
| | 2 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山土を斑点状に多く含む。褐色(10YR4/4)土を多く含む、炭化物を少量含む |
| | 3 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山土を含む。褐色(10YR4/4)土を多く含む、炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 地山土を含む。褐色(10YR4/4)土を含む |
| SK2 | 1 | 5YR4/8 | 赤褐 | シルト | あり | なし | 焼土層、炭化物・褐色(7.5YR4/6)土を含む。石灰岩を多く含む |
| | 2 | 7.5YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 炭化物・焼土を少量含む。石灰岩を含む |
| | 3 | 7.5YR4/4 | 褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 炭化物・褐色(7.5YR4/6)土粒を含む。焼土を多く含む |
| | 4 | 7.5YR5/6 | 明褐 | 粘質シルト | あり | あり | 地山ブロック・10cm前後の礫を含む |
| | 5 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 明褐色(7.5YR5/6)土・炭化物を含む |
| | 6 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 7 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 8 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 炭化物・明褐色(7.5YR5/6)土を少量含む |
| | 9 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 褐色(10YR4/6)土が混じる |
| | 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 2～3cmの炭化物を含む |
| | 11 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 砂を含む |
| | 12 | 10YR7/6 | 明黄橙 | 粘質シルト | あり | あり | 地山土が混じる、炭化物を少量含む |
| | 13 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 黄橙色(10YR7/8)土・炭化物・小礫を少量含む |
| P2 | 1 | | 明褐 | シルト | あり | あり | 白赤色の粒を含む（非常に浅いピット。断面図なし） |
| P3 | 1 | | 明褐 | シルト | あり | あり | 白赤色の粒を含む（非常に浅いピット。断面図なし） |
| P4 | 1 | | 明褐 | シルト | あり | あり | 白赤色の粒を含む（非常に浅いピット。断面図なし） |
| P5 | 1 | | 明褐 | シルト | あり | あり | 白赤色の粒を含む（非常に浅いピット。断面図なし） |
| P6 | 1 | 5YR4/6 | 赤褐 | シルト | あり | なし | 黄褐色(10YR5/6)土と焼土が混ざった層。炭化物・3cm前後の礫をわずかに含む |

第 29 図　高谷遺跡 10 区遺構平面・断面図 (1)

| 遺構No | 覆土No | 土色記号 | 土色 | 土質 | 締り | 粘性 | 土層注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK3 | 1 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | なし | 炭化物を含む。橙色(7.5YR6/6)土を少量含む |
| | 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐 | シルト | あり | なし | 炭化物を多く含む。黄褐色(10YR7/8)土を斑点状に含む |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 明黄褐色(10YR6/8)土を含む。炭化物を少量含む |
| | 4 | 10YR4/4 | 褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 明黄褐色(10YR6/8)土・炭化物を含む |
| | 5 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘質シルト | ややあり | あり | 明黄褐色(10YR6/8)土を斑点状に含む。炭化物を多く含む |
| | 6 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | シルト | あり | なし | 黄褐色(10YR7/8)土を斑点状に含む。炭化物を少量含む（焼土層） |
| | 7 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | ややあり | 明黄褐色(10YR6/8)土を多く含む、炭化物を少量含む |
| | 8 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 明黄褐色(10YR6/8)土・炭化物を含む |
| | 9 | 10YR5/6 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 明黄褐色(10YR6/8)土を斑点状に含む。炭化物を少量含む |
| SK4 | 1 | 10YR6/8 | 明黄褐 | シルト | あり | あり | 地山ブロックを含む（撹乱？） |
| | 2 | 7.5YR2/3 | 極暗褐 | シルト | あり | 弱 | （撹乱？） |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 黄・白土粒を含む（撹乱？） |
| | 4 | 10YR6/6 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・10mm以下の石粒を含む |
| | 5 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物をやや多く含む、10mm以下の石粒を含む |
| | 6 | 10YR4/6 | 褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・10mm以下の石粒を含む |
| | 7 | 10YR5/8 | 黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | 炭化物・石粒を含む |
| | 8 | 10YR3/4 | 暗褐 | 粘質シルト | あり | あり | ほとんど炭化物の層 |
| | 9 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 粘質シルト | あり | あり | |
| | 10 | 10YR6/8 | 黄橙 | 粘質シルト | なし | あり | |
| SK5 | 1 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 2 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 径10mm程度の地山ブロックを含む |
| | 3 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 径10mm程度の地山ブロックを含む |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 径2cm程度の地山ブロックを多量に含む |
| | 5 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | あり | あり | 炭化物・径10mm以下の小礫を少量含む |
| | 6 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | あり | 径4cm以上の地山ブロックを含む |
| | 7 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を少量含む |
| | 8 | 10YR5/8 | 褐 | 砂質シルト | 弱 | ややあり | |
| | 9 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物・石粒を少量含む |
| | 10 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物・石粒を含む |
| | 11 | 10YR5/8 | 黄褐 | 砂質シルト | 弱 | あり | 径10mm以下の石粒を含む |
| | 12 | 10YR6/8 | 明黄橙 | 砂質シルト | 弱 | あり | 径10mm以下の石粒を含む |
| | 13 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト | ややあり | 弱 | 炭化物・石粒を含む |
| | 14 | 10YR6/8 | 明黄褐 | 砂質シルト | 弱 | あり | 径10mm以下の石粒を含む |
| | 15 | 10YR7/8 | 黄橙 | シルト | あり | あり | 炭化物・径10mm以下の石粒を含む |
| | 16 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を含む |
| | 17 | 10YR2/3 | 暗褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物を多く含む、石粒を少量含む |
| | 18 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 炭化物・石粒を少量含む |
| | 19 | 10YR4/6 | 褐 | シルト | ややあり | あり | 石粒を含む |
| | 20 | 10YR6/8 | 明黄橙 | 砂質シルト | ややあり | あり | 石粒・地山ブロックを含む |
| | 21 | 10YR5/8 | 黄褐 | シルト | あり | あり | |

第 30 図　高谷遺跡 10 区遺構平面・断面図 (2)

を有する。

［規模］長軸約 1.5m、短軸約 1.3m、深さ約 1.2m

［堆積土］地山崩落土を含む自然堆積土・人為的埋土

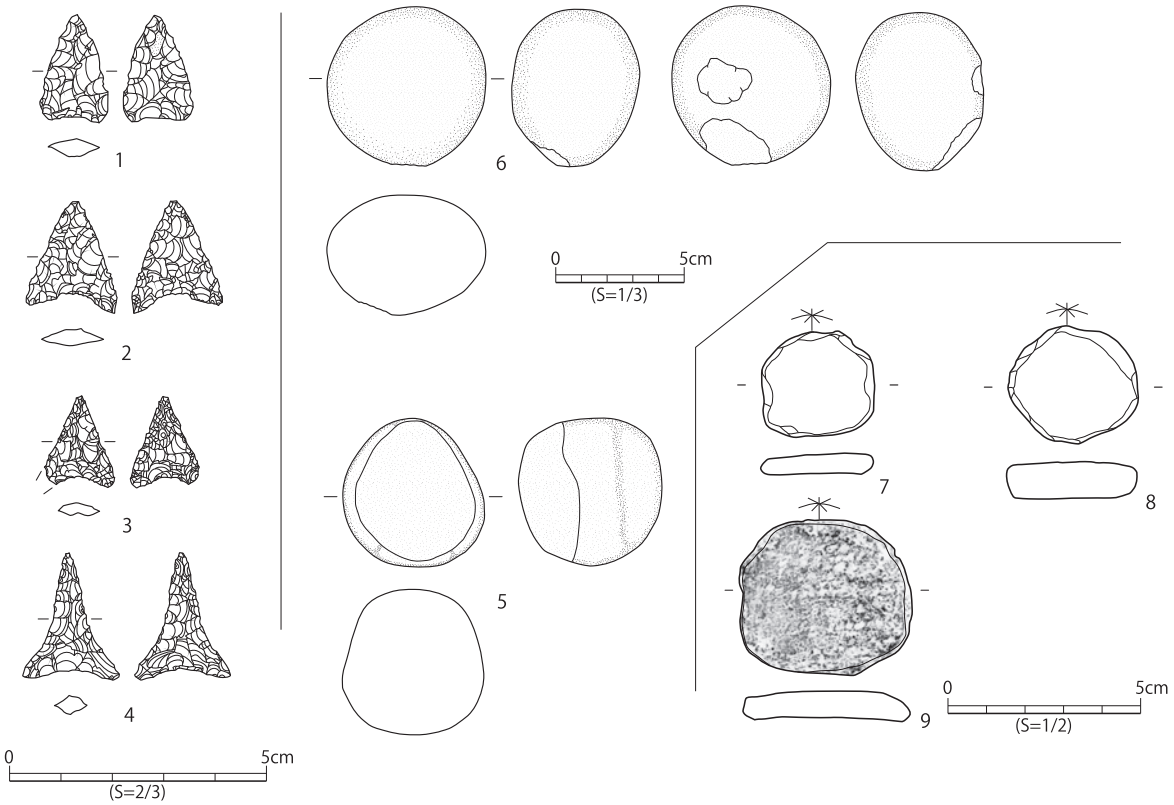
［遺物］堆積土中から磨石（第 31図５）、敲石（第 31図６）、円盤状土製品（第 31図９）のほか、各層から縄文土器片、石器類（剥片を含む）が出土した。

【ピット】

調査区北部を中心に 6基検出した（第４・29図、第４表）が、遺物は出土していない。

| No | 平面形 | 径(cm) | 深さ(cm) | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 円形 | (31) | － | |
| 2 | 円形 | 22 | － | |
| 3 | 円形 | 30 | 2 | |
| 4 | 円形 | 24 | 5 | |
| 5 | 楕円形 | 46/24 | 2 | |
| 6 | 楕円形 | 46/26 | 11 | |

第４表　高谷遺跡 10 区検出ピット一覧




第 31 図　高谷遺跡 10 区 SK1・SK2・SK4・SK5 出土遺物（石器、円盤状土製品）

⑺ 12区

確認調査を実施し、第 1～ 3トレンチの西側と調査区第 1トレンチの東側および第 4トレンチにおいて遺物包含層を検出した。検出状況から、遺物包含層は２つの広がりをもつと考えられ、西側を包含層１、東側を包含層２としたが、この調査区は盛土造成されることから範囲確認のみに留め、堆積状況は未確認である。第５トレンチでは遺構は検出されなかった。

遺物は、包含層表層で採取したものである。

【遺物包含層 1】（第４図）

［規模］東西最大 8m、南北 16m以上

［堆積土］暗褐色シルト

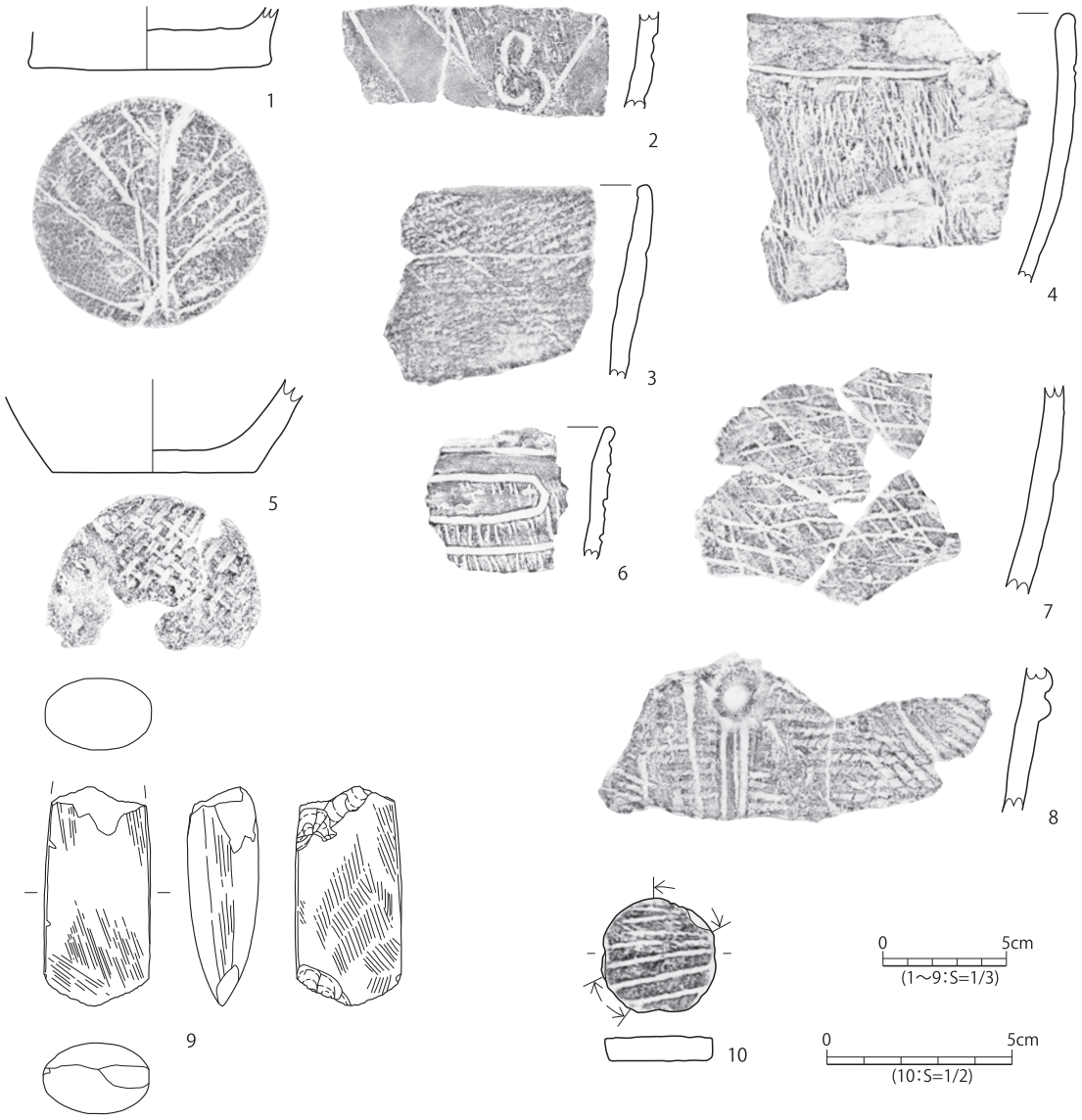
［出土遺物］縄文土器片が出土した。

【遺物包含層 2】（第４図）

［規模］不明

［堆積土］暗褐色シルト

［出土遺物］縄文土器深鉢 8点（第 32図 1～ 8）、磨製石斧（第 32図 9）、円盤状土製品（第 32図 10）のほか、縄文土器片が出土した。




第 32 図　高谷遺跡 12 区包含層 2 出土遺物（縄文土器、石器、円盤状土製品）

## 3．まとめ

⑴ 掘立柱建物

5 区では柱痕跡を残すピットが検出されており、それらから 2 棟の掘立柱建物が想定できる。遺物を伴わないため時期は不明だが、近くに貝捨て遺構（SX1）があり製塩土器を含む土師器、須恵器が出土していることもあり、古代の建物跡と推察される。

⑵ 土坑

単純な堆積状況のもの（5 区 SK2・SK12、7 区 SK8）と、複雑な堆積状況で壁が垂直またはフラスコ状のもの（それら以外）に大別できる。また、後者には床面にピットや周溝を持つものが目立つ。2012 年度の調査でも指摘されているが、土坑の形態や堆積土の状況から、

これらは貯蔵穴群であったと考えられる。

また、いくつかの土坑で切り合い関係が認められた。7 区では SK5 と SK4、SK3 と SK2、SK9 と SK7 で切り合い関係が認められた。SK9 と SK7 は調査時には前後関係が不明であったものの、SK9 から門前式、SK7 から大木 10 式の土器が出土していることから、SK9 が SK7 よりやや古いと考えられる。

⑶ 貝捨て遺構

5 区で検出した SX1 からはまとまった量の自然遺物(大半を貝類が占める)が出土している。その詳細については、後述する。

⑷ 遺物包含層

5 区の遺物包含層からは縄文土器のほか須恵器や土師器、製塩土器が出土している。出土した層位が明確でないものの古代以降の堆積と考えてよいだろう。12 区で検出した包含層からは縄文土器や石器以外の遺物は出土しておらず、縄文時代の堆積であろう。

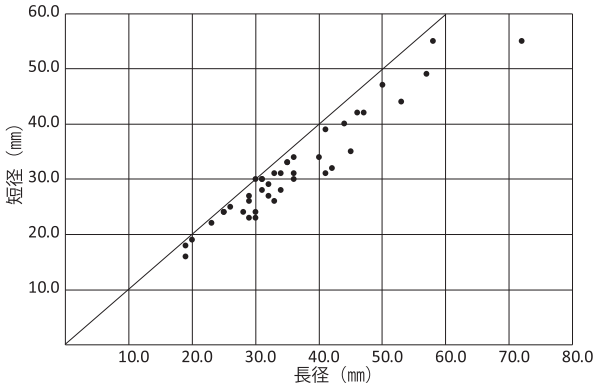
⑸ 遺物

2012 年度の調査と同様、出土遺物の大半は縄文土器と石器である。土器のうち時期がある程度判明するものは縄文時代中期末（大木 9 式から大木 10 式）・後期初頭（門前式）の特徴を持つ。

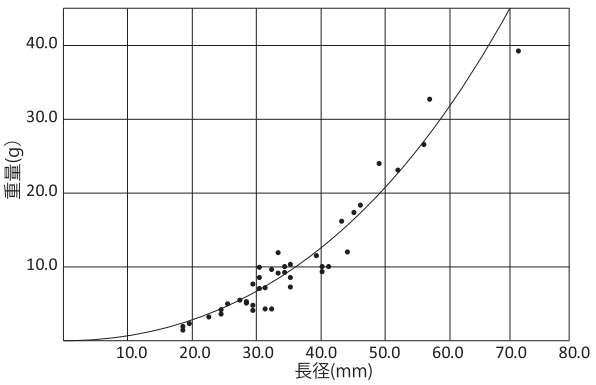
石器は、打製のものでは石鏃、特に基部が凹基のものが多く、その他の尖頭器や石錐は少ない。礫石器では磨石・砥石類がやや目立つ。磨製石斧は包含層からの 1 点のみであった。

その他、円盤状製品(土製品 42点、石製品 2 点）の出土が目立ち、その半数以上の 25点が 7 区から出土している。平面形態は不定形が多いが側縁部の全周を研磨するものは多くなく、直線的な辺を残すものも見られる。また、全体で見ても稜が無くなるほど研磨されたものは比較的少ない(第 9表)。

長さや重量については第 33図・第 34図に示した通りである。




第 33 図　円盤状土製品の長・短径相関図




第 34 図　円盤状土製品の長径・重量相関図

## 第５表　高谷遺跡出土土器観察表（1）

| 図版 | 写真 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 型式 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | 特徴/備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11－1 | 8－1 | 5区 | SK1 | － | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | － | （11） | 取っ手付き |
| 11－2 | 8－2 | 5区 | SK1 | 1.2層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | | － | － | （16.6） | 縄文（RL） |
| 11－3 | 8－3 | 5区 | SK1 | 2層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （6.3） | 沈線文、撚糸文 |
| 11－4 | 8－4 | 5区 | SK1 | 4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | 9.9 | （11.7） | |
| 11－6 | 8－5 | 5区 | SK3 | 3.4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | 大木10 | － | － | （6） | 波状縁、穿孔 |
| 11－7 | 8－6 | 5区 | SK3 | 5層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （7.4） | |
| 11－8 | 8－7 | 5区 | SK3 | 6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 大木10 | － | － | （16.2） | 隆線文、縄文 |
| 11－9 | 8－8 | 5区 | SK3 | 6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 大木10 | － | － | （7.5） | 隆線文、縄文（LR） |
| 11－10 | 8－9 | 5区 | SK3 | 6～9層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 9 | （1.8） | 木葉痕 |
| 11－11 | 8－10 | 5区 | SK3 | 7層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | 10.5 | （7.1） | 縄文 |
| 12－7 | 8－11 | 5区 | SK4 | 3～4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | | － | － | （9） | |
| 12－13 | 8－12 | 5区 | SK5 | 8～9層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 11.2 | （3.5） | 網代圧痕 |
| 13－1 | 8－13 | 5区 | SK6 | － | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | 4.2 | （8.3） | |
| 13－2 | 8－14 | 5区 | SK6 | 中層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （3） | 撚糸文 |
| 11－13 | 8－15 | 5区 | SK8 | 9層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | 3.5 | （6） | 無文 |
| 11－15 | 8－16 | 5区 | SK9 | 1～3層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （7.1） | 隆線文 |
| 13－6 | 8－17 | 5区 | SK10 | 1層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 11 | （7） | 木葉痕 |
| 13－7 | 8－18 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | 5.8 | 8.6 | 無文 |
| 13－8 | 9－19 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （6.7） | 隆線文 |
| 13－9 | 9－20 | 5区 | SK10 | － | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 門前 | － | － | （7.9） | 隆線文、沈線文、ボタン状貼付 |
| 14－8 | 9－21 | 5区 | SK11 | 9～12層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 門前 | － | － | （11.5） | 沈線文、撚糸文 |
| 14－9 | 9－22 | 5区 | SK11 | 9～12層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部か？ | 大木9？ | － | － | （8.9） | 沈線文、縄文（RL） |
| 14－10 | 9－23 | 5区 | SK11 | 9～12層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | － | （4.3） | 木葉痕 |
| 14－11 | 9－24 | 5区 | SK11 | 9～12層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 門前 | － | － | （9） | |
| 14－12 | 9－25 | 5区 | SK13 | 3層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （11.9） | 縄文（摩滅・RL?） |
| 14－13 | 9－26 | 5区 | SK13 | 4層 | 縄文土器 | ミニチュア土器 | 底部 | | － | 4.6 | （2.6） | 縄文（RL） |
| 14－14 | 9－27 | 5区 | SK13 | 4層 | 縄文土器 | 小型壺 | 底部 | | － | － | （2.2） | |
| 14－15 | 9－28 | 5区 | SK13 | 4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | － | （7.9） | 縄文（摩滅） |
| 14－16 | 9－29 | 5区 | SK13 | 4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | － | （2.6） | 木葉痕 |
| 14－17 | 9－30 | 5区 | SK13 | 4層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 門前 | － | － | （4.6） | 刺突文、縄文（LR） |
| 15－4 | 9－31 | 5区 | SK16 | 1～6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 門前 | － | － | （22.4） | 口縁部：無文帯　撚糸文 |
| — | 9－32 | 5区 | — | 包含層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | － | － | （9.5） | |
| — | 9－33 | 5区 | — | 包含層 | 土師器 | 坏 | 底部 | | － | － | （1.5） | 内面黒色 |
| — | 9－34 | 5区 | — | 包含層 | 土師器 | 製塩土器 | 胴部 | | － | － | － | 45点、900g |
| 16－1 | 9－35 | 6区 | SK1 | 1.2層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 6 | （1.1） | 木葉痕 |
| 16－2 | 9－36 | 6区 | SK1 | 5.6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 13.8 | （1） | 木葉痕 |
| 21－1 | 10－37 | 7区 | SK1 | 2層 | 縄文土器 | 注口土器 | 口縁～底部 | 大木10？ | 4.5 | 4.2 | （8.7） | 取っ手付き |
| 21－4 | 10－38 | 7区 | SK2 | 6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | | － | 14.2 | （6.5） | 木葉痕 |
| 21－15 | 10－39 | 7区 | SK3 | 5層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （9.2） | 沈線区画文、縄文（LR？） |
| 21－16 | 10－40 | 7区 | SK4 | 6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | － | （7.7） | 隆線文、縄文（RL？） |
| 24－1 | 10－41 | 7区 | SK7 | 5～8層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （9.5） | 撚糸文 |
| 24－2 | 10－42 | 7区 | SK7 | 6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 大木10 | － | － | （7.4） | 口縁：無文帯　撚糸文 |
| 24－3 | 10－43 | 7区 | SK7 | 6～8層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （7.2） | 無文帯、撚糸文 |
| 24－4 | 10－44 | 7区 | SK7 | 6～8層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （14.4） | 無文帯、撚糸文 |
| 24－5 | 10－45 | 7区 | SK7 | 9層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | 大木10？ | － | 6.2 | （4） | 無文帯、撚糸文 |
| 23－1 | 10－46 | 7区 | SK9 | 10～19層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | 門前？ | － | － | （12） | 把手 |
| 23－2 | 10－47 | 7区 | SK9 | 10～19層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | 門前 | － | － | （14.5） | 隆線区画文、縄文（RL） |

## 第６表　高谷遺跡出土土器観察表（2）

| 図版 | 写真 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 型式 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | 特徴/備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23－3 | 11－48 | 7区 | SK9 | 10～19層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （10.5） | 縄文（RL） |
| 23－4 | 11－49 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | 門前 | － | － | （15.9） | |
| 23－5 | 11－50 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | 門前 | － | － | （23） | 隆線区画文、縄文（LR） |
| 23－6 | 11－51 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （18.3） | 縄文（RL） |
| 23－7 | 11－52 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （4.3） | 隆線文 |
| 23－8 | 11－53 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 門前 | － | － | （11） | |
| 23－9 | 11－54 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 縄文土器 | 小型土器 | 胴部～底部 | | － | 3.6 | （5.3） | |
| 26－1 | 12－55 | 8区 | SK2 | 3～6層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | 大木10 | 22.9 | 10.3 | 38 | 無文帯、沈線、縄文 |
| 26－2 | 12－56 | 8区 | SK3 | 下層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | － | （8.3） | 無文、穿孔 |
| 26－3 | 12－57 | 8区 | SK3 | 下層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | － | （4.7） | 撚糸文 |
| 28－1 | 12－58 | 9区 | SK1 | 1層 | 縄文土器 | ミニチュア土器 | 底部～胴部 | | － | 4.4 | (5.3) | （摩滅している） |
| 28－2 | 12－59 | 9区 | SK1 | 7～10層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部～胴部 | 大木10？ | － | － | （10.5） | 無文 |
| 32－1 | 12－60 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | 9.9 | （2.5） | 木葉痕 |
| 32－2 | 12－61 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （3.9） | |
| 32－3 | 12－62 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | | － | － | （7.9） | |
| 32－4 | 12－63 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 大木10 | － | － | （11） | |
| 32－5 | 12－64 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | － | － | （3.2） | 網代圧痕 |
| 32－6 | 12－65 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 大木10 | － | － | （5.5） | 沈線区画文 |
| 32－7 | 12－66 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | | － | － | （8.6） | |
| 32－8 | 12－67 | 12区 | 1T | 包含層2 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | 門前 | － | － | （6.8） | ボタン状貼付、撚糸文 |

## 第７表　高谷遺跡出土石器観察表（1）

| 図版 | 写真 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 石材 | 長さ（mm） | 幅（mm） | 厚さ（mm） | 重量（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12－1 | 13－1 | 5区 | SK4 | 5.6層 | 敲石 | 閃緑岩 | 107.8 | 92.4 | 69.1 | 1080 | |
| 12－2 | 13－2 | 5区 | SK4 | 7層 | 石皿 | 凝灰岩 | 189.5 | 101 | 42.8 | 589.38 | |
| 12－8 | 13－3 | 5区 | SK5 | 3～7層 | 棒状石製品 | 砂岩 | 195 | 66 | 43.3 | 848.79 | |
| 12－9 | 13－4 | 5区 | SK5 | 7層 | 棒状石製品 | 砂岩 | 229.2 | 75 | 59 | 1599.95 | |
| 12－10 | 13－5 | 5区 | SK5 | 4層 | 磨石 | 砂岩 | 113.6 | 85.5 | 46.8 | 680 | |
| 13－3 | 13－6 | 5区 | SK6 | 上層 | 砥石 | 砂岩 | 157.7 | 95.1 | 26.3 | 518.18 | |
| 13－10 | 13－7 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 磨石 | 閃緑岩 | 110.3 | 94.1 | 76.9 | 1135 | |
| 13－11 | 13－8 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 棒状石製品 | 閃緑岩 | 210.3 | 82.2 | 72 | 1904.81 | 磨石か |
| 13－12 | 13－9 | 5区 | SK10 | 1層 | 棒状石製品 | 閃緑岩 | 172.6 | 94.5 | 51 | 1296.9 | |
| 14－3 | 13－10 | 5区 | SK11 | 7.8層 | 石皿 | 凝灰岩 | 88 | 69.3 | 46 | 298.83 | |
| 14－4 | 13－11 | 5区 | SK11 | 2～6層 | 凹石 | 砂岩 | 123 | 60 | 37.5 | 375.13 | 焼け跡有 |
| 15－3 | 13－12 | 5区 | SK15 | 1層 | 敲石 | 凝灰岩 | 121 | 58 | 42.1 | 421.86 | |
| 15－1 | 13－13 | 5区 | SK15 | 1層 | 石皿 | 花崗閃緑岩 | 219.4 | 189.6 | 33.5 | 2031.03 | |
| 15－2 | 13－14 | 5区 | SK15 | 1層 | 凹石・砥石 | 砂岩 | 268 | 173.8 | 88.3 | 4590 | |
| 21－5 | 13－15 | 7区 | SK2 | 10層 | 磨石・敲石 | 砂岩 | 58.6 | 65.5 | 69.12 | 350 | 磨面に先行する敲打痕の痕跡が残る |
| 22－1 | 14－16 | 7区 | SK6 | 床直 | 砥石・敲石 | 砂岩 | 145.6 | 56.1 | 50.2 | 685.88 | 焼け跡有 |
| 22－6 | 14－18 | 7区 | SK7 | 9～13層 | 棒状石製品 | 輝緑凝灰岩 | 167.2 | 78.6 | 68.2 | 1089.93 | |
| 24－6 | 13－17 | 7区 | SK9 | 10～19層 | 凹石・砥石 | 花崗閃緑岩 | 168 | 60 | 56.5 | 1028.37 | 焼け跡有 |
| 22－7 | 13－19 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 磨石 | 砂岩 | 113.1 | 101.72 | 69.5 | 1115 | 表・裏。両面に磨面をもつ。<br>1/2が火熱を受け、赤く変色する |
| 31－5 | 13－20 | 10区 | SK5 | 20層 | 磨石 | 砂岩 | 57.15 | 55.12 | 56.56 | 256.3 | 表面に磨面をもつ。 |
| 31－6 | 13－21 | 10区 | SK5 | 20層 | 敲石 | 閃緑岩か？ | 61.4 | 60.3 | 47.2 | 244.8 | |
| 32－9 | 14－22 | 12区 | 1T | 包含層2 | 磨製石斧 | デイサイト | 88.9 | 43.1 | 29 | 184.57 | |

## 第８表　高谷遺跡出土石器観察表（2）

| 図版 | 写真 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 石材 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11－5 | 14－23 | 5区 | SK1 | 2層 | 石鏃 | 頁岩 | 21.3 | 13 | 3.3 | 0.62 | 凹基 |
| 12－3 | 14－24 | 5区 | SK4 | 5.6層 | 石鏃 | 頁岩 | 23.2 | 12.1 | 3.2 | 0.55 | 凹基 |
| 12－4 | 14－25 | 5区 | SK4 | 5.6層 | 石鏃 | 頁岩 | 20.5 | 13.2 | 2.3 | 0.38 | 凹基 |
| 12－5 | 14－26 | 5区 | SK4 | 1.2層 | 石錐 | 頁岩 | 39 | 11.3 | 5.7 | 1.58 | 凹基、先端欠損 |
| 12－6 | 14－27 | 5区 | SK4 | 3.4層 | 石錐 | 頁岩 | 47.4 | 18 | 9.7 | 3.69 | |
| 12－12 | 14－28 | 5区 | SK5 | 8.9層 | 石製垂飾品 | 砂岩 | 67.2 | 43.3 | 25.7 | 82.3 | |
| 13－4 | 14－29 | 5区 | SK6 | 上層 | 石鏃 | 頁岩 | 23.3 | 15.4 | 5.3 | 1.23 | 平基 |
| 13－5 | 14－30 | 5区 | SK6 | 中層 | 石鏃 | 頁岩 | 24 | 12.8 | 3.2 | 0.5 | 凹基 |
| 11－14 | 14－31 | 5区 | SK8 | 1～6層 | 石鏃 | 頁岩 | 23.1 | 13.7 | 2.4 | 0.48 | 凹基、アスファルト付着 |
| 13－13 | 14－32 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 石鏃 | メノウ | 27.2 | 18.7 | 3.4 | 0.79 | 凹基、先端破損 |
| 13－14 | 14－33 | 5区 | SK10 | 1～7層 | 石鏃 | 頁岩 | 25.4 | 17.6 | 2.5 | 0.51 | 凹基 |
| 14－1 | 14－34 | 5区 | SK11 | 9～12層 | 石鏃 | 頁岩 | 23 | 18.9 | 3 | 0.61 | 凹基 |
| 14－2 | 14－35 | 5区 | SK11 | 2～6層 | 石鏃 | メノウ | 25 | 17.5 | 2.9 | 0.72 | 凹基 |
| 15－5 | 14－36 | 5区 | SK16 | 7.8層 | 石鏃 | 頁岩 | 25.1 | 14.6 | 3.4 | 0.88 | 凹基、基部一部破損 |
| 15－6 | 14－37 | 5区 | SK16 | 1～6層 | 石匙 | 頁岩 | 67.4 | 24.9 | 7.2 | 12.75 | |
| 15－7 | 14－38 | 5区 | SK16 | 7.8層 | 尖頭器 | 頁岩 | 31.7 | 11.6 | 7.6 | 2.16 | |
| 21－2 | 14－39 | 7区 | SK1 | 2層 | 削器 | 頁岩 | 45 | 32.6 | 9.3 | 10.27 | |
| 21－6 | 14－40 | 7区 | SK2 | 10層 | 石鏃 | 頁岩 | 19.4 | 17.4 | 4.7 | 0.97 | 凹基 |
| 21－19 | 14－41 | 7区 | SK4 | 1.4層 | 石製垂飾品 | 安山岩 | 72.2 | 51.3 | 24.6 | 89.52 | 右側面に条痕あり |
| 22－2 | 14－42 | 7区 | SK6 | 1～6層 | 石製垂飾品 | 砂岩 | 79.6 | 35.9 | 9.4 | 23.12 | |
| 22－3 | 14－43 | 7区 | SK6 | 1～6層 | 石製垂飾品 | 安山岩 | 73 | 56 | 12.3 | 65.18 | 右側面に擦痕あり |
| 24－7 | 14－44 | 7区 | SK7 | 6層 | 石鏃 | 頁岩 | 23.9 | 10.8 | 3.4 | 0.54 | 平基 |
| 24－8 | 14－45 | 7区 | SK7 | 6～8層 | 削器 | 頁岩 | 26.9 | 42 | 8.6 | 7.85 | |
| 22－8 | 14－46 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 石鏃 | メノウ | 18.9 | 13 | 5.2 | 0.94 | 凹基 |
| 22－9 | 14－47 | 7区 | SK9 | 20～26層 | 削器 | 頁岩 | 64.7 | 31.9 | 9.8 | 17.49 | |
| 31－1 | 14－48 | 10区 | SK2 | 7.8層 | 石鏃 | 頁岩 | 21 | 13.6 | 41 | 0.87 | 平基 |
| 31－2 | 14－49 | 10区 | SK2 | 7.8層 | 石鏃 | 黒曜石 | 21.9 | 17.8 | 3.4 | 0.88 | 凹基 |
| 31－3 | 14－50 | 10区 | SK4 | 10層 | 石鏃 | 頁岩 | 17.9 | 13.5 | 3.2 | 0.6 | 凹基 |
| 31－4 | 14－51 | 10区 | SK4 | 1.4層 | 石鏃 | 頁岩 | 24.9 | 18.8 | 4.1 | 0.89 | 凹基、基部一部破損 |

## 第９表　高谷遺跡出土円盤状土製品・石製品観察表

| 図版 | 写真 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 長径（mm） | 短径（mm） | 厚さ（mm） | 重量（g） | 部位 | 平面形態 | 研磨状況 | 側縁部研磨度 | 遺存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11−12 | 15−1 | 5区 | SK3 | 3・4層 | 58.0 | 55.0 | 8.0 | 32.7 | 胴部 | G | 2 | Ⅰ | A | 刻み凸帯 |
| 14−5 | 15−3 | 5区 | SK11 | 2層 | 46.0 | 42.0 | 8.0 | 17.3 | 胴部 | G | 3 | Ⅱ | A | 摩滅 |
| 14−6 | 15−4 | 5区 | SK11 | 4層 | 42.0 | 32.0 | 6.0 | 10.0 | 胴部 | B | 3 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 14−7 | 15−5 | 5区 | SK11 | 9〜12層 | 47.0 | 42.0 | 8.5 | 18.3 | 胴部 | A | 3 | Ⅲ | A | |
| 14−18 | 15−6 | 5区 | SK13 | 4層 | 53.0 | 44.0 | 9.5 | 23.1 | 胴部 | F | 3 | Ⅱ | A | |
| 14−19 | 15−7 | 5区 | SK13 | 4層 | 40.0 | 34.0 | 7.0 | 11.5 | 胴部 | B | 3 | Ⅱ | A | |
| 14−20 | 15−8 | 5区 | SK13 | 4層 | 72.0 | 55.0 | 9.0 | 39.2 | 胴部 | B | 2 | Ⅱ | A | |
| 14−21 | 15−9 | 5区 | SK13 | 5層 | 26.0 | 25.0 | 8.5 | 5.0 | 胴部 | A | 4 | Ⅱ | A | 摩滅 |
| 15−8 | 15−10 | 5区 | SK16 | 1〜6層 | 29.0 | 26.0 | 6.5 | 5.3 | 胴部 | A | 3 | Ⅱ | A | |
| 21−3 | 15−11 | 7区 | SK1 | 7層 | 34.0 | 28.0 | 11.0 | 9.1 | 胴部 | C | 4 | Ⅱ | A | 摩滅 |
| 21−7 | 15−12 | 7区 | SK2 | 10層 | 57.0 | 49.0 | 8.0 | 26.5 | 口縁部 | G | 3 | Ⅱ | A | 凸帯 |
| 21−8 | 15−13 | 7区 | SK2 | 10層 | 36.0 | 34.0 | 8.0 | 10.3 | 胴部 | A | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 21−9 | 15−14 | 7区 | SK2 | 10層 | 28.0 | 24.0 | 8.0 | 5.5 | 胴部 | C | 4 | Ⅱ | A | 摩滅 |
| 21−10 | 15−15 | 7区 | SK2 | 10層 | 29.0 | 23.0 | 6.0 | 5.1 | 胴部 | G | 2 | Ⅱ | A | |
| 21−11 | 15−16 | 7区 | SK2 | 10層 | 33.0 | | 6.5 | 4.3 | 胴部 | (A) | 4 | (Ⅱ) | B | 約1/2欠損 |
| 21−12 | 15−17 | 7区 | SK2 | 10〜11層 | 35.0 | 33.0 | 7.0 | 10.0 | 底部 | A | 3 | Ⅲ | A | 木葉痕 |
| 21−13 | 15−18 | 7区 | SK2 | 10〜11層 | 41.0 | 31.0 | 6.0 | 10.0 | 胴部 | F | 1 | Ⅰ | A | 凸帯 |
| 21−14 | 15−19 | 7区 | SK2 | 12層 | 33.0 | 31.0 | 7.0 | 9.6 | 胴部 | D | 2 | Ⅱ | A | |
| 21−17 | 15−20 | 7区 | SK4 | 6層 | 23.0 | 22.0 | 6.0 | 3.2 | 胴部 | E | 2 | Ⅱ | A | |
| 21−18 | 15−21 | 7区 | SK4 | 6層 | 19.0 | 18.0 | 6.0 | 1.9 | 胴部 | I | 3 | Ⅲ | A | |
| 22−4 | 15−22 | 7区 | SK6 | 1〜6層 | 30.0 | 23.0 | 5.0 | 4.1 | 胴部 | I | 3 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 22−5 | 15−23 | 7区 | SK6 | 12層 | 25.0 | 24.0 | 5.0 | 3.6 | 胴部 | D | 4 | Ⅲ | A | |
| 24−9 | 15−24 | 7区 | SK7 | 1〜3層 | 31.0 | 30.0 | 8.0 | 9.9 | 胴部 | E | 1 | Ⅰ | A | |
| 24−10 | 15−25 | 7区 | SK7 | 1〜3層 | 30.0 | 24.0 | 5.0 | 4.8 | 胴部 | F | 3 | Ⅱ | A | |
| 24−11 | 15−26 | 7区 | SK7 | 1〜3層 | 36.0 | 31.0 | 7.0 | 8.5 | 胴部 | D | 4 | Ⅲ | A | |
| 24−12 | 15−27 | 7区 | SK7 | 6層 | 41.0 | 39.0 | 5.0 | 9.3 | 胴部 | A | 3 | Ⅱ | A | |
| 24−13 | 15−28 | 7区 | SK7 | 6層 | 20.0 | 19.0 | 6.0 | 2.3 | 胴部 | I | 3 | Ⅱ | A | |
| 24−15 | 15−30 | 7区 | SK7 | 6〜8層 | 32.0 | 27.0 | 5.5 | 4.3 | 胴部 | C | 4 | Ⅲ | A | |
| 24−16 | 15−31 | 7区 | SK7 | 6〜8層 | 19.0 | 16.0 | 4.0 | 1.4 | 胴部 | B | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 22−10 | 15−32 | 7区 | SK9 | 10〜19層 | 32.0 | | 10.0 | 11.6 | 胴部 | E | 1 | Ⅰ | B | 刻み凸帯 |
| 22−11 | 15−33 | 7区 | SK9 | 10〜19層 | 31.0 | 28.0 | 7.0 | 7.0 | 胴部 | I | 3 | Ⅱ | A | |
| 22−12 | 15−34 | 7区 | SK9 | 20〜25層 | 45.0 | 35.0 | 6.5 | 12.0 | 胴部 | B | 1 | Ⅰ | A | 凸帯 |
| 22−13 | 15−35 | 7区 | SK9 | 20〜25層 | 25.0 | 24.0 | 7.0 | 4.2 | 胴部 | I | 3 | Ⅲ | A | |
| 26−4 | 15−36 | 8区 | SK2 | 1・2層 | 50.0 | 47.0 | 9.0 | 24.0 | 胴部 | E | 2 | Ⅱ | A | 摩滅 |
| 26−5 | 15−37 | 8区 | SK2 | 3〜6層 | 36.0 | 30.0 | 7.0 | 7.2 | 胴部 | I | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 26−6 | 15−38 | 8区 | SK3 | 上層 | 35.0 | 33.0 | 7.0 | 9.2 | 胴部 | A | 4 | Ⅲ | A | |
| 26−7 | 15−39 | 8区 | SK4 | 1層 | 32.0 | 29.0 | 7.0 | 7.1 | 胴部 | A | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 28−3 | 15−40 | 9区 | SK1 | 2〜6層 | 31.0 | 30.0 | 7.0 | 8.5 | 胴部 | A | 3 | Ⅱ | A | |
| 31−7 | 15−41 | 10区 | SK2 | 11層 | 29.0 | 27.0 | 6.0 | 5.2 | 胴部 | E | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 31−8 | 15−42 | 10区 | SK4 | 10層 | 34.0 | 31.0 | 10.0 | 11.9 | 胴部 | A | 4 | Ⅲ | A | 摩滅 |
| 31−9 | 15−43 | 10区 | SK5 | 20層 | 44.0 | 40.0 | 7.0 | 16.1 | 胴部 | F | 3 | Ⅲ | A | |
| 32−10 | 15−44 | 12区 | 1T | 包含層2 | 30.0 | 30.0 | 6.5 | 7.6 | 胴部 | A | 2 | Ⅱ | A | |
| 11−16 | 15−2 | 5区 | SK9 | 1〜3層 | 50.0 | | 6.0 | 14.4 | 石製品 | (A) | 1 | Ⅰ | B | 一部被熱 |
| 24−14 | 15−29 | 7区 | SK7 | 6〜8層 | 55.0 | 52.0 | 12.0 | 52.5 | 石製品 | A | 1 | Ⅰ | A | |

・平面形態：A 円形　B 楕円形　C 木葉形　D 半円・半楕円形　E 正方形　F 長方形　G 多角形　H 扇形(1/4円)　I 不定形
・研磨状態：1 敲打・剥離のみ　2 部分研磨　3 全面研磨(分割単位・稜残存)　4 全面研磨
・研磨度(側縁部)：Ⅰ 若干　剥離痕残存　Ⅱ 表面平滑(稜残存)　Ⅲ 表面平滑
・遺存度：　A 完形　B 残存 1/2以上　C 残存 1/2未満
※分類は嚮館跡(気仙沼市教育委員会 2016) に拠る

## ４．SX1出土の動物遺存体

宮城県教育庁文化財課　西村　力

⑴ 試料について

試料は SX1内に堆積した貝層・土層から得られたものである。SX1は、調査区南西部に位置する旧い谷地形に堆積した暗褐色土上面で検出された土坑状の落ち込みである。

SX1の堆積土は 5層に分かれ、１～４層が貝を含む混土貝層・混貝土層である。主体となる貝類はアサリ・カキで、骨・遺物はほとんど含まれない。土師器・須恵器・製塩土器などの小破片が僅かに出土しており、時期は古代以降と考えられる。ただし、古代と認定できる遺構は本遺跡では他に検出されていない。

土壌サンプルは１～５層から土嚢袋単位で 11サンプル、他に層位不明のサンプルが 13サンプル採取されている。これらは重量を計量し、４mmメッシュで水洗篩にかけた。

分析対象として各層から１サンプルを選択した。分析率は、１・２層は重量比で全体のそれぞれ 52％と 76％、その他は 100％である（第 10表）。なお、貝類以外の動物遺存体試料は全てのサンプルから抽出したが、ごく僅かである。

⑵ 同定結果

貝類は９分類群を同定した。潮間帯の砂泥底や岩礁に生息する種から構成される。全体でみると最小個体数ではアサリが 85％、マガキが７％、未同定を除いた重量ではアサリが 36％、マガキが 30％を占める。これら２種が主要種で、アサリを主体とする。各層ごとにみてもこの様相に大きな違いはない。主要種のアサリ・マガキは潮間帯の砂底・泥底で採取可能であり、シオフキ・オオノガイも同様の環境に生息する。スガイ・イガイなど岩礁に生息する種はごく少量である。

第 10 表　土壌サンプル試料の内容

| | | 層位 | 1 層 (No.9) | | 2 層 (No.14) | | 3 層 (No.22) | | 4 層 (No.17) | | 5 層 (No.23) | | 計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | サンプル重量 (Kg) | 6.3 | | 13.1 | | 11.8 | | 9.9 | | 9.8 | | - | | |
| | | 分析率 ( 重量比 ) | 52% | | 76% | | 100% | | 100% | | 100% | | 81% | | |
| 種・部位 | | 数量 | 点数 | 重量 (g) | 点数 | 重量 (g) | 点数 | 重量 (g) | 点数 | 重量 (g) | 点数 | 重量 (g) | 点数 | 最小個体数 | 重量 (g) |
| 巻貝 | カサガイ目 Nacellidae sp. | 殻頂 | | | 1 | 0.0 | 2 | 0.1 | | | | | 3 | 3 | 0.1 |
| | スガイ *Turbo cornatuscoreensis* | 殻軸 | | | 10 | 2.1 | 2 | 0.4 | | | | | 12 | 12 | 2.9 |
| | | 蓋 | | | 3 | 0.4 | 1 | 0.1 | | | | | 4 | | |
| | ウミニナ *Batillaria multiformis* | 殻軸 | | | | | 2 | 0.2 | | | | | 2 | 2 | 0.2 |
| 二枚貝 | イガイ *Mytilus coruscus* | L | | | 2 | 1.3 | | | | | | | 2 | 2 | 7.4 |
| | | 破片 | | | - | 4.9 | - | 0.1 | 1 | 0.1 | | | - | | |
| | マガキ *Crassostrea gigas* | L | 3 | 17.2 | 16 | 92.9 | 32 | 109.4 | 24 | 60.8 | | | 75 | 75 | 1344.6 |
| | | R | 3 | 29.3 | 16 | 178.5 | 32 | 175.9 | 5 | 27.5 | | | 56 | | |
| | | 破片 | - | 33.4 | - | 179.8 | - | 268.2 | - | 162.8 | - | 9.1 | - | | |
| | シオフキ *Mactra veneriformis* | L | | | 6 | 4.4 | 3 | 7.3 | | | | | 9 | 11 | 34.7 |
| | | R | 1 | 4.4 | 8 | 14.8 | 2 | 3.9 | | | | | 11 | | |
| | アサリ *Ruditapes philippinarum* | L | 155 | 130.4 | 371 | 313.2 | 277 | 276.0 | 100 | 53.7 | 38 | 22.3 | 941 | 941 | 1604.7 |
| | | R | 147 | 137.0 | 327 | 310.5 | 263 | 276.9 | 97 | 63.5 | 43 | 21.2 | 877 | | |
| | | 破片 | - | | - | | - | | - | | - | | - | | |
| | オオノガイ *Mya arenaria oonogai* | L | 4 | 7.0 | 3 | 1.8 | 1 | 1.3 | | | | | 8 | 8 | 42.8 |
| | | R | 2 | 13.8 | 1 | 0.2 | | | | | | | 3 | | |
| | | 破片 | 2 | 6.0 | - | 12.8 | | | | | | | - | | |
| | 二枚貝種不明 Bivaivia spp. | 殻頂 | | | 30 | 5.6 | | | 18 | 4.5 | 4 | 0.6 | 52 | 52 | 1408.4 |
| | | 破片 | | 187.2 | - | 484.0 | | 500.5 | | 145.9 | | 80.1 | - | | |
| 未同定 | | - | - | 522.0 | - | 496.6 | | | | | | | - | - | 1018.6 |
| | | 計 | 317 | 1087.7 | 794 | 2103.8 | 617 | 1620.9 | 245 | 518.7 | 85 | 133.3 | 2055 | 1106 | 5464.4 |

貝類以外では、４層から種不明の魚鱗１点、２層から種不明大型哺乳類の四肢骨片が４点検出された。

⑶ まとめ

本試料は、ほとんどアサリとマガキから構成されており、その他の貝類は少なく、魚類・哺乳類は極めて稀である。以上から、本試料はおもに潮間帯の砂泥底における貝採取活動およびそれらの廃棄により形成されたと考えられる。

平成 25 年度調査区遠景

5 区遺構検出状況（北から）

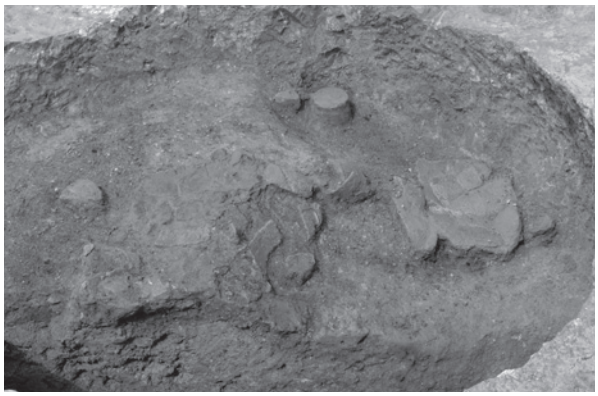
5 区 SB1（南から）

5 区 SB2（南から）

5 区 SK1 断面（東から）

5 区 SK2 断面（南東から）

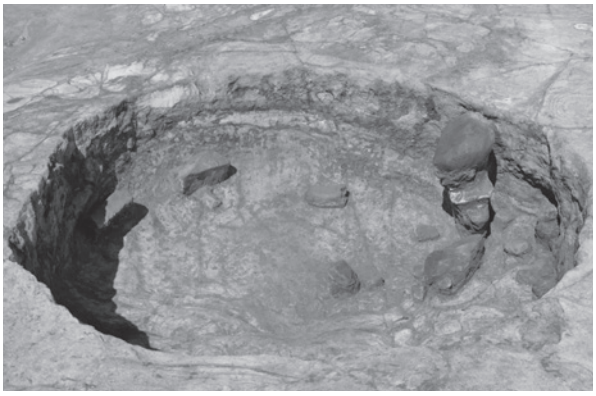
5 区 SK3 断面（東から）



5 区 SK3 遺物出土状況（東から）

写真図版 1　高谷遺跡発掘現場（1）

5 区 SK4 断面（南東から）

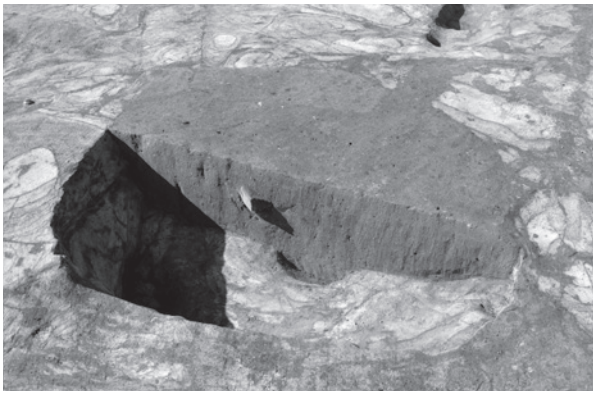


5 区 SK4 礫出土状況（南東から）

5 区 SK5 断面（南西から）

5 区 SK5 遺物出土状況（南西から）

5 区 SK6 断面（南から）



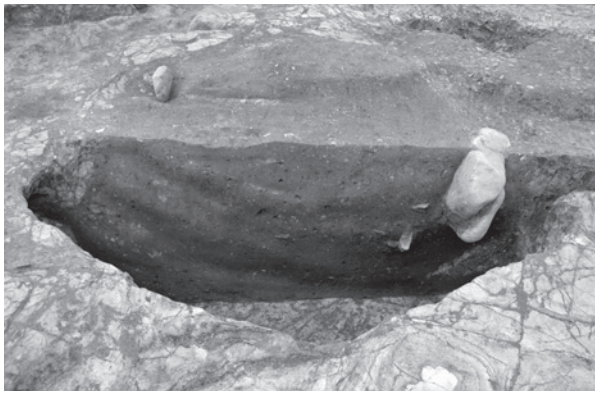
5 区 SK7 断面（南から）

5 区 SK8 断面（南東から）

5 区 SK9 断面（南から）

写真図版 2　高谷遺跡発掘現場（2）

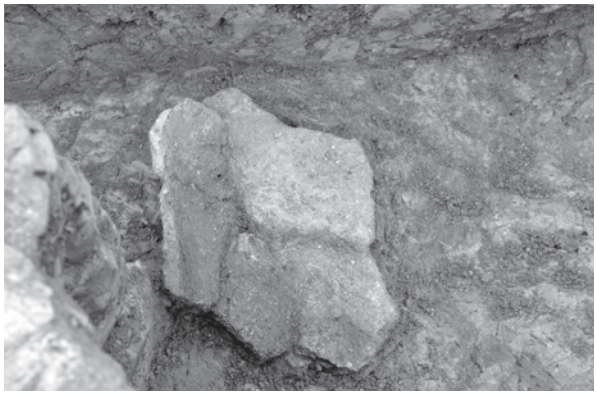
5 区 SK10 断面（西から）



5 区 SK11 断面（東から）

5 区 SK12 断面（西から）

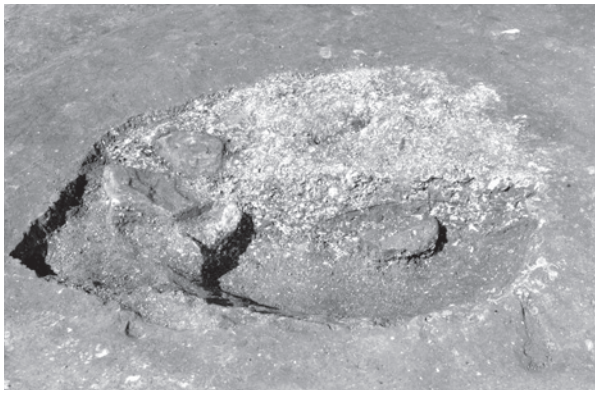
5 区 SK13 断面（東から）



5 区 SK13 遺物出土状況（南から）

5 区 SK14 断面（南から）

5 区 SK15・SK16 断面（東から）

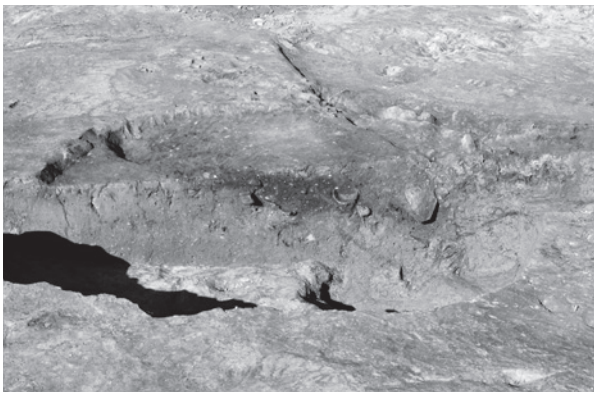


5 区 SX1 断面（東から）

写真図版 3　高谷遺跡発掘現場（3）

5 区遺物包含層検出状況

5 区遺物包含層サブトレンチ断面

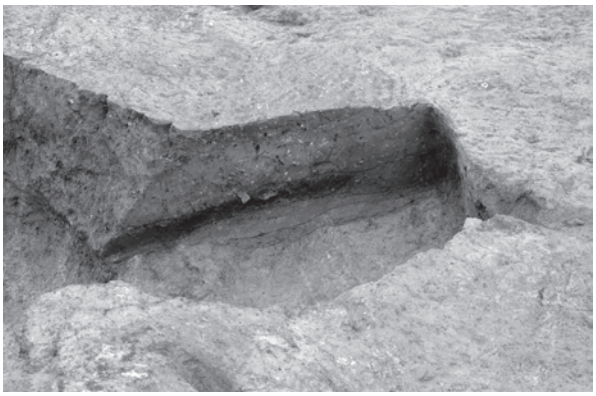


6 区 SK1 断面（南から）

7 区遺構検出状況（北から）

7 区 SK1 断面（南から）

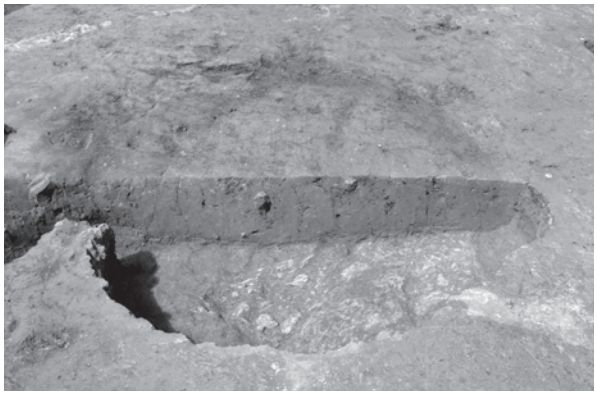
7 区 SK2 断面（東から）



7 区 SK3 断面（東から）

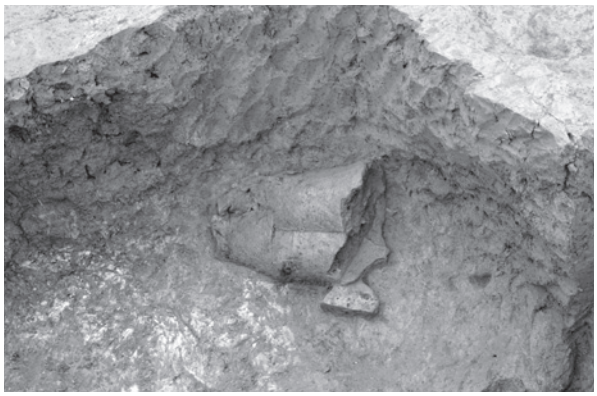
7 区 SK4 断面（南東から）

写真図版 4　高谷遺跡発掘現場（4）



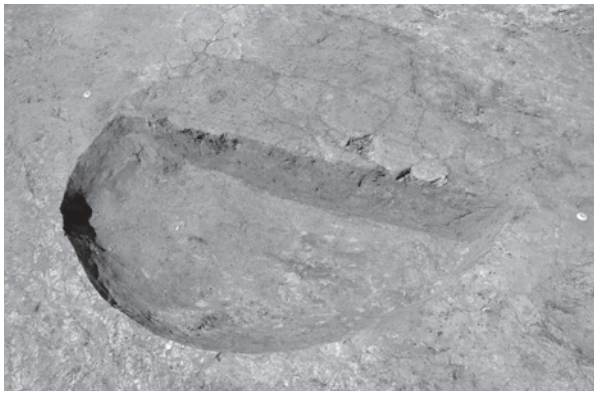
7 区 SK5 断面（南東から）

7 区 SK6 断面（南東から）



7 区 SK6 遺物出土状況（南から）

7 区 SK7 断面（南東から）



7 区 SK8 断面（南から）

7 区 SK9 断面（西から）

7 区 SK9 完掘状況（南から）

8 区全景（北から・手前は 7 区 SK7）

写真図版 5　高谷遺跡発掘現場（5）

8 区 SK1 断面（南から）

8 区 SK2 断面（南から）

8 区 SK3 断面（南から）

8 区 SK4 断面（南から）

8 区 SK4 遺物出土状況（東から）

8 区 SK5 断面（南東から）

9 区 SK1 断面（南から）

10 区全景（北から）

写真図版 6　高谷遺跡発掘現場（6）

10 区 SK1 断面（南から）

10 区 SK2 断面（南東から）

10 区 SK3 断面（南東から）

10 区 SK4 断面（南から）

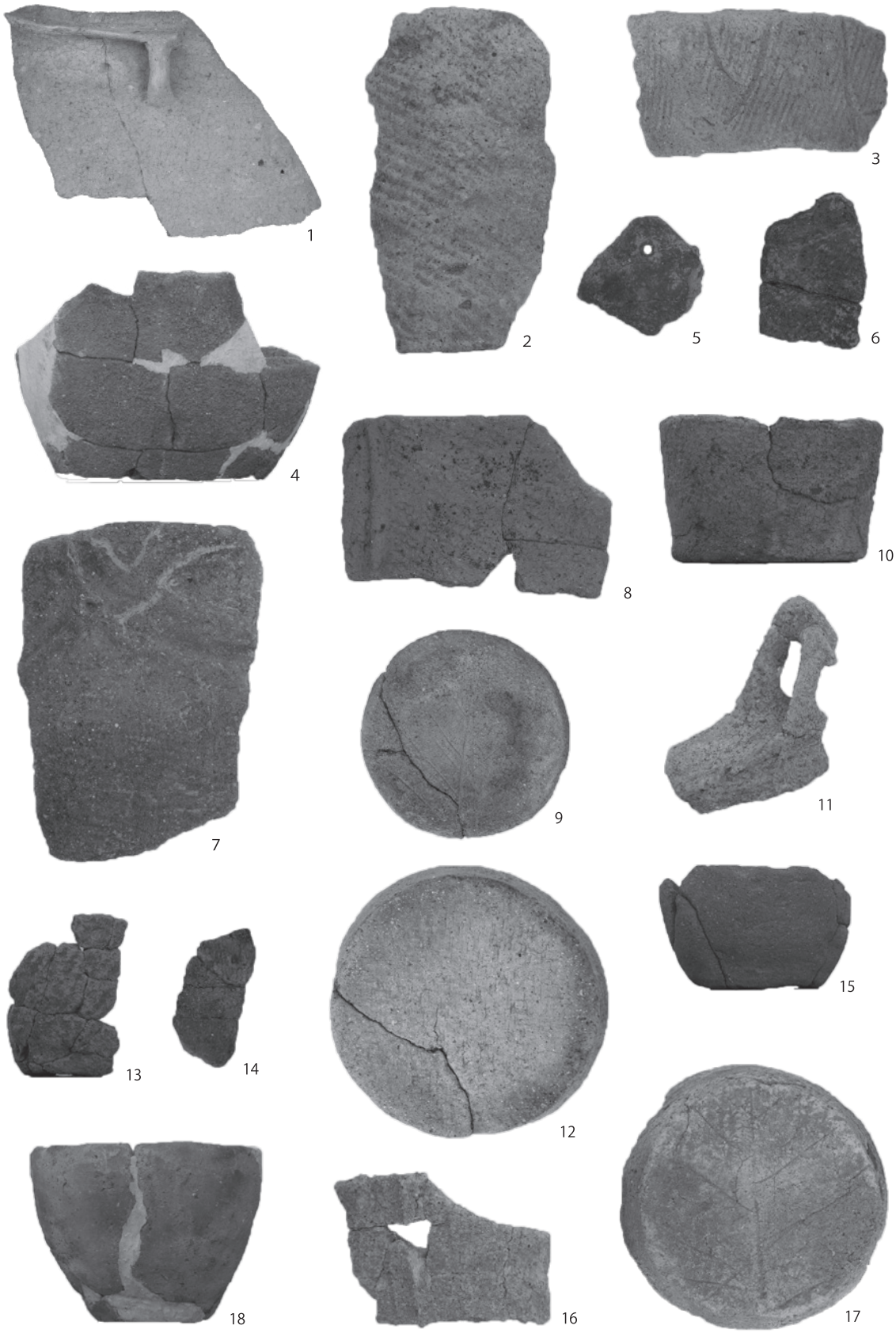
10 区 SK5 断面（南西から）

12 区 1 トレンチ遺物包含層検出状況（西から）

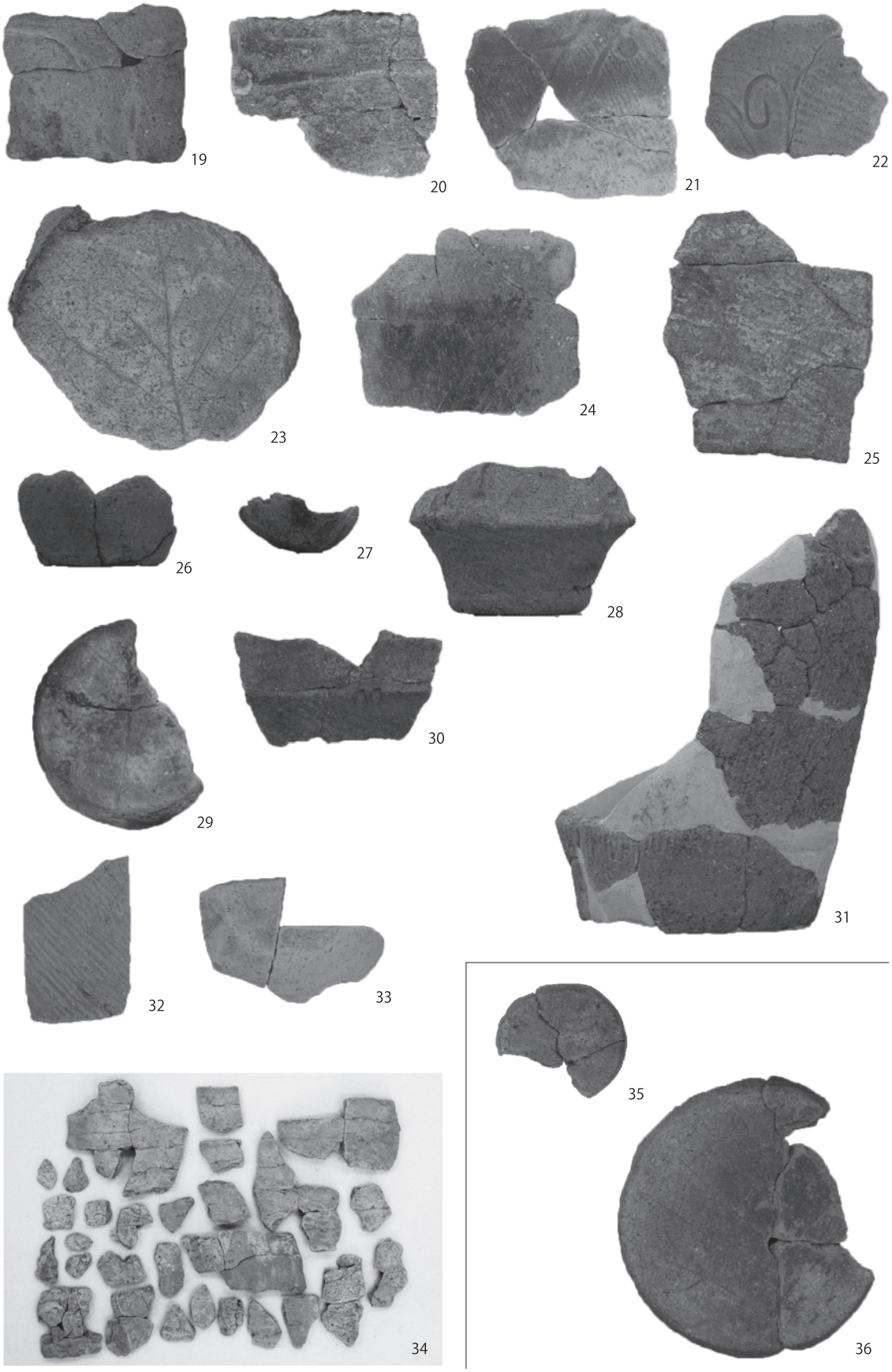
12 区 2 トレンチ遺物包含層検出状況（東から）

調査風景

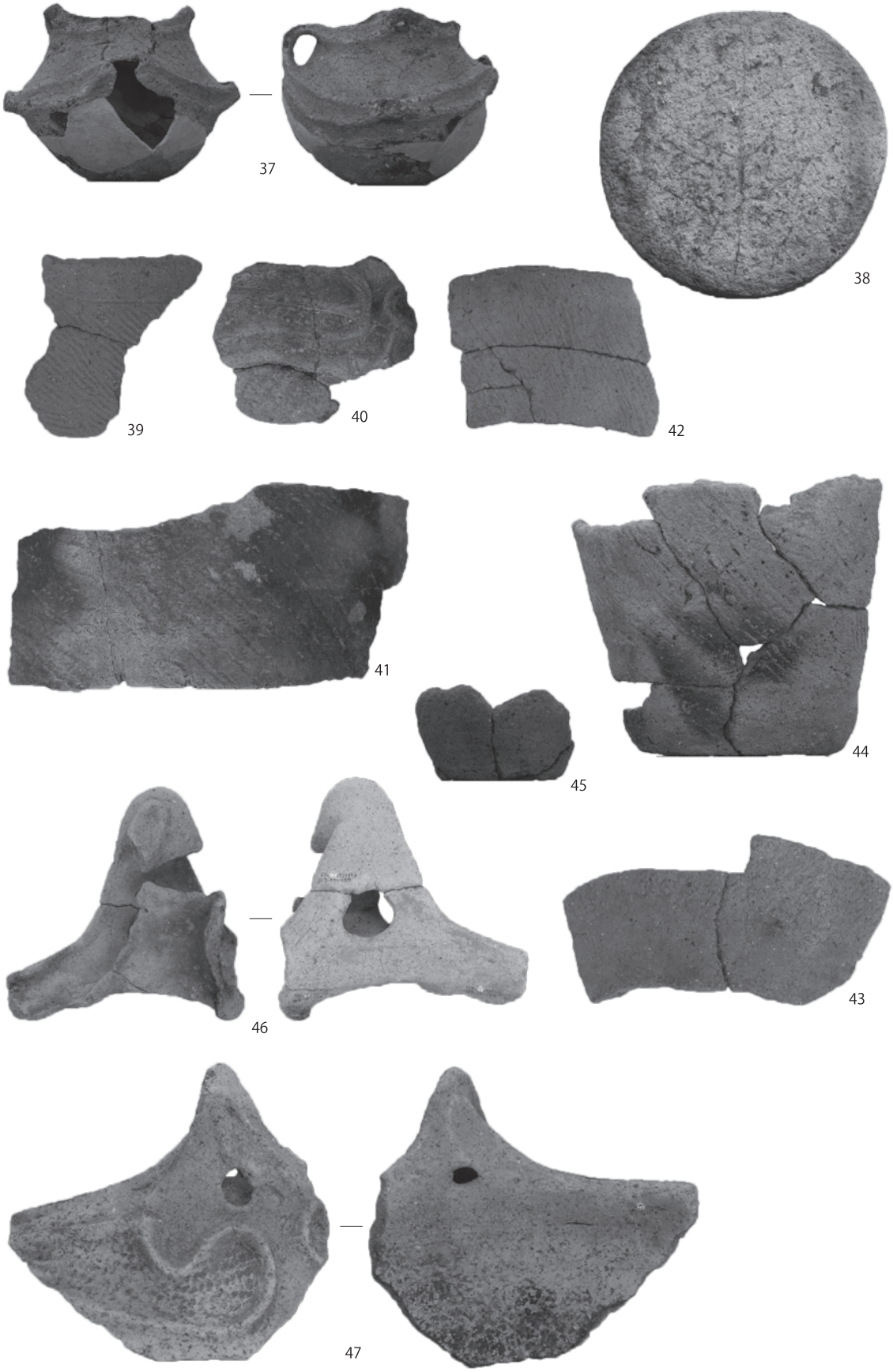
写真図版 7　高谷遺跡発掘現場（7）




写真図版８　高谷遺跡５区出土土器（1）




写真図版９　高谷遺跡５区出土土器（2）・６区出土土器

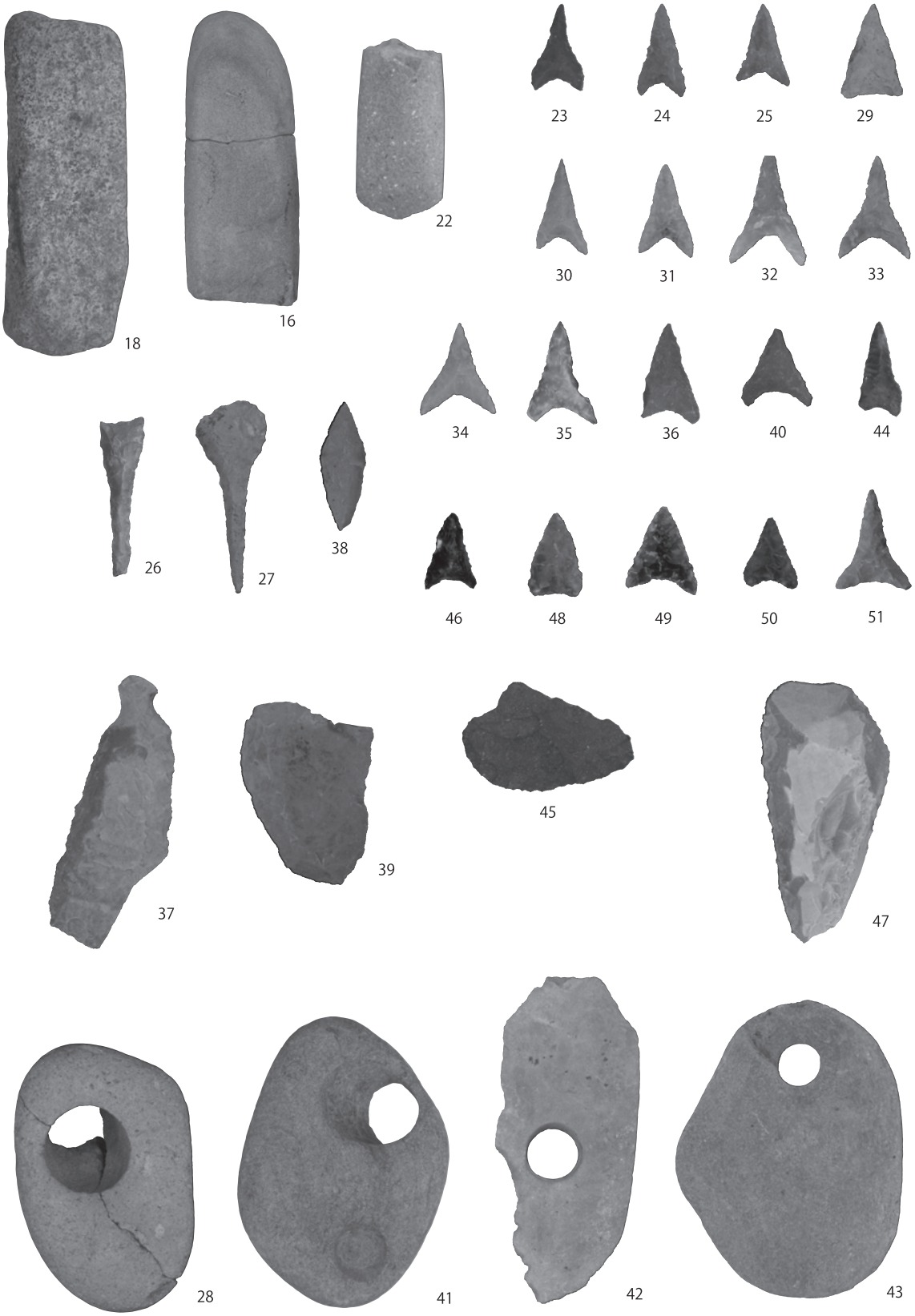



写真図版 10　高谷遺跡 7 区出土土器（1）

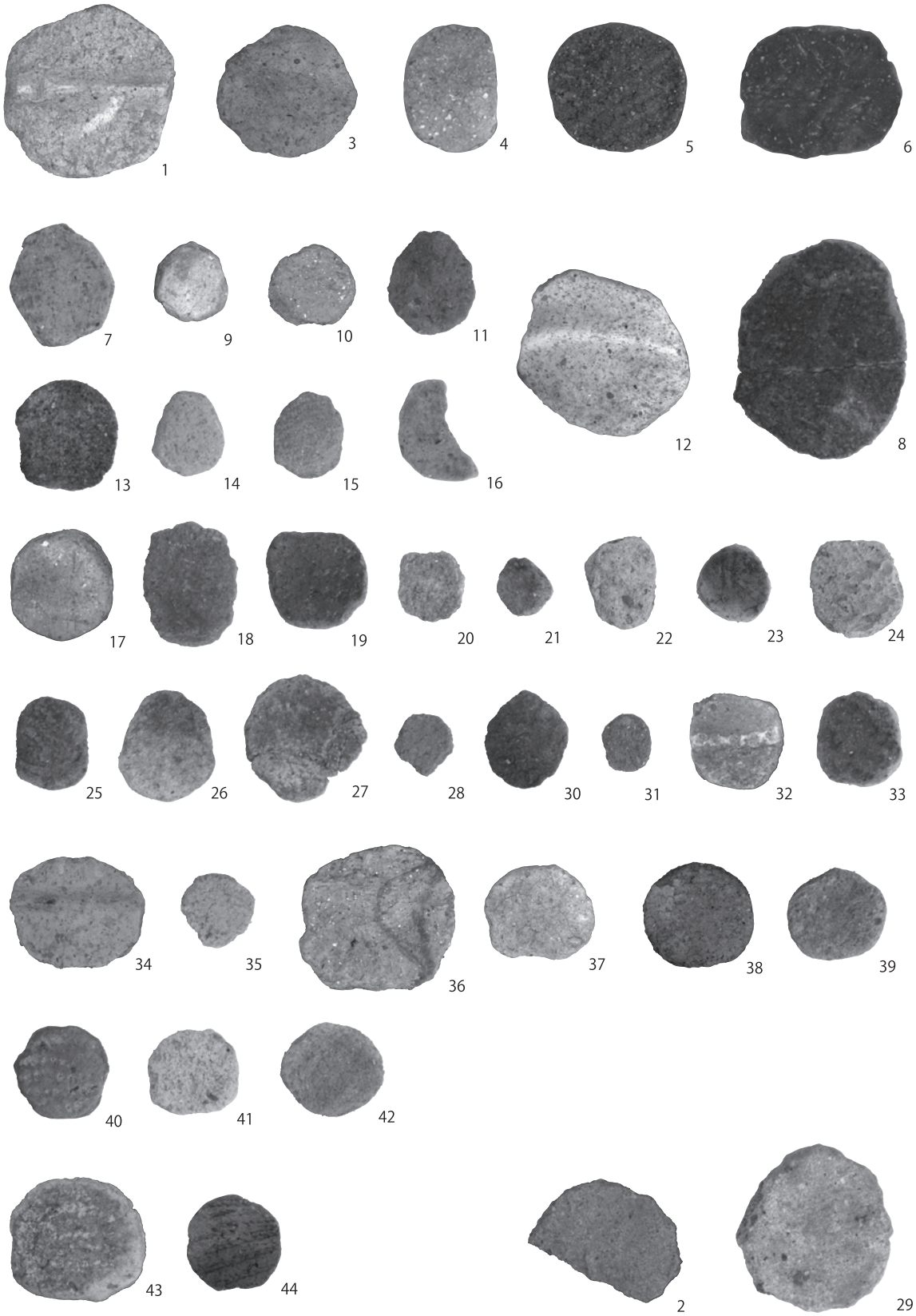
写真図版 11　高谷遺跡 7 区出土土器（2）

写真図版 12　高谷遺跡 8 区・9 区・12 区出土土器

写真図版 13　高谷遺跡出土石器（1）




写真図版 14　高谷遺跡出土石器（2）・石製垂飾品




写真図版 15　高谷遺跡出土円盤状土製品・石製品

# 第３章　田柄貝塚

遺跡名：田柄貝塚

（宮城県遺跡地名表登載番号 59013）

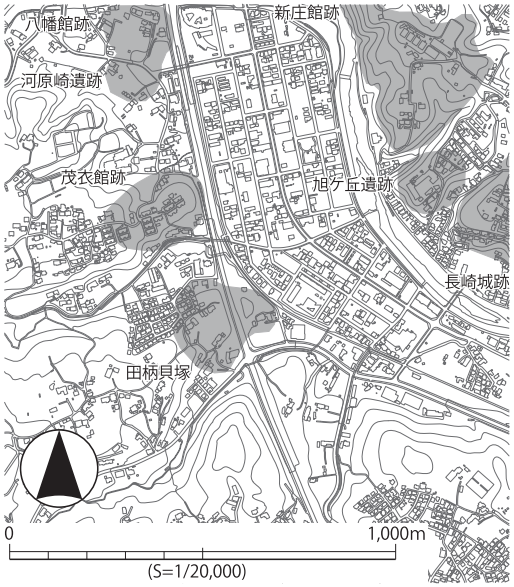
所在地：気仙沼市茗荷沢

調査原因：個人住宅建設

調査期間：平成 25 年 4 月 17 日～ 4 月 22 日

対象面積：227㎡（調査面積：45㎡）

調査員：鈴木 實夫、西園 勝彦




第 35 図　田柄貝塚の位置図

## １．遺跡の概要と調査に至る経過

田柄貝塚は気仙沼市所沢周辺に広がる遺跡で、茗荷沢川と田柄川に挟まれた丘陵の先端近く、現在の海岸線からは約 4 km 内陸部に位置する。

北側斜面に約 700㎡、東・南側斜面にも小規模な貝層が分布することが知られているが、調査地の東側を通る気仙沼バイパス建設工事にあたり、1979（昭和 54）年に宮城県教育委員

第 36 図　田柄貝塚調査位置図

会により南側斜面の貝層を中心に発掘調査が実施された。調査では、２ｍを超える貝層とその下から竪穴住居跡が検出され(宮城県教委ほか 1986)、膨大な出土遺物のうち縄文後期の土器・土製品、石器、骨格牙製品などが国の重要有形文化財（考古資料）に指定されている。

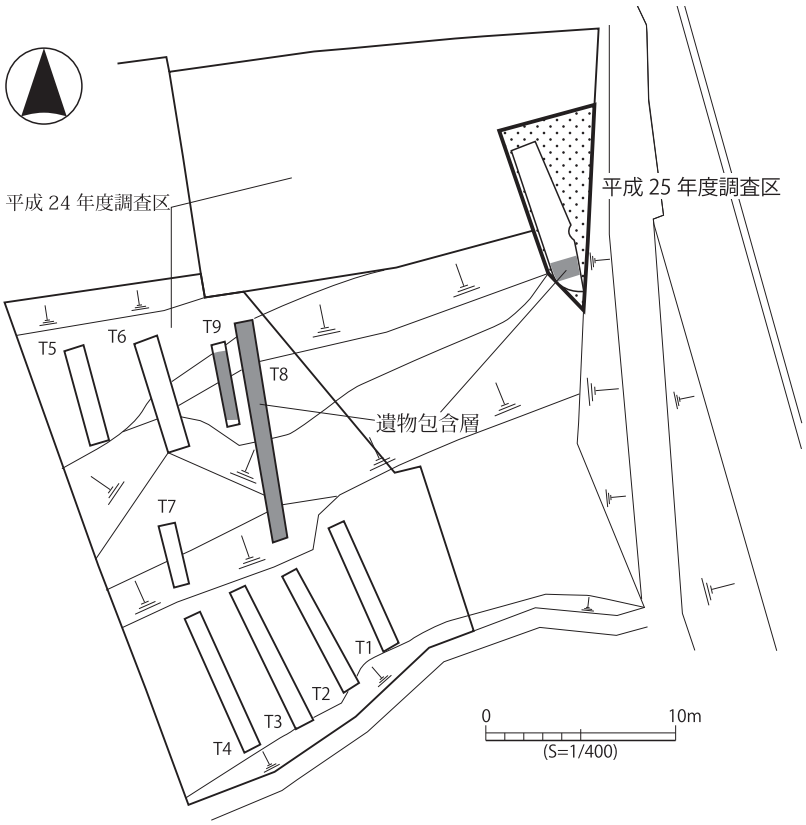
この後も遺跡内で数次にわたって調査が行われており、平成 24 年度に今回の調査地西側で行われた確認調査において、縄文土器や貝を含む遺物包含層の広がりを確認している（気仙沼市教委 2018)。

今回の調査は、遺跡の北端部、気仙沼バイパス西側斜面近くで、東日本大震災被災者の住宅建設工事が計画されたことから、確認のために実施したものである。

## ２．調査の概要

調査対象地は包蔵地の北端近くに位置し、気仙沼バイパス建設工事で削られた斜面の上部にあり、従来知られていた北側斜面の貝層分布地の東側に位置している。調査前の土地利用は畑であった。

確認調査は、当該計画地の地形と建築計画を勘案し、幅２ｍのトレンチ１本を設定し行った（第 37 図)。トレンチの掘削は重機を用いて表土を除去した後、遺物包含層の掘削等は人力により行った。




第 37 図　田柄貝塚調査トレンチ配置図

基本的な層序は、盛土（耕作土）層の直下が人頭大の礫が混じる地山であったが、トレンチ南端で縄文時代の土器片と貝を含有する遺物包含層を検出した。前年度調査も含めてトレンチ内で検出した遺物包含層の範囲は図示したとおりである。いずれも畑等の耕作により階段状に切り盛りされた地形の段端で確認されており、斜面全体に広がっていたものと考えられる。おそらく、耕作等に伴う地形の改変により、遺構や遺物包含層の多くは削平されたのであろう。

なお、調査後の協議の結果、住宅建設に伴う掘削が遺物包含層に及ばないことになったため、確認調査の後は埋め戻し現状保存することとした。

【遺物】

今回の調査では包含層の掘削を極力回避したこともあり、出土遺物の大半は盛土層から検出したもので、総量はコンテナ 1 箱弱であった。その多くが土器の細片であり図示できたものは少ないものの、大半は縄文晩期中葉（大洞 C1 式）から後葉（大洞 A' 式）と考えられる（第 38 図・第 11 表 1 ～ 14）。石器は、扁平な棒状で両面に磨面がある泥岩製と考えられる磨石が 1 点出土している。（第 38 図・第 11 表 15）

## 3．まとめ

調査地は、北側斜面の貝層確認地点に近接していたが、遺物包含層以外に明確な遺構は確認できなかった。しかし、遺物包含層の掘削を避けたなかで数多くの遺物が出土し、田柄貝塚が相当な規模の遺跡であったことを窺い知ることができた。近年の耕作や開発等によって貝層や遺物包含層の一部が失われたものの、周辺に遺跡が広がっていたことが想像できる。今後、既往調査の成果も含めた詳細な分析を期待したい。

※平成 24 年度調査で確認した遺物包含層は、既報告書の図版において 5 トレンチ、6 トレンチにまたがる形で描かれているが、文中では 8 トレンチ、9 トレンチにまたがっているとの記載があった。本報告書をまとめる際に再確認したところ、前項に記載した通り 8 トレンチ、9 トレンチであったことを追記しておく。

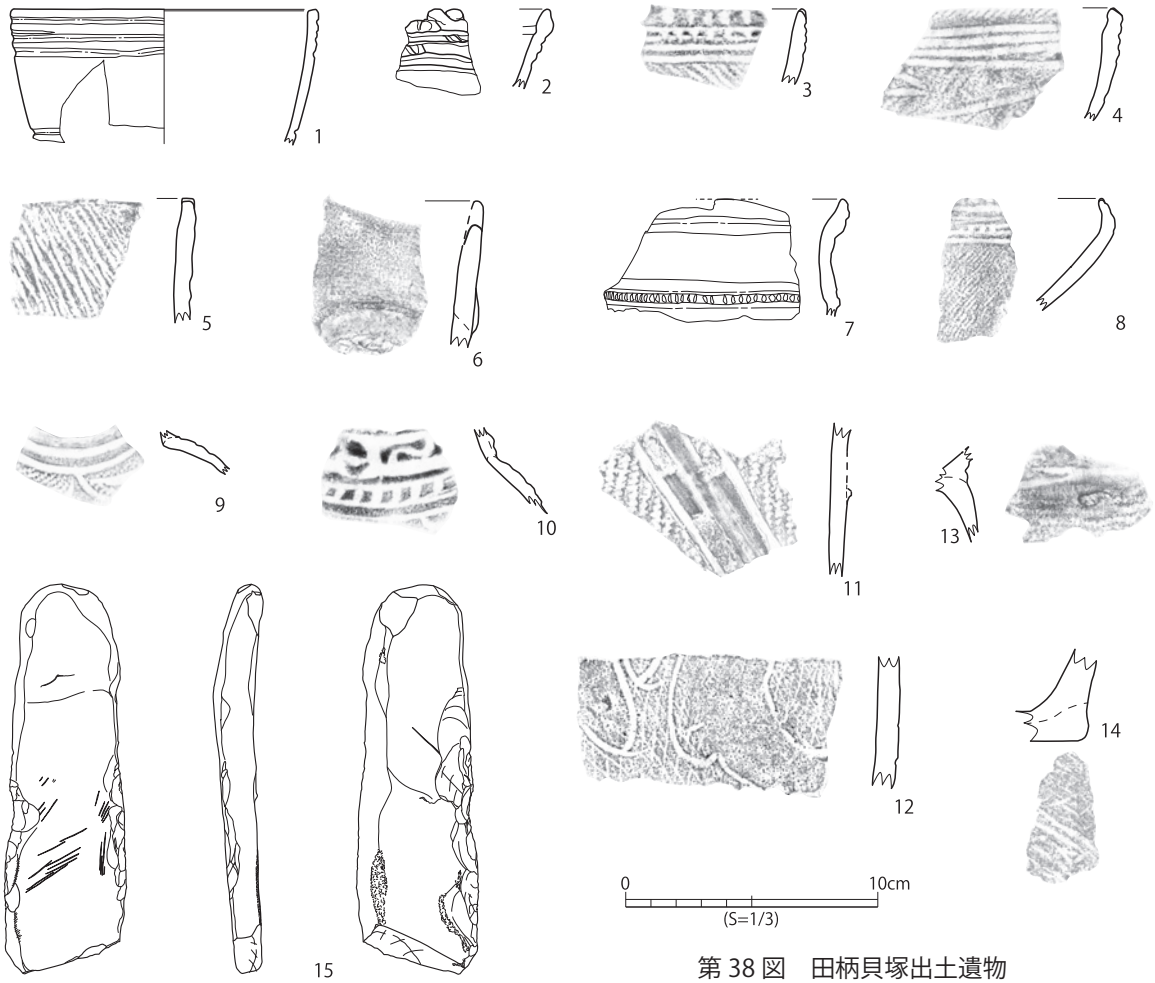
調査地全景（調査前）

トレンチ全景（南から）

包含層検出状況（南東から）

調査風景

写真図版 16　田柄貝塚発掘現場



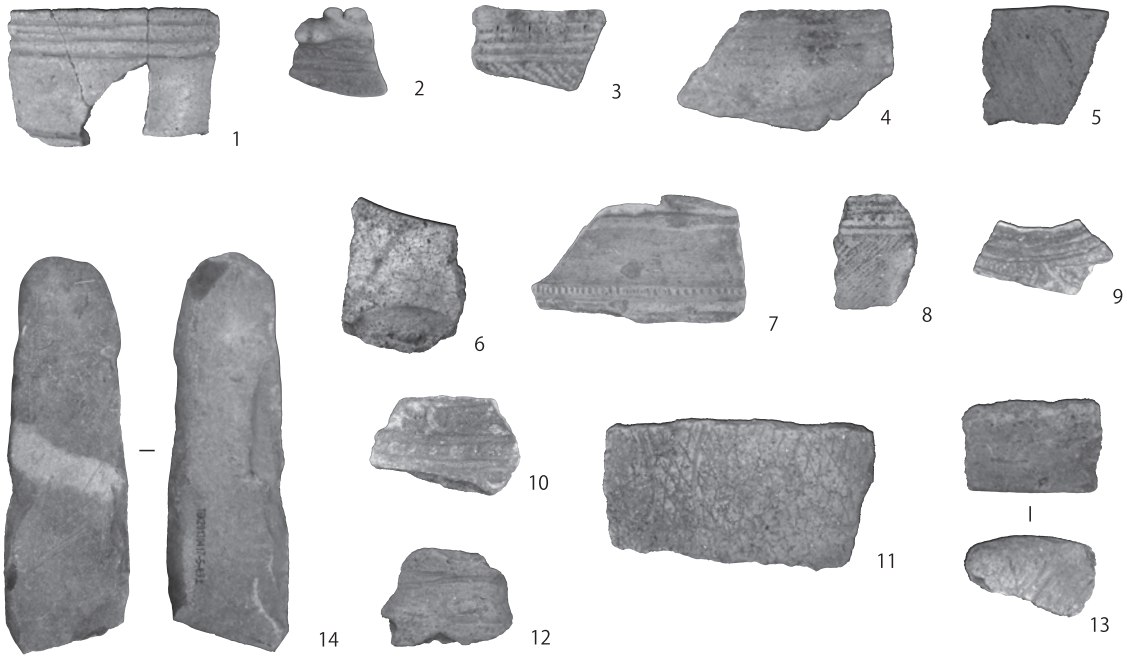

第 38 図　田柄貝塚出土遺物

第 11 表　田柄貝塚出土遺物観察表（図示資料）

| 図版番号 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | 時代 | 特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ― | ― | 盛土 | 深鉢 | 〈12.0〉 | ― | （5.4） | 弥生？ | 口縁～体部、平行沈線 |
| 2 | ― | ― | 盛土 | 浅鉢 | ― | ― | （3.4） | 晩期 | 口縁部、突起文・沈線 |
| 3 | ― | ― | 盛土 | 深鉢 | ― | ― | （2.8） | 晩期 | 口縁部、沈線・キザミ・刺突文・縄文（RL） |
| 4 | ― | ― | 盛土 | 深鉢 | ― | ― | （4.6） | 晩期 | 口縁部、キザミ |
| 5 | ― | ― | 表土 | 深鉢 | ― | ― | （4.9） | 晩期？ | 口縁部、撚糸文・内面ミガキ |
| 6 | ― | 包含層 | ― | 深鉢 | ― | ― | （5.8） | 後期？ | 口縁部、隆線文・縄文（LR） |
| 7 | ― | ― | 盛土 | 深鉢 | ― | ― | （4.4） | 晩期 | 口縁部、沈線・キザミ・縄文（LR?） |
| 8 | ― | ― | 盛土 | 浅鉢 | ― | ― | （4.4） | 晩期 | 口縁部、沈線・キザミ・縄文（LR） |
| 9 | ― | ― | 盛土 | 壺 | ― | ― | （1.7） | 晩期 | 肩部、沈線・縄文（LR）・ミガキ |
| 10 | ― | ― | 盛土 | 壺 | ― | ― | （3.4） | 晩期 | 肩部、突起文・C 字文・キザミ・沈線 |
| 11 | ― | ― | 盛土 | 深鉢 | ― | ― | （7.2） | 晩期？ | 胴部、隆線文・沈線文 |
| 12 | ― | ― | 表土 | 深鉢？ | ― | ― | （5.0） | 晩期？ | 胴部、網目状撚文・沈線文 |
| 13 | ― | ― | 盛土 | 台付鉢？ | ― | ― | （3.5） | 晩期？ | 脚部、縄文（LR?）・沈線 |
| 14 | ― | ― | 盛土 | 鉢？ | ― | ― | （3.7） | 晩期？ | 底部、木葉痕 |

〈　〉：推計値　（　）：残存値

| 図版番号 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量（g） | 特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | ― | ― | 盛土 | 磨石 | 15.5 | 4.9 | 1.6 | 214 | 凝灰岩?、扁平な棒状、両面に磨面あり |




写真図版 17　田柄貝塚出土遺物

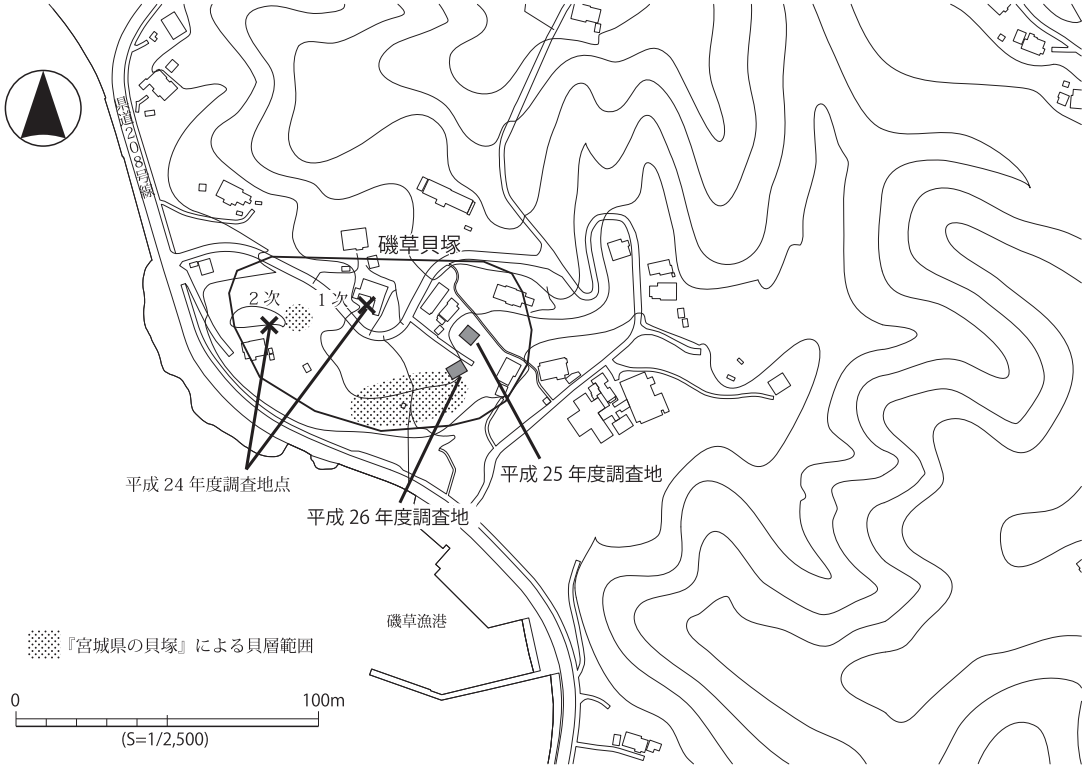
# 第４章　磯草貝塚

遺跡名：磯草貝塚
　　（宮城県遺跡地名表登載番号 59001）
所在地：気仙沼市磯草
調査原因：平成 25 年度調査：個人住宅建設
　　平成 26 年度調査：個人住宅建設
調査期間：平成 25 年８月 21 日
　　平成 26 年６月 17 日・６月 18 日
対象面積：平成 25 年度：817.58㎡
　　平成 26 年度：555.4㎡
調査面積：平成 25 年度：35㎡
　　平成 26 年度：103㎡
調査員：平成 25 年度：鈴木 實夫、西園 勝彦
　　平成 26 年度：鈴木 實夫、野﨑 進

第 39 図　磯草貝塚の位置図

## １．遺跡の概要と調査に至る経過

磯草貝塚は気仙沼市唐桑半島と海峡をはさんで位置する大島の北西部にあり、気仙沼湾を



第 40 図　磯草貝塚調査地位置図

望む標高 10 ～ 20 mの丘陵南西斜面上に位置している。遺跡の北西から中央に向かって谷が入る地形となっている（第 40 図）。

昭和 37（1962）年、宮城県鼎が浦高等学校社会班による発掘調査で、アサリ・レイシガイなどを主体とする縄文時代前期末から中期初頭の貝層が確認され、周辺の遺物包含層からは縄文時代前期初頭から後葉、中期中葉、晩期末の遺物が出土している（鼎が浦高等学校 1965）。また、昭和 43（1968）年 1 月に市指定史跡となっている。

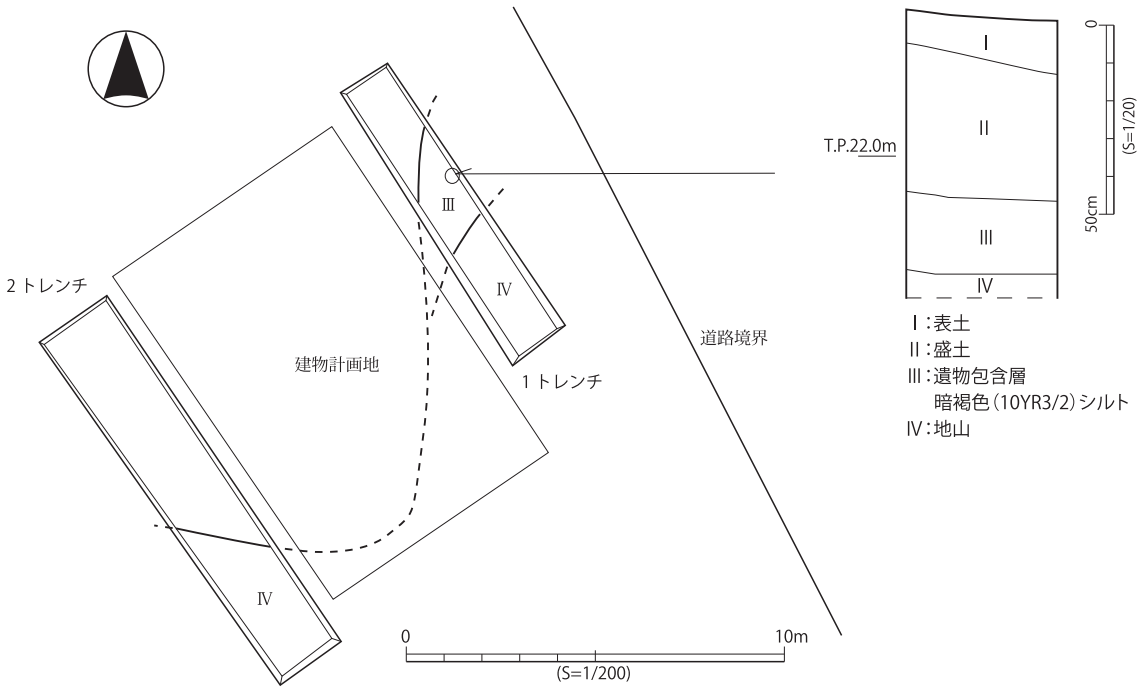
近年では、平成 24 年度に個人住宅建設（震災復興関連）に伴う調査が 2 次にわたって実施され、遺物包含層及び貝層が検出されている。調査で出土した縄文土器の多くは前期～中期の土器で、ほとんどが深鉢である。その他、土偶等の土製品、石器・石製品、骨角器も出土している。調査の結果、従来想定されていた範囲より外側にも貝層が存在することが判明している（気仙沼市教委 2017）。

本章では、平成 25 年と平成 26 年に、東日本大震災被災者の個人住宅建設工事が計画されたことに伴う調査結果を報告する。

前者については、平成 25 年 6 月に東日本大震災被災者の個人住宅建設工事にかかわる協議書が提出され、その場所が周知の埋蔵文化財包蔵地である磯草貝塚内であることから事業者との協議を行い、同年 8 月に確認調査を実施した。後者も同事由により、平成 26 年 4 月に協議書が提出され、同年 6 月に確認調査を実施した。

## 2．調査の概要

平成 25 年の調査地は平成 24 年度に行った第 1 次確認調査地点の南東約 100 mに位置し、




第 41 図　平成 25 年度調査トレンチ配置図

調査前の土地利用は宅地及び畑地である。

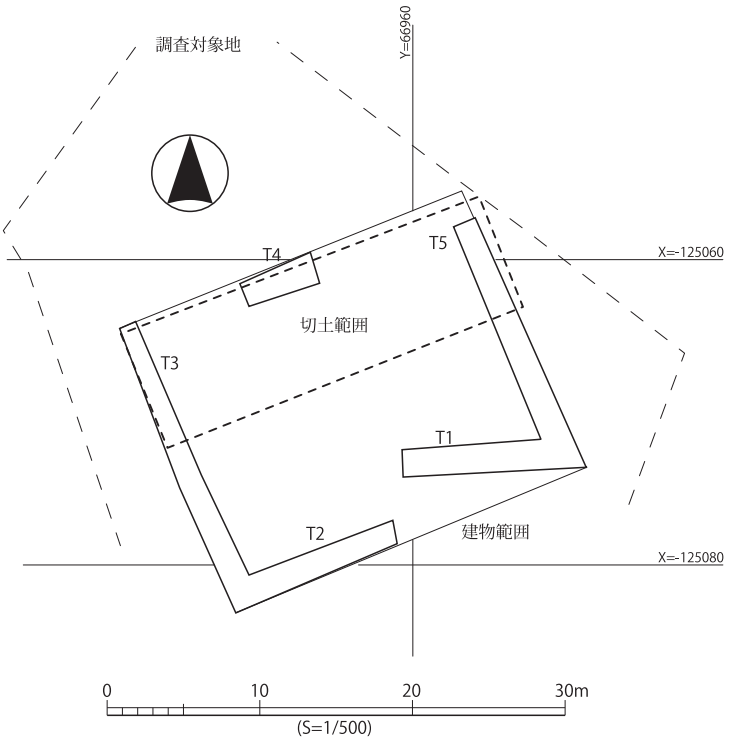
現在の地表面から約 60cm の深さで建物の基礎工事が行われることから、計画地の北東部・南西部に幅約 2 mのトレンチを計 2 本設定し確認調査を実施した（第 41 図）。トレンチの掘削は、重機により表土掘削の後、包含層掘削、遺構面精査等について人力で作業を行った。

トレンチ内の基本的な層序は、盛土、旧耕作土の下に礫が混じる地山であるが、北東側に設定した 1 トレンチの中央で約 20cm 厚の遺物包含層を認めた。遺物包含層から縄文時代の土器片が出土したが、計画の基礎工事はこの深さまで及ばないことから、確認調査後は埋め戻し、現状保存することとした。

調査で出土した遺物は、表土中の遺物も含めた総量でコンテナ 1 箱で、縄文土器片十数点のほかチャートと思われる剥片 1 点であったが、すべて細片で図示し得なかった。

平成 26 年度の調査地は 25 年度調査地点の西側に道路をはさんで隣接する畑地で、造成工事が予定されていることから、範囲内に幅約 1 mのトレンチ 5 本を設定し確認調査を行った（第 42 図）。

調査の結果、遺構は全く検出されなかった。おそらく耕作地として造成された際に削平されたものと考えられる。なお、表土から土器細片数点のほか銭貨（寛永通宝）1 点を検出していることから、江戸時代以降に削平されたと考えられる。




第 42 図　平成 26 年度調査トレンチ配置図

## 3．まとめ

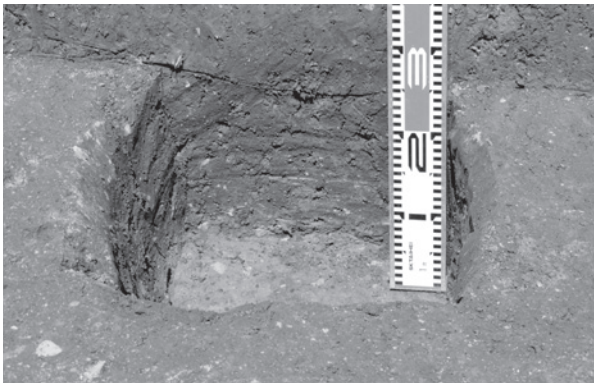
平成 25 年度・26 年度のいずれの調査地も『宮城県の貝塚』（東北歴史資料館 1989）で図示された貝層範囲の縁辺部にあることから成果が期待された。しかし、平成 25 年の調査では遺物包含層の存在を確認できたものの、その範囲は狭隘であった。平成 26 年の調査地は、さらに貝層範囲に近いにもかかわらず、貝層も遺物包含層も確認できなかった。

調査地周辺は、民家や畑地などに利用する際に段造成されていることが多く、遺跡は断片的に遺存しているものと想定されるが、詳細については今後の調査成果に期待したい。

平成 25 年度調査地全景（調査前）

平成 25 年度調査 1 トレンチ全景（南東から）

平成 25 年度調査 2 トレンチ全景（南東から）



平成 25 年度調査 1 トレンチ遺物包含層断面

平成 26 年度調査 1 トレンチ（西から）

平成 26 年度調査 2 トレンチ（西から）

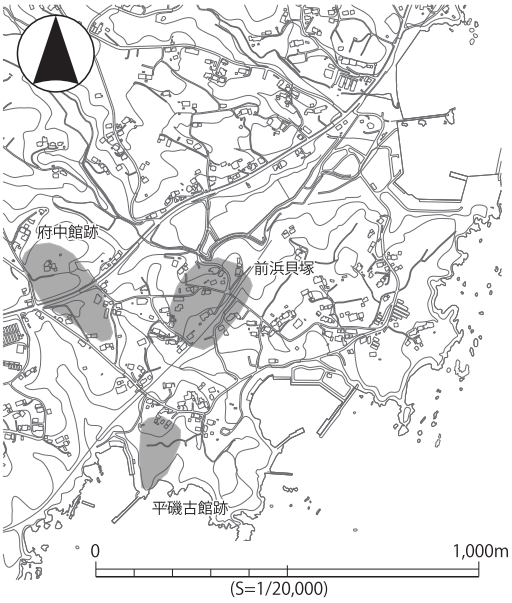
平成 26 年度調査 3 トレンチ（北から）

平成 26 年度調査 5 トレンチ（北から）

写真図版 18　磯草貝塚発掘現場

# 第５章　前浜貝塚

遺跡名：前浜貝塚
　　（宮城県遺跡地名表登載番号 62040）
所在地：気仙沼市本吉町前浜
調査原因：個人住宅建設
調査主体：気仙沼市教育委員会
調査期間：平成 26 年 8 月 21 日
調査員：昆野 賢一、野﨑 進
対象面積：707.00㎡
調査面積：62.0㎡

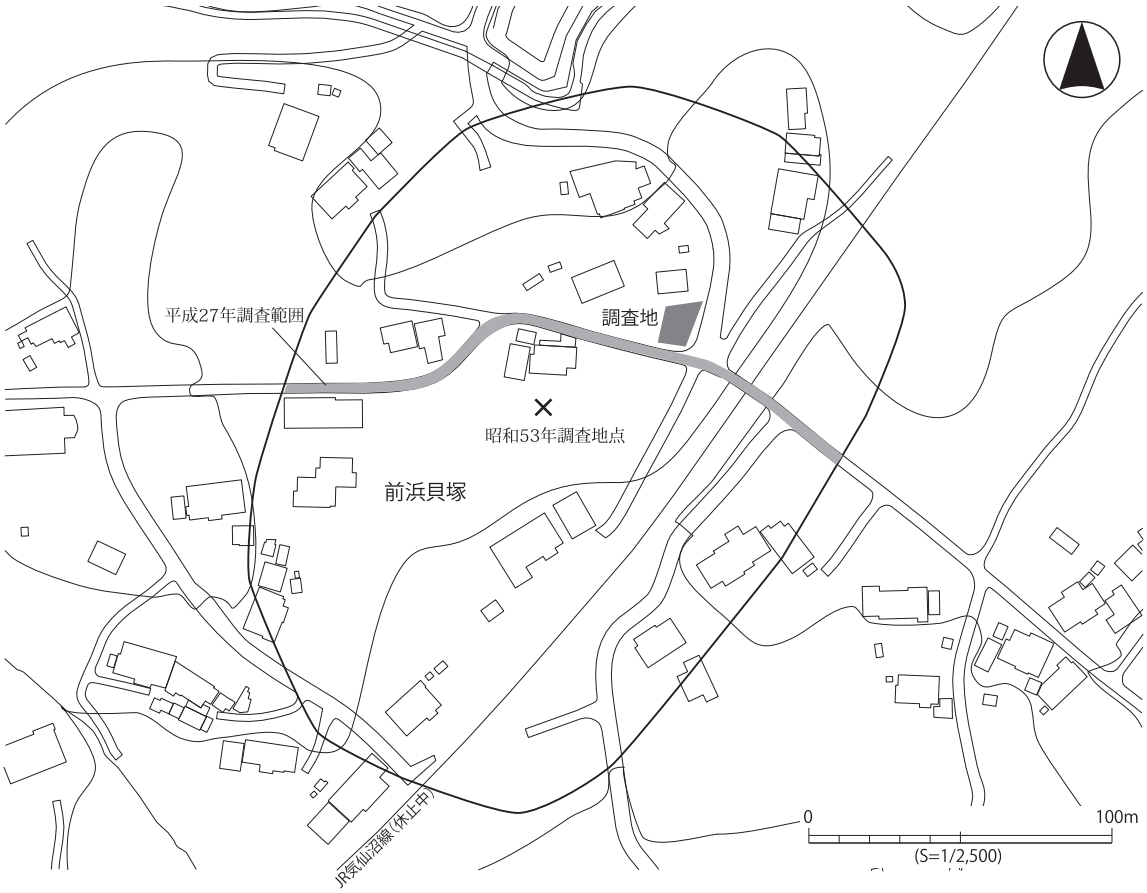


第 43 図　前浜貝塚の位置図

## １．遺跡の概要と調査に至る経過

前浜貝塚は気仙沼市本吉町前浜に所在し、前浜漁港から内陸約 500 mの南向きに緩やかに傾斜する台地上に位置する。

昭和 53（1978）年に本吉町教育委員会の調査において、貝層から縄文後期から晩期の土器、

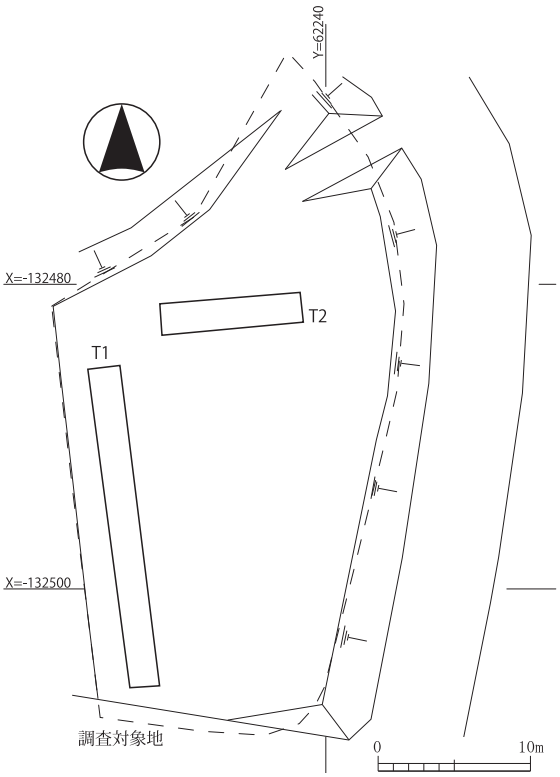


第 44 図　前浜貝塚調査地位置図

石器、獣骨とともに人骨が検出された（本吉町教委 1979）。昭和 55（1980）年には本吉町指定史跡（市町合併により現在は気仙沼市指定史跡）となっている。

近年も個人住宅建設等に伴う調査が行われているが、遺構・遺物は検出されていない。

今回の調査は、平成 26 年 2 月に、東日本大震災被災者の個人住宅建設工事にかかわる協議書が提出され、その場所が周知の埋蔵文化財包蔵地である前浜貝塚内に位置することから、事業者との協議を行い、同年 5 月 8 日に確認調査を実施したものである。




第 45 図　前浜貝塚調査トレンチ配置図

## 2．調査の概要

調査地は、前浜漁港から北西約 300 m、標高 22 mから 26 mの丘陵上にあり、昭和 53 年の調査で貝層が確認された地点から北東約 50 mに位置している（第 44 図）。

調査地点は南から北に向いてなだらかに傾斜する区画の一部で、敷地内に 2 本のトレンチを設定し確認調査を実施した（第 45 図）。

2 トレンチ及び 1 トレンチの北半は計画建物の基礎深度まで盛土であったが、南側では表土下約 10cm で地山を検出している。おそらく、造成時に傾斜地上部を削平し、その土砂で下部を盛土したものと考えられる。

写真図版 19　前浜貝塚 2 トレンチ（東から）

盛土の上層で遺物の包含を認めたが、層序から見て造成時の盛土に混入したものと考えられる。

遺構は検出されていない。

【遺物】

遺物はすべて盛土内からのもので、その総量はコンテナ 1 箱に満たない。土器類の大半は細片で摩耗が著しく、深鉢底部と考えられる 2 点のみ図化し得えたが、いずれも時期等詳細は不明である（第 46 図・第 12 表）。その他、石器類では頁岩の剥片 1 点が出土している。

## ３．まとめ

近年の調査は狭い範囲での調査であったこともあるが、昭和 53 年の調査以外に遺跡の規模や性格を知ることができるような成果はほとんどなかった。今回の調査では、遺構は確認できなかったが盛土内から少量とはいえ遺物を確認できたことは、遺跡の範囲や性格を知る上で多少なりとも参考となる成果といえる。今後、調査成果を踏まえながら遺跡の性格等が明らかになることが期待される。

第 46 図　前浜貝塚出土遺物

第 12 表　前浜貝塚出土土器観察表

| 図版番号 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 型式 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | 特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | － | － | 盛土 | 深鉢？ | ？ | － | 〈7.5〉 | (2.5) | 摩滅 |
| 2 | － | － | 盛土 | 深鉢？ | ？ | － | 〈6.0〉 | (1.2) | 摩滅 |

〈　〉：推計値　（　）：残存値

参考・引用文献（第１～６章）

宮城県鼎が浦高等学校社会班（1965）：『気仙沼周辺遺跡の概要及び大島磯草貝塚・大浦浦島貝塚発掘調査報告』

本吉町教育委員会（1979）：『前浜貝塚』本吉町文化財調査報告書第２集

本吉町（1982）：『本吉町誌』

宮城県教育委員会・建設省東北地方建設局（1986）：『田柄貝塚Ⅰ　遺構・土器編』宮城県文化財調査報告書第 111 集

気仙沼市（1988）：『気仙沼市史Ⅱ　先史・古代・中世編』

東北歴史資料館（1989）：『宮城県の貝塚』東北歴史資料館資料集第 25 集

宮城県教育委員会・宮城県土木部（2003）：『嘉倉貝塚』宮城県文化財調査報告書第 192 集

気仙沼市教育委員会（2016）：『嚮館跡－防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大谷地区）に伴う発掘調査報告書』

気仙沼市教育委員会（2017）：『気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１－平成 24 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査』

気仙沼市教育委員会（2018）：『気仙沼市内発掘調査報告書２－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－（平成 26 ～ 28 年度）』

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | けせんぬまししんさいふっこうかんれんいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書　　名 | 気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書３ |
| 副　書　名 | 平成 25・26 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査 |
| シリーズ名 | 気仙沼市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 16 |
| 編 著 者 名 | 森 千可子・青木 昭和・西村 力 |
| 編 集 機 関 | 気仙沼市教育委員会 |
| 所　在　地 | 〒988-8502　気仙沼市魚市場前１番１号　TEL 0226-22-3442 |
| 発行年月日 | 令和２（2020）年３月 31 日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 世界測地系 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| たかやいせき<br>高谷遺跡 | けせんぬまし<br>気仙沼市<br>まつざきたかや<br>松崎高谷 | 042056 | 59109 | 38°<br>52′<br>10″ | 141°<br>34′<br>36″ | 〈５区〉<br>2013.8.6 ～ 11.22<br>〈６区・10 区〉<br>2013.9.20 ～ 11.8<br>〈７区〉<br>2013.8.6 ～ 9.10<br>〈８区・９区〉<br>2013.10.10 ～ 11.21<br>〈12 区〉<br>2013.8.6 ～ 8.9 | 〈５区〉<br>490㎡<br>〈６区・10 区〉<br>240㎡<br>〈７区〉<br>222㎡<br>〈８区・９区〉<br>120㎡<br>〈12 区〉<br>128㎡ | 個人住宅・<br>私道建設 |
| たがらかいづか<br>田柄貝塚 | けせんぬまし<br>気仙沼市<br>みょうがさわ<br>茗荷沢 | 042056 | 59013 | 38°<br>54′<br>11″ | 141°<br>32′<br>56″ | 2013.4.17 ～ 4.22 | 45㎡ | 個人住宅建設 |
| いそくさかいづか<br>磯草貝塚 | けせんぬまし<br>気仙沼市<br>いそくさ<br>磯草 | 042056 | 59001 | 38°<br>52′<br>15″ | 141°<br>36′<br>15″ | (2013 年度調査)<br>2013.8.21<br>(2014 年度調査)<br>2014.6.17 ～ 18 | (2013 年度調査)<br>35㎡<br>(2014 年度調査)<br>103㎡ | 個人住宅建設 |
| まえはまかいづか<br>前浜貝塚 | けせんぬまし<br>気仙沼市<br>もとよしちょうまえはま<br>本吉町前浜 | 042056 | 62040 | 38°<br>48′<br>15″ | 141°<br>32′<br>59″ | 2014.5.8 | 62㎡ | 個人住宅建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高谷遺跡 | 散布地 | 縄文時代<br>奈良・平安時代 | 土坑、掘立柱建物、ピット | 縄文土器、土製品、石器、動物遺存体、土師器 | |
| 田柄貝塚 | 貝　塚 | 縄文時代・弥生時代 | 遺物包含層 | 縄文土器、石器、弥生土器 | |
| 磯草貝塚 | 貝　塚 | 縄文時代 | 遺物包含層 | 縄文土器、近世銭貨 | |
| 前浜貝塚 | 貝　塚 | 縄文時代 | | 縄文土器 | 遺構検出なし |

| | |
|---|---|
| 要　　約 | 高谷遺跡では、形状から貯蔵穴と思われる縄文時代中期から後期にかけての土坑群が検出された。遺物では縄文土器・石器のほか、貝を伴う遺物包含層から平安時代の土師器・製塩土器が出土した。<br>田柄貝塚では遺物包含層から縄文時代晩期から弥生時代にかけての土器・石器が出土した。<br>磯草貝塚では遺物包含層を検出し、縄文土器が出土した。<br>前浜貝塚では遺構は検出されなかったが、縄文土器が出土した。 |

気仙沼市文化財調査報告書第16集

# 気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書3

平成25・26年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査

発　行　日　2020年3月31日
編集・発行　気仙沼市教育委員会
〒988-8502　宮城県気仙沼市魚市場前1番1号
印　　刷　双葉印刷株式会社
〒988-0866　宮城県気仙沼市内松川41番地1号
TEL　0226-25-8215